平成２９年度

全国学力・学習状況調査結果について

平成２９年９月

山口県教育庁義務教育課

目　　次

１　教科に関する結果 ―――――――――――――――――――――――― Ｐ　１

（１）全体の結果　・・・・・・・・・Ｐ　１

（２）各教科の結果 ・・・・・・・・・Ｐ　１

（３）具体的な問題と解答状況 ・・・Ｐ１３

２　質問紙調査の結果 ―――――――――――――――――――――― Ｐ２４

（１）授業改善～児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問～
・・・・・・・・Ｐ２４

（２）児童生徒質問紙 ・・・・・・・Ｐ４０

（３）学校質問紙　　・・・・・・・Ｐ５５

≪平成２９年度全国学力・学習状況調査の概要≫

○目　的　・義務教育の機会均等と水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、改善を図る。
・学校における児童生徒への教育指導の充実や、学習状況の改善等に役立てる。
・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

○調査期日　平成２９年４月１８日（火）

○調査方式　悉皆調査

○実施学校数・児童生徒数（山口県）
【小学校６年】公立小学校２８２校、特別支援学校３校　10,815 人
【中学校３年】公立中学校１４４校、中等教育学校１校、
特別支援学校　４校　11,064 人

○調査内容　①教科に関する調査（国語、算数・数学）
・問題Ａ：主として「知識」に関する問題
・問題Ｂ：主として「活用」に関する問題
②生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
・児童生徒に対する調査（児童生徒質問紙）
・学校に対する調査（学校質問紙）

平成２９年度全国学力・学習状況調査結果について

１　教科に関する結果

（１）　全体の結果

○小学校では、区分によって差はあるものの、概ね全国平均と同程度である。
○中学校では、全ての区分で全国平均を上回っている。

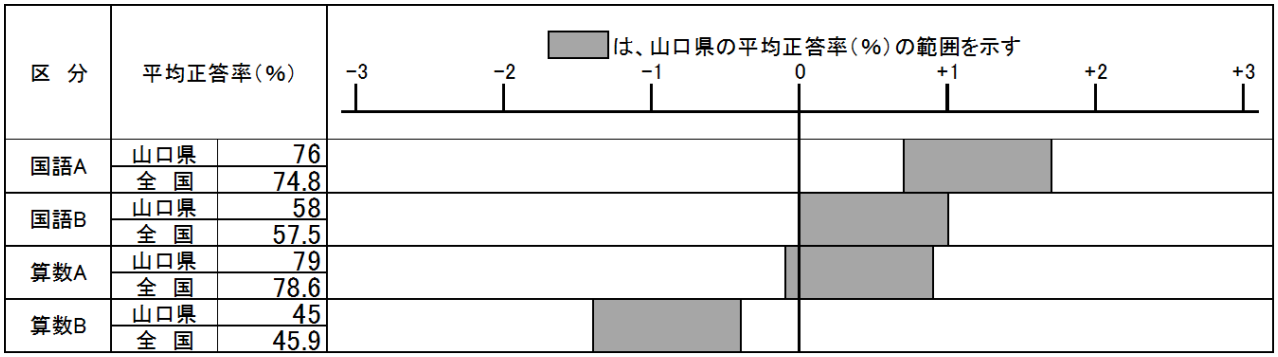
（２）各教科の結果

①全国の平均正答数、平均正答率との比較

※　平成 29 年度から、都道府県等における各区分の平均正答率は整数値で提供されたため、全国平均との差を範囲で示している。

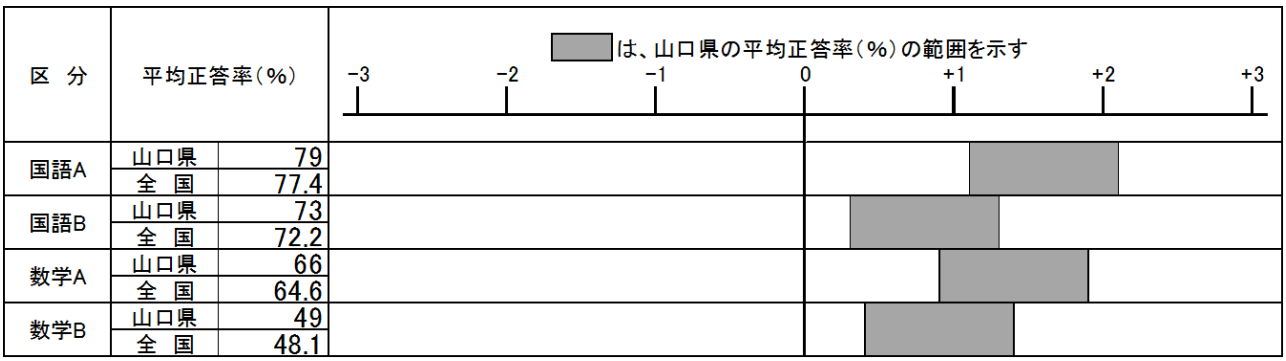
【小学校】

	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	11.4／15	11.2／15	76	74.8
国語Ｂ	5.2／ 9	5.2／ 9	58	57.5
算数Ａ	11.8／15	11.8／15	79	78.6
算数Ｂ	5.0／11	5.1／11	45	45.9



【中学校】

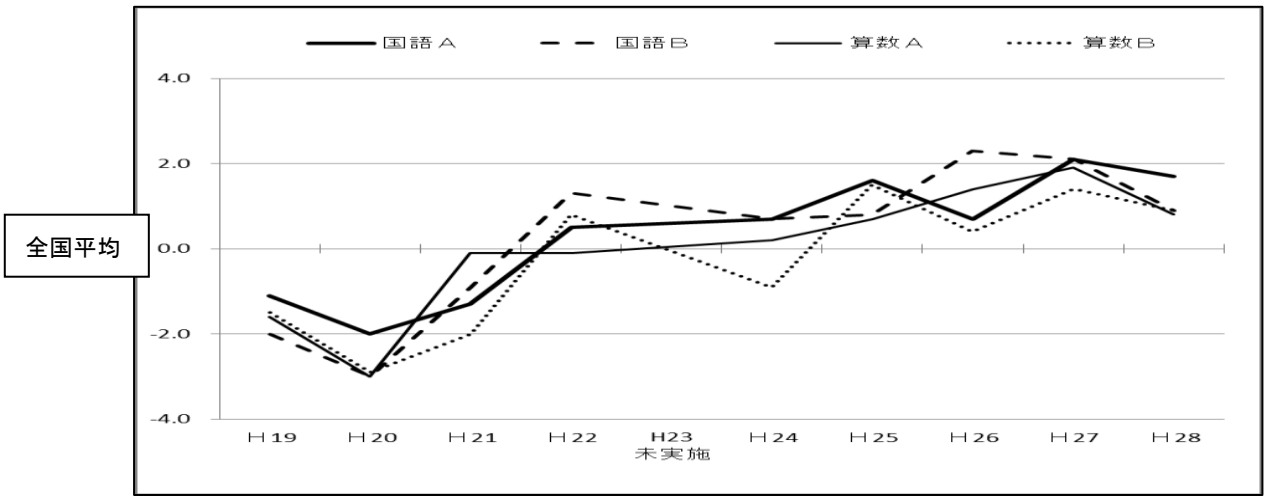
	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	25.4／32	24.8／32	79	77.4
国語Ｂ	6.6／ 9	6.5／ 9	73	72.2
数学Ａ	23.9／36	23.3／36	66	64.6
数学Ｂ	7.4／15	7.2／15	49	48.1



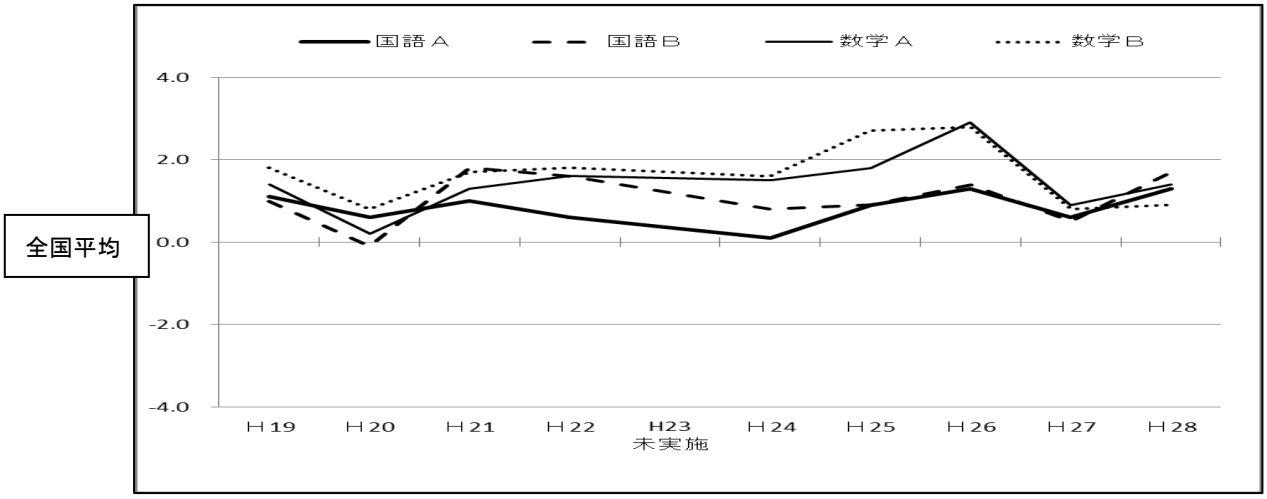
〔参考〕全国の平均正答率との経年変化（平成１９年度から平成２８年度）

※　各区分の平均正答率が整数値で提供され、全国平均正答率との差をこれまでと同様の方法で算出できないため、平成１９年度から平成２８年度までの経年変化を参考資料として掲載している。

【小学校】



【中学校】



〔参考〕過去の調査での平均正答数と平均正答率

【平成２８年度】

小学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	11.2 ／ 15	10.9 ／ 15	74.6	72.9
国語Ｂ	5.9 ／ 10	5.8 ／ 10	58.7	57.8
算数Ａ	12.5 ／ 16	12.4 ／ 16	78.4	77.6
算数Ｂ	6.3 ／ 13	6.1 ／ 13	48.1	47.2

中学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	25.4 ／ 33	25.0 ／ 33	76.9	75.6
国語Ｂ	6.1 ／ 9	6.0 ／ 9	68.2	66.5
数学Ａ	22.9 ／ 36	22.4 ／ 36	63.6	62.2
数学Ｂ	6.8 ／ 15	6.6 ／ 15	45.0	44.1

【平成２７年度】

小学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	10.1 / 14	9.8 / 14	72.1	70.0
国語Ｂ	6.1 / 9	5.9 / 9	67.5	65.4
算数Ａ	12.3 / 16	12.0 / 16	77.1	75.2
算数Ｂ	6.0 / 13	5.9 / 13	46.4	45.0
理　科	15.0 / 24	14.6 / 24	62.7	60.8

中学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	25.2 / 33	25.0 / 33	76.4	75.8
国語Ｂ	6.0 / 9	5.9 / 9	66.3	65.8
数学Ａ	23.5 / 36	23.2 / 36	65.3	64.4
数学Ｂ	6.4 / 15	6.2 / 15	42.4	41.6
理　科	13.3 / 25	13.3 / 25	53.0	53.0

【平成２６年度】

小学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	11.0 / 15	10.9 / 15	73.6	72.9
国語Ｂ	5.8 / 10	5.5 / 10	57.8	55.5
算数Ａ	13.5 / 17	13.3 / 17	79.5	78.1
算数Ｂ	7.6 / 13	7.6 / 13	58.6	58.2

中学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	25.8 / 32	25.4 / 32	80.7	79.4
国語Ｂ	4.7 / 9	4.6 / 9	52.4	51.0
数学Ａ	25.3 / 36	24.3 / 36	70.3	67.4
数学Ｂ	9.4 / 15	9.0 / 15	62.6	59.8

【平成２５年度】

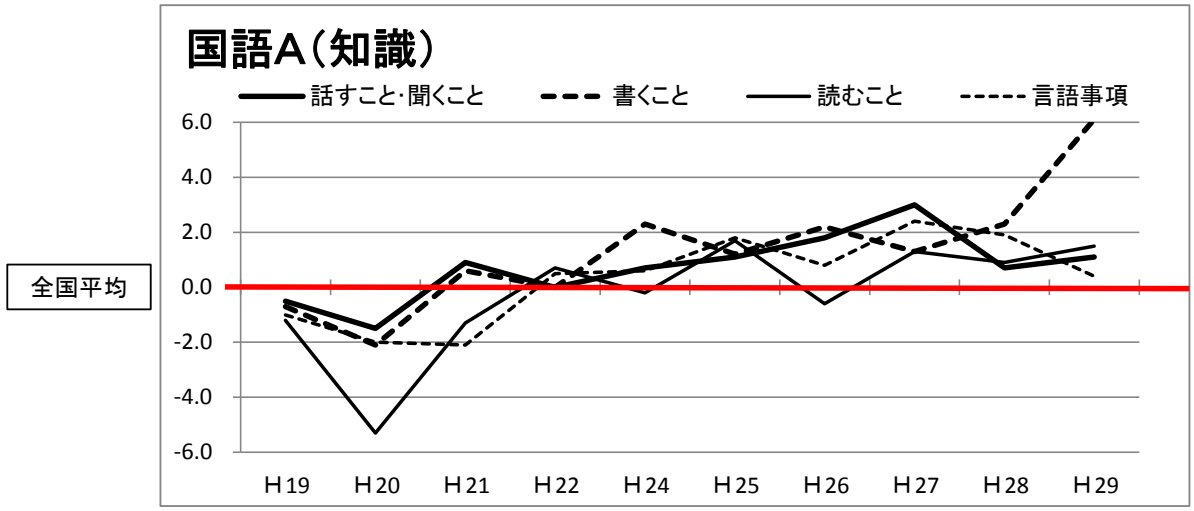
小学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	11.6 / 18	11.3 / 18	64.3	62.7
国語Ｂ	5.0 / 10	4.9 / 10	50.2	49.4
算数Ａ	14.8 / 19	14.7 / 19	77.9	77.2
算数Ｂ	7.8 / 13	7.6 / 13	59.9	58.4

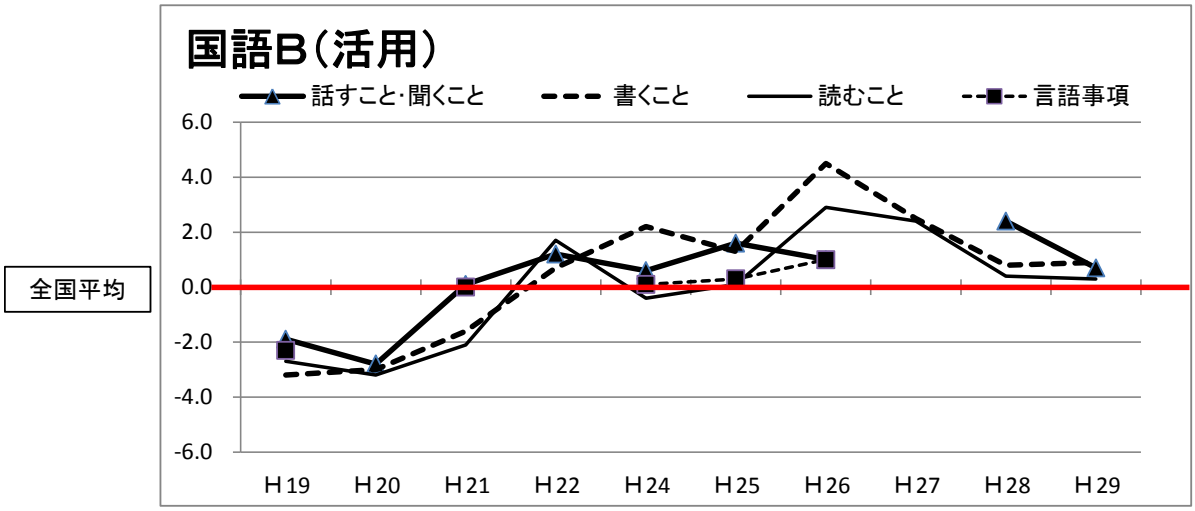
中学校	平均正答数（問）		平均正答率（%）	
	山口県	全　国	山口県	全　国
国語Ａ	24.7 / 32	24.4 / 32	77.3	76.4
国語Ｂ	6.1 / 9	6.1 / 9	68.3	67.4
数学Ａ	23.6 / 36	22.9 / 36	65.5	63.7
数学Ｂ	7.1 / 16	6.6 / 16	44.2	41.5

※平成２７年度は理科を実施

②領域別平均正答率の全国との比較【小学校】
［国語］

国語Ａ・Ｂともに、全ての領域で全国平均を上回っている。国語Ａの「書くこと」には成果が見られるものの、国語Ａの「言語事項」と国語Ｂの「話すこと・聞くこと」、「読むこと」では、全国平均との差が小さくなっている。





［国語Ａ：主として「知識」に関する問題］

領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
話すこと･聞くこと	−0.5	−1.5	0.9	0.0	0.7	1.1	1.8	3.0	0.7	1.1
書くこと	−0.7	−2.1	0.6	0.0	2.3	1.2	2.2	1.3	2.3	6.1
読むこと	−1.2	−5.3	−1.3	0.7	−0.2	1.7	−0.6	1.3	0.9	1.5
言語事項	−1.0	−2.0	−2.1	0.5	0.6	1.8	0.8	2.4	1.9	0.4

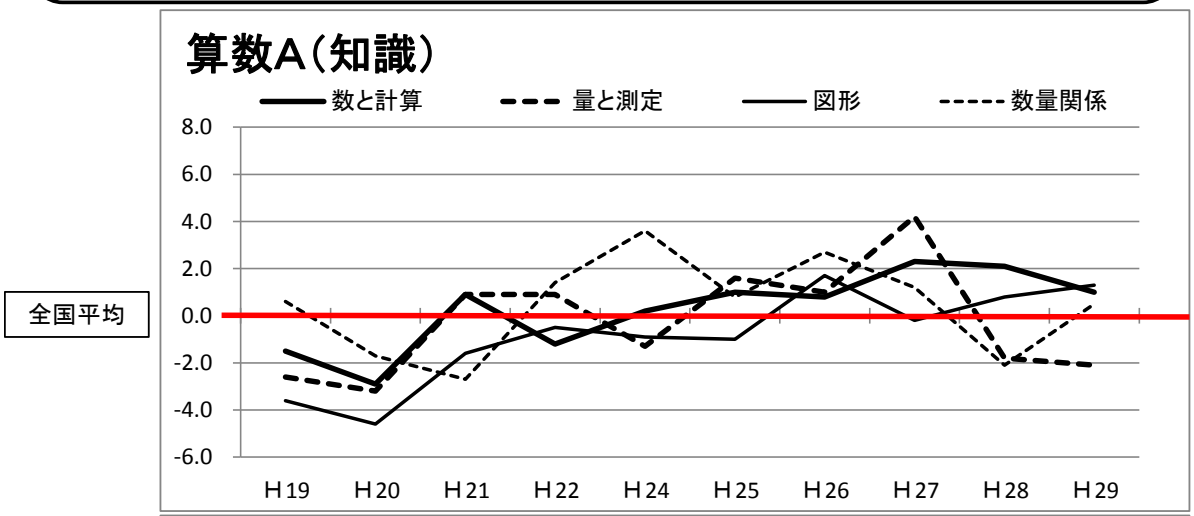
［国語Ｂ：主として「活用」に関する問題］

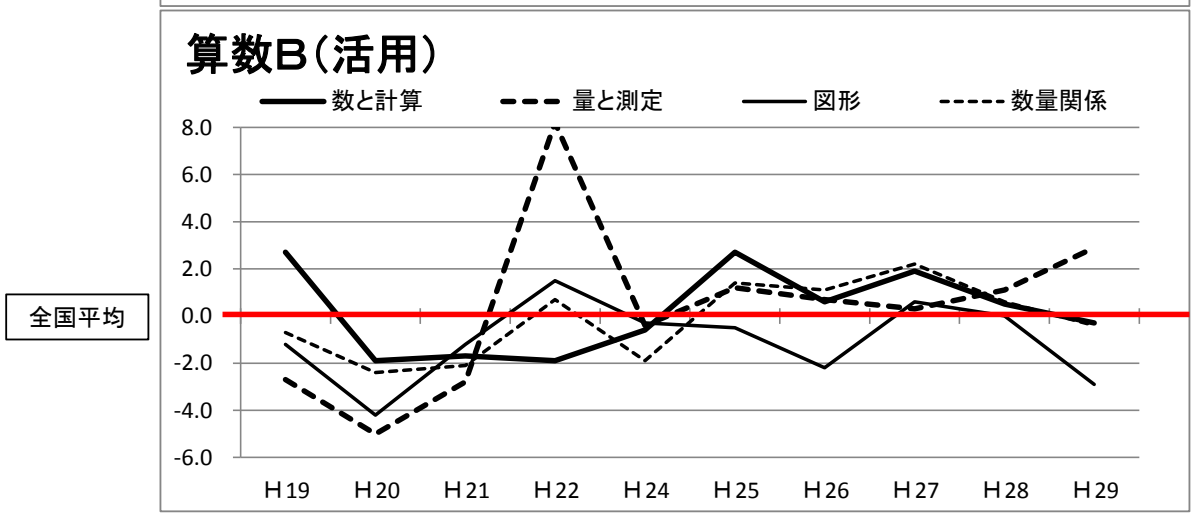
領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
話すこと･聞くこと	−1.9	−2.8	0.1	1.2	0.6	1.6	1.0		2.4	0.7
書くこと	−3.2	−3.0	−1.6	0.7	2.2	1.3	4.5	2.5	0.8	0.9
読むこと	−2.7	−3.2	−2.1	1.7	−0.4	0.1	2.9	2.4	0.4	0.3
言語事項	−2.3		0.0		0.1	0.3	1.0			

※ 言語事項とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成２４年度からは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

［算数］

算数Ａでは、「数と計算」「図形」「数量関係」の領域は全国平均を上回っているが、「量と測定」の領域で全国平均を下回っている。算数Ｂでは、「量と測定」が全国平均を上回っているものの、その他の領域は全国平均を下回っており、特に「図形」では全国との差が大きい。





［算数A：主として「知識」に関する問題］

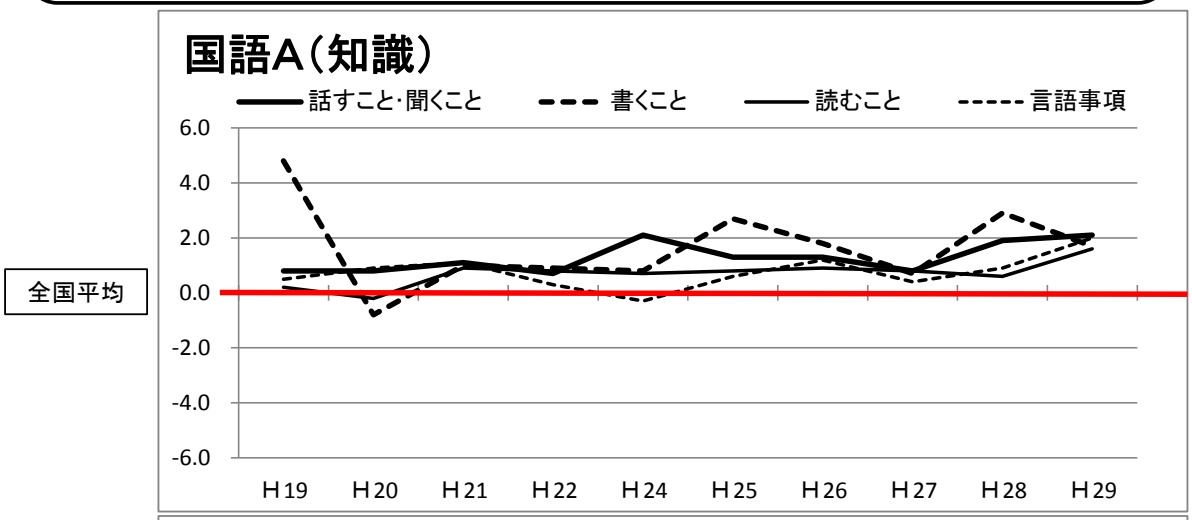
領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
数と計算	-1.5	-2.9	0.9	-1.2	0.2	1.0	0.8	2.3	2.1	1.0
量と測定	-2.6	-3.2	0.9	0.9	-1.3	1.6	1.0	4.2	-1.8	-2.1
図形	-3.6	-4.6	-1.6	-0.5	-0.9	-1.0	1.7	-0.2	0.8	1.3
数量関係	0.6	-1.7	-2.7	1.4	3.6	0.8	2.7	1.2	-2.1	0.5

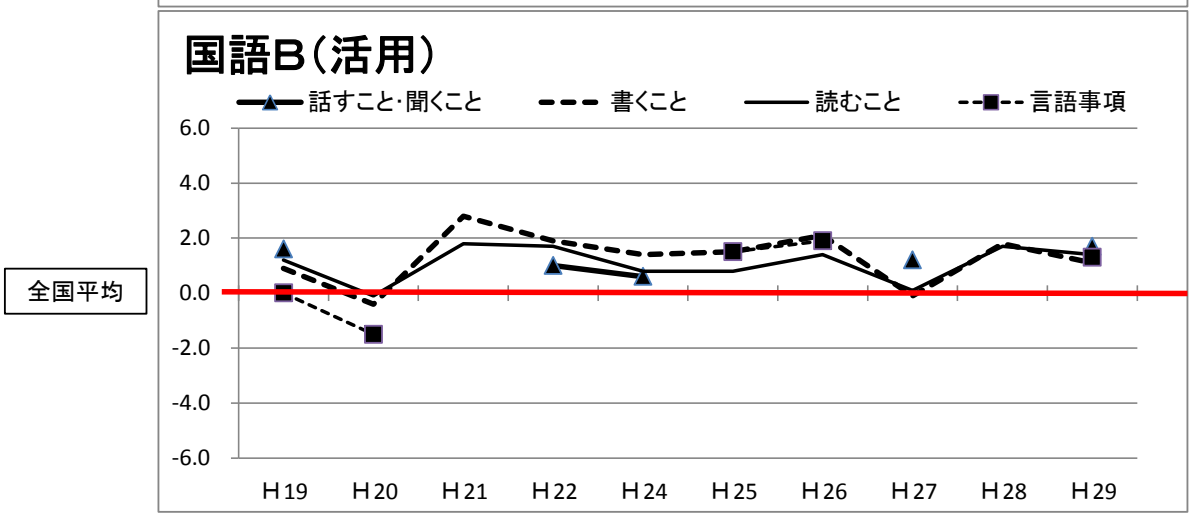
［算数B：主として「活用」に関する問題］

領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
数と計算	2.7	-1.9	-1.7	-1.9	-0.6	2.7	0.6	1.9	0.5	-0.3
量と測定	-2.7	-5.0	-2.8	8.2	-0.4	1.2	0.7	0.3	1.1	2.9
図形	-1.2	-4.2	-1.2	1.5	-0.3	-0.5	-2.2	0.6	±0	-2.9
数量関係	-0.7	-2.4	-2.1	0.7	-1.9	1.4	1.1	2.2	0.6	-0.4

③領域別平均正答率の全国との比較【中学校】
［国語］

国語Ａ・Ｂともに、全ての領域で全国平均を上回っている。国語Ａの「書くこと」は、全国平均との差が小さくなっているものの、他の領域はいずれも全国平均との差が大きくなっている。国語Ｂの「書くこと」「読むこと」は、全国との差が小さくなっている。





［国語A：主として「知識」に関する問題］

領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
話すこと･聞くこと	0.8	0.8	1.1	0.7	2.1	1.3	1.3	0.8	1.9	2.1
書くこと	4.8	-0.8	1.0	0.9	0.8	2.7	1.8	0.7	2.9	1.7
読むこと	0.2	-0.2	0.9	0.8	0.7	0.8	0.9	0.8	0.6	1.6
言語事項	0.5	0.9	1.1	0.3	-0.3	0.6	1.2	0.4	0.9	2.0

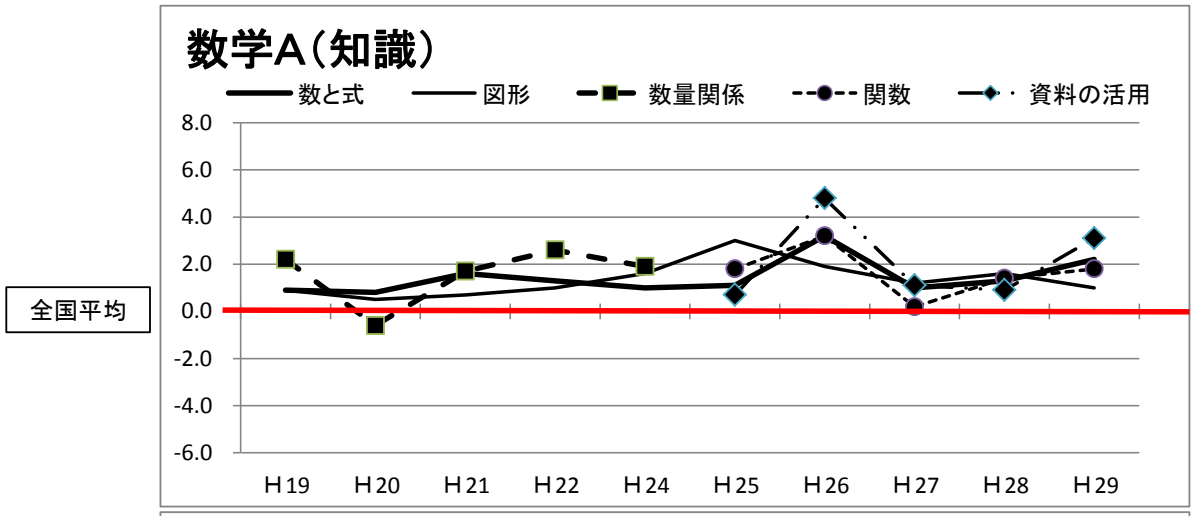
［国語B：主として「活用」に関する問題］

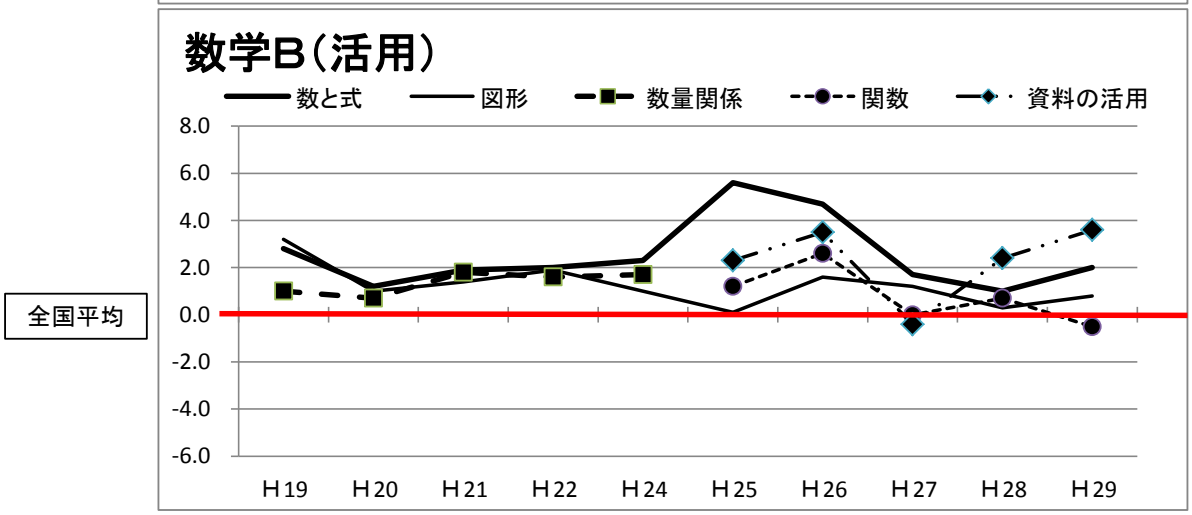
領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
話すこと･聞くこと	1.6			1.0	0.6			1.2		1.7
書くこと	0.9	-0.4	2.8	1.9	1.4	1.5	2.1	-0.1	1.8	1.1
読むこと	1.2	-0.1	1.8	1.7	0.8	0.8	1.4	0.1	1.7	1.4
言語事項	0.0	-1.5				1.5	1.9			1.3

※ 言語事項とは、古典、文法、漢字・ローマ字、書写等に関する内容。平成２５年度からは「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」。

［数学］

数学Ａでは、全ての領域で全国平均を上回っている。数学Ａの「図形」は、全国平均との差が小さくなっているものの、その他の領域については全国平均との差が大きくなっている。数学Ｂでは、「関数」が下回っているものの、その他の領域については全国平均を上回っており、全国平均との差が大きくなっている。





［数学Ａ：主として「知識」に関する問題］

領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
数と式	0.9	0.8	1.6	1.3	1.0	1.1	3.2	1.0	1.3	2.2
図形	0.9	0.5	0.7	1.0	1.6	3.0	1.9	1.2	1.6	1.0
数量関係	2.2	−0.6	1.7	2.6	1.9	1.8	3.2	0.2	1.4	1.8
						0.7	4.8	1.1	0.9	3.1

［数学Ｂ：主として「活用」に関する問題］

領　域	H19	H20	H21	H22	H24	H25	H26	H27	H28	H29
数と式	2.8	1.2	1.9	2.0	2.3	5.6	4.7	1.7	1.0	2.0
図形	3.2	1.0	1.4	1.9	1.0	0.1	1.6	1.2	0.3	0.8
数量関係	1.0	0.7	1.8	1.6	1.7	1.2	2.6	±0	0.7	−0.5
						2.3	3.5	−0.4	2.4	3.6

※　「数量関係」の領域は、平成25年度から「関数」と「資料の活用」の２領域に分けられている。

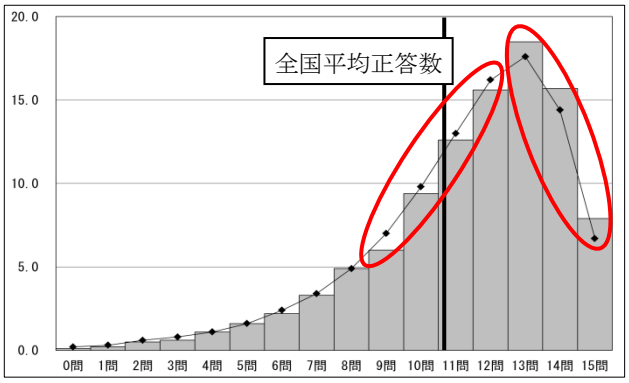
④正答数ごとの分布

【小学校　国語】

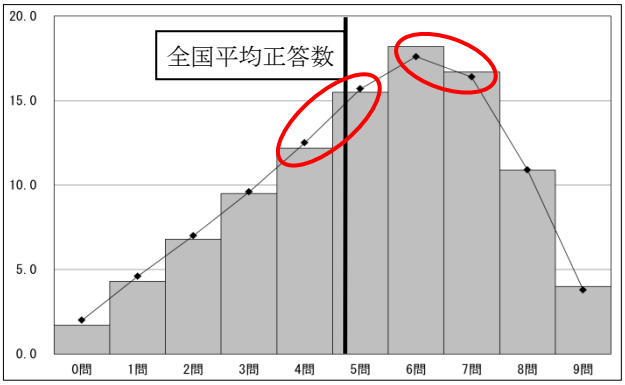
- 国語Ａについては、全国と比べ正答数の多い児童の割合が高い。
- 国語Ｂについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い児童の割合がやや高く、正答数の少ない児童の割合がやや低い。

平成２９年度

［国語Ａ］（知識）

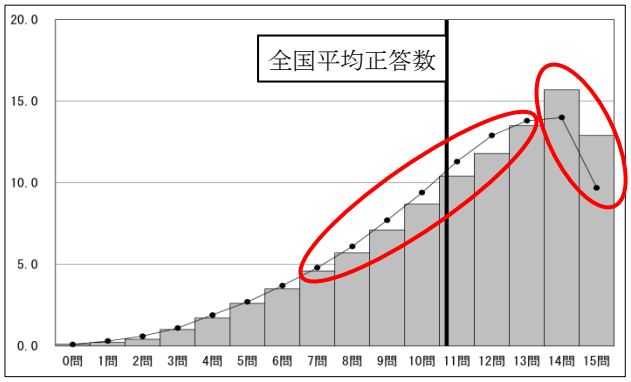


［国語Ｂ］（活用）

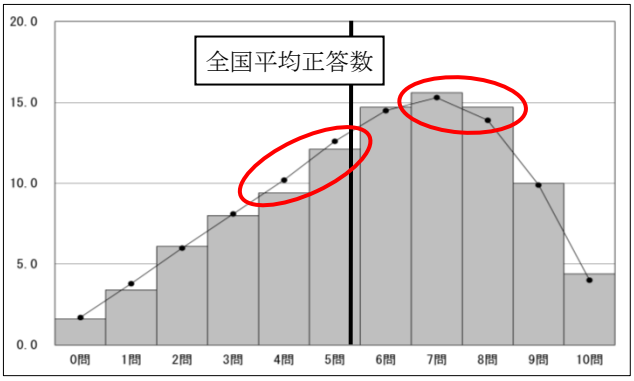


（参考）平成２８年度

［国語Ａ］（知識）



［国語Ｂ］（活用）



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。

特徴的な部分

凡例　山口県

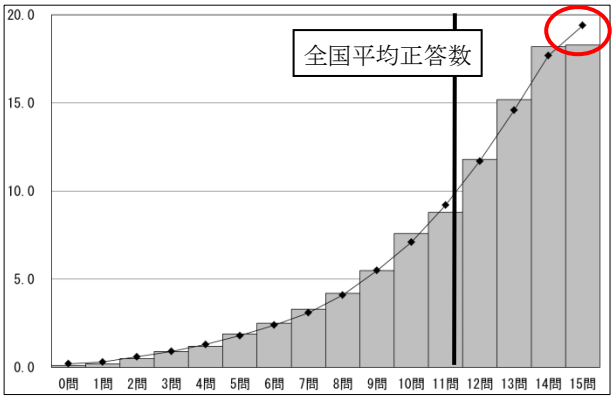
全　国

【小学校　算数】

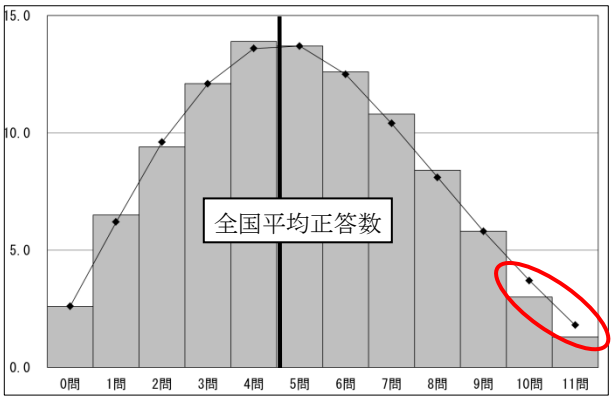
- 算数Ａについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ全問正答の児童の割合がやや低い。
- 算数Ｂについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い児童の割合がやや低い。

平成２９年度

［算数Ａ］（知識）

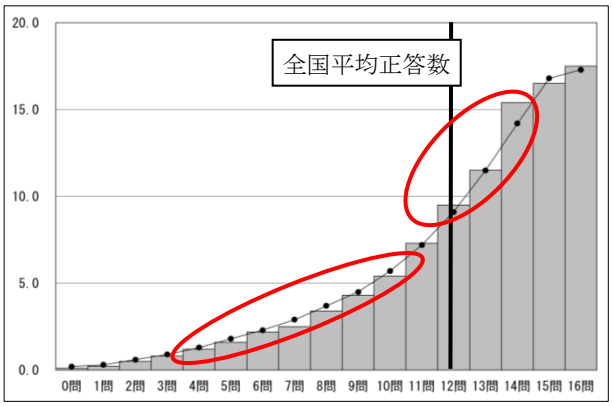


［算数Ｂ］（活用）

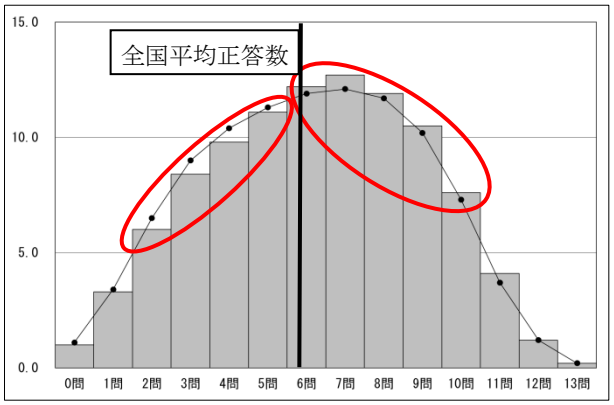


（参考）平成２８年度

［算数Ａ］（知識）



［算数Ｂ］（活用）



〔グラフについて〕

横軸は児童が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの児童の割合（％）を示している。

特徴的な部分

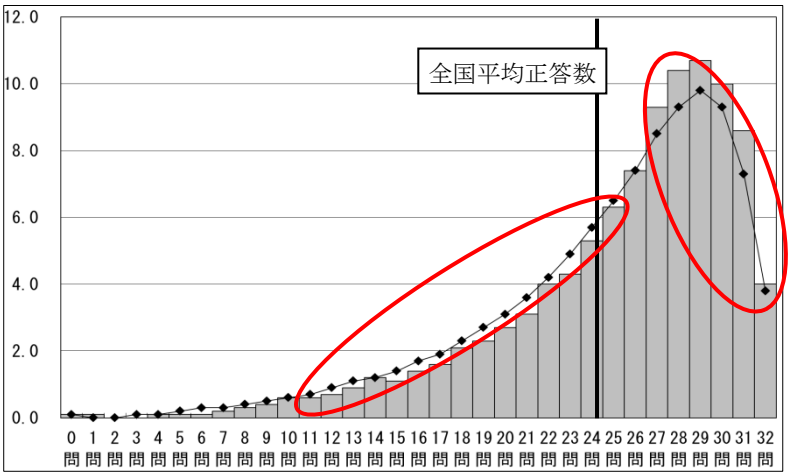
凡例　山口県　全　国

【中学校　国語】

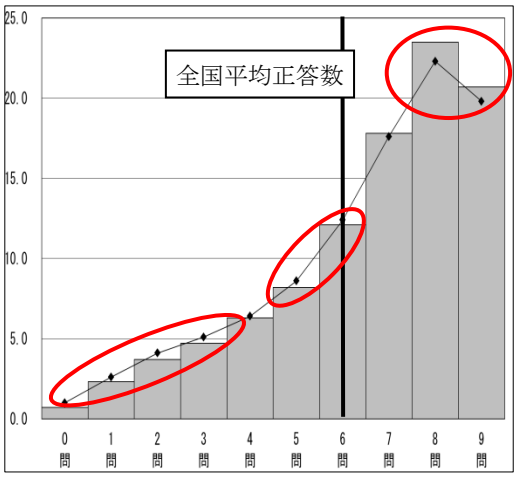
- 国語Ａについては、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が高く、正答数の少ない生徒の割合が低い。
- 国語Ｂについては、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高く、正答数の少ない生徒の割合がやや低い。

平成２９年度

［国語Ａ］（知識）

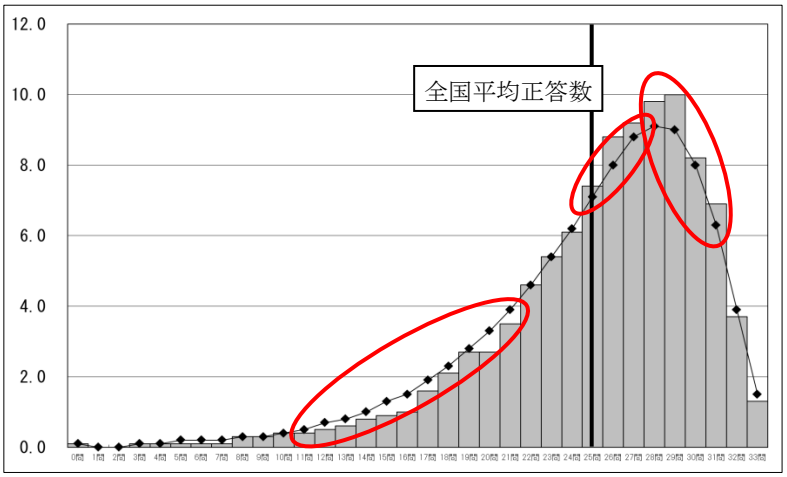


［国語Ｂ］（活用）

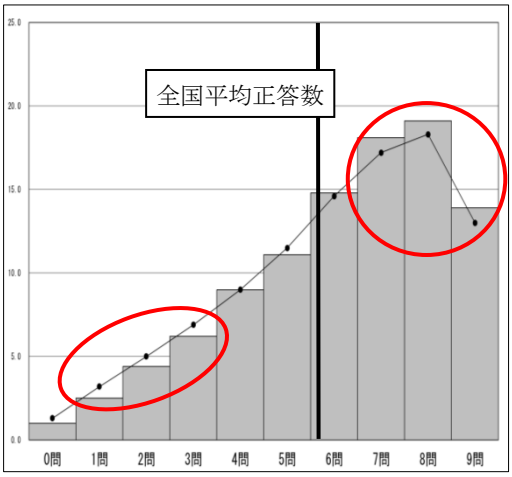


（参考）平成２８年度

［国語Ａ］（知識）



［国語Ｂ］（活用）



〔グラフについて〕

横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（％）を示している。

特徴的な部分

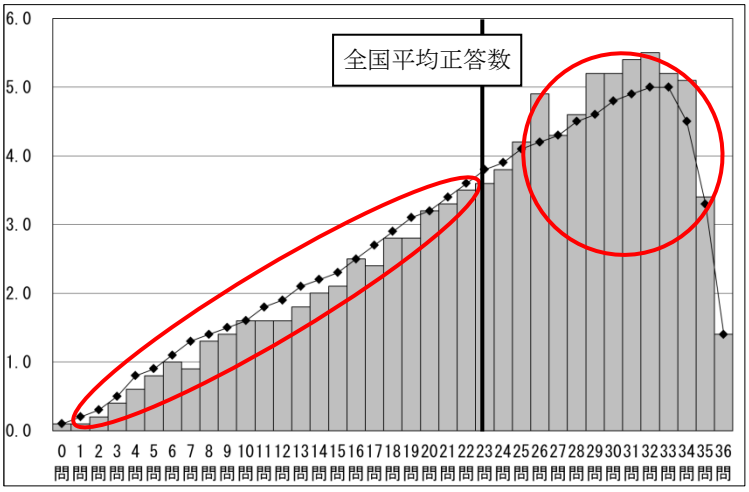
凡例　山口県　全　国

【中学校　数学】

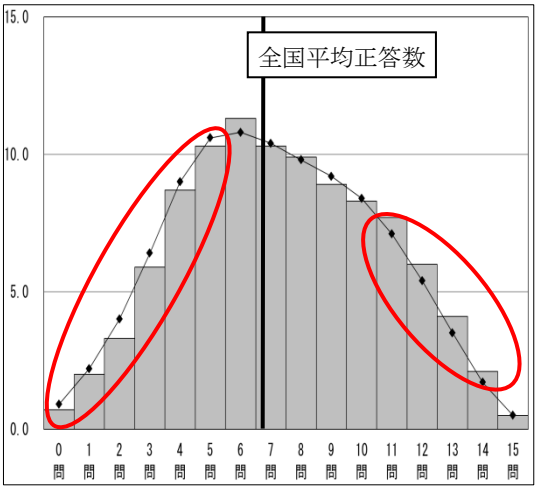
- 数学Ａについては、全国と比べ正答数の多い生徒の割合が高く、正答数の少ない生徒の割合が低い。
- 数学Ｂについては、ほぼ全国と同様の分布状況にあるが、全国と比べ正答数の多い生徒の割合がやや高く、正答数の少ない生徒の割合がやや低い。

平成２９年度

［数学Ａ］（知識）

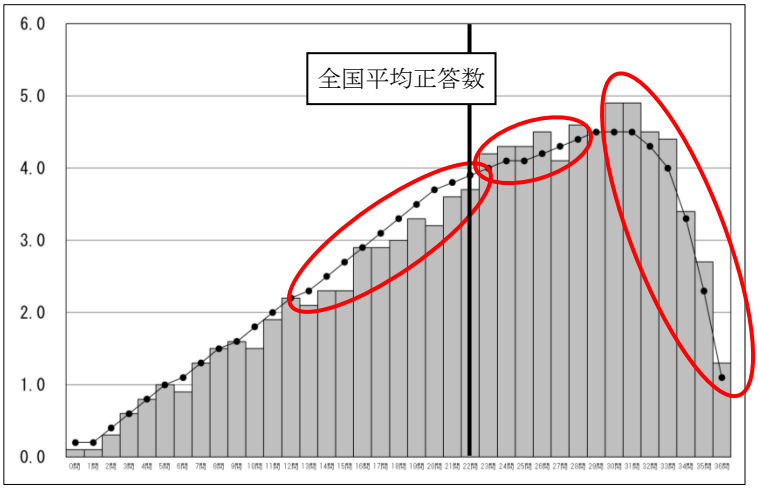


［数学Ｂ］（活用）

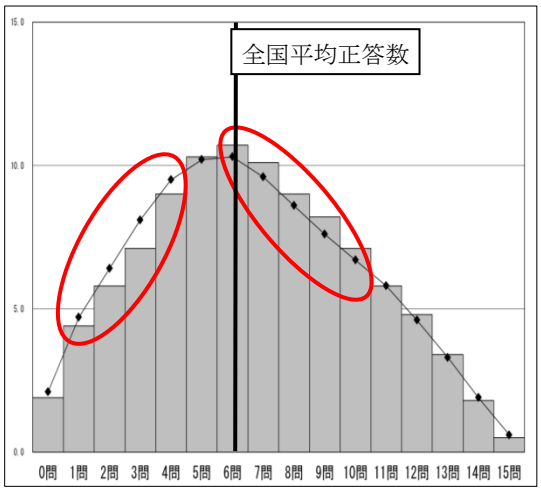


（参考）平成２８年度

［数学Ａ］（知識）



［数学Ｂ］（活用）



〔グラフについて〕

横軸は生徒が正答した問題数、縦軸は正答数ごとの生徒の割合（％）を示している。

特徴的な部分

凡例　山口県　全　国

⑤各教科ごとの結果

ア　小学校国語

○国語Ａについては、平均正答率が 76％であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。
○国語Ｂについては、平均正答率が 58％であり、全国平均と同程度であるが、知識･技能の活用に課題が見られる。

イ　小学校算数

○算数Ａについては、平均正答率が 79％であり、全国平均と同程度であるが、知識・技能の定着にやや課題が見られる。
○算数Ｂについては、平均正答率が 45％で、全国平均を下回っており、知識・技能の活用に課題が見られる。

ウ　中学校国語

○国語Ａについては、平均正答率が 79％であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着にやや課題が見られる。
○国語Ｂについては、平均正答率が 73％であり、全国平均を上回っているものの、知識･技能の活用にやや課題が見られる。

エ　中学校数学

○数学Ａについては、平均正答率が 66％であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の定着に課題が見られる。
○数学Ｂについては、平均正答率が 49％であり、全国平均を上回っているものの、知識・技能の活用に課題が見られる。

（３）－①　具体的な問題と解答状況　－小学校国語－

〇相当数の児童ができている点

【小学校　国語Ａ】

〇　ことわざの意味を理解して、自分の表現に用いることについて、正答率が高い。

5 ア・イ

【正答】5 ア　３
　　イ　２

	正答率	
	ア	イ
山口県	90.7%	85.1%
全　国	90.0%	83.6%

5　古川さんは、ことわざの意味を辞書で調べて、ことわざカードを作っています。次の ア ・ イ に入ることわざの使い方の例として最も適切なものを、あとの1から3までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

三度目の正直
（意味）　一度や二度で思い通りにならなくても、三度目ではうまくいくものだ。
（使い方の例）　ア

1　どんなに得意なことでも、時には失敗することもあるよ。三度目の正直だよ。
2　多くのものを一度にやろうとするとうまくいかない。三度目の正直だね。
3　一本めと二本めのシュートは外れたけど、次は決まるよ。三度目の正直だよ。

もちはもち屋
（意味）　何事も、それぞれのせん門家や得意な人にまかせるのが一番だ。
（使い方の例）　イ

1　もちはもち屋と言うように、人の好みはいろいろで、しゅみはいろいろあった方がよい。
2　もちはもち屋と言うように、卓球の審判なら卓球クラブの友達にたのむ方がよい。
3　もちはもち屋と言うように、好きな作家の本を見つけたら時間を気にせず読んだ方がよい。

〇　第５学年までに学習した漢字を読むことについて、正答率が高い。

7 (3)・(4)・(6)

【正答】7 (3)　きげん
　　(4)　じむしつ
　　(6)　しじ

	正答率		
	(3)	(4)	(6)
山口県	95.0%	90.8%	95.0%
全　国	94.5%	88.8%	94.5%

7　――部の漢字の読みをひらがなで、……部のひらがなを漢字で、それぞれていねいに書きましょう。

４年生のみなさんへ

放送委員会

委員会活動の体験のお知らせ

1　日時　２月19日（月）～２月22日（木）
　　10時25分から10時45分まで

2　集合場所
　　多目的ルーム

3　参加 (1)たいしょう
　　４年生の (2)きぼう者

4　申しこみ (3)期限と申しこみ方法
・　２月14日（水）までに申しこんでください。
・　(4)事務室前に申しこみ用紙と箱が (5)おいてあります。用紙にクラスと名前を書いて，箱に入れてください。

5　お願い
・　当日は，全員が体験できるように，放送委員の (6)指示にしたがってください。

●課題のある点

【小学校　国語Ｂ】

● 目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことについて、課題が見られる。

2 三

【アドバイス】

去年、わたしたちも緑のカーテンを作ったよ。おかげですずしい夏が過ごせたんだ。でも、水やりがとても大変だったなあ。

まず、毎朝水をやらないとすぐにかれてしまうんだ。朝、水やりをわすれて、昼休みにあわてて見に行ったらしおれかけていたこともあったよ。

それから、大きな緑のカーテンを作るためには、たくさんの植木ばちに水をやる必要があるんだ。植木ばちの数はどのくらい大きな緑のカーテンを作るかで変わってくるよ。

水やりは大変だったけれど、すずしい夏が過ごせて、みんなも喜んでくれて本当にうれしかったなあ。

何かこまったことがあったらいつでも相談にのるよ。がんばって作ってね。

水やりに協力してくれる人をぼ集します

大きな緑のカーテンを作るためには水やりが大切です。しかし、水やりはとても大変です。なぜなら、

イ

このように水やりはとても大変なので、たくさんの人の協力が必要です。協力してくれる人はわたしたちに声をかけてください。ぜひいっしょに大きな緑のカーテンを完成させ、全校ですずしい夏を過ごしましょう。

三　森さんたちは、緑のカーテンを作ったことのある中学生からの【アドバイス】をもとに、【緑のカーテン作りへの協力のお願い】の［　］の中を書いています。次の［　］の中の［イ］に入る内容を、あとの条件に合わせて書きましょう。

【緑のカーテン作りへの協力のお願い】

緑のカーテン作りへの協力のお願い

６年１組　森・中村・秋山

緑のカーテンとは

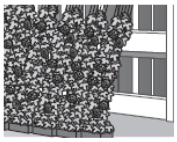
夏が来ると、教室が暑くなってこまったことはありませんか。わたしたちは、それを解決するために緑のカーテンを作ることにしました。

緑のカーテンとは、まどの外に植えたアサガオなどの植物で、日ざしをさえぎるようにしたものです。緑のカーテンを作ると教室をすずしくすることができます。

中には布のカーテンをしめればよいという人もいるかもしれません。しかし、緑のカーテンを使うと布のカーテンよりも室内の温度を下げることができます。例えば、『**緑のカーテンを始めよう**』という本には、「　ア　」と書かれています。緑のカーテンは、夏をすずしく過ごすためのくふうの一つなのです。

緑のカーテンの作り方

わたしたちは、できれば１階から３階までの全教室をおおうように緑のカーテンを作りたいと考えています。そこで、次のように作ろうと思っています。



1　大きな植木ばちを用意し、肥料と土を入れて１階に置く。
2　１階から３階までネットをはる。
3　アサガオの種をまく。
4　たくさんの水をやる。
5　一番太いつるが１ｍぐらいになったら先の芽を切る。
6　芽が分かれてのびてきたらネットにまきつける。
7　７月になったら肥料を追加する。

水やりに協力してくれる人をぼ集します

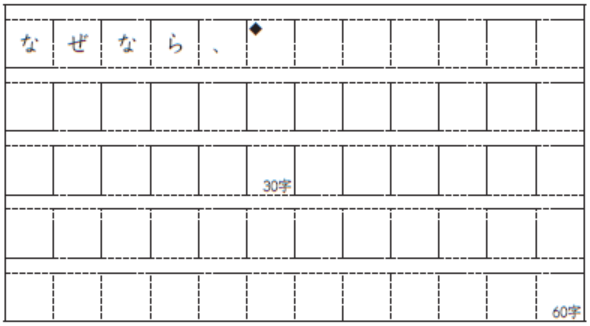
2　森さんたちは、「緑のカーテン」を作るため、同じ学年の友達に協力してほしいと思い、次の【緑のカーテン作りへの協力のお願い】を書いています。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

＜条件＞

○　水やりが大変な理由を【アドバイス】から二つ取り上げて書くこと。

○　【緑のカーテン作りへの協力のお願い】にふさわしい表現で書くこと。

○　書き出しの言葉に続けて、三十字以上、六十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。



【正答例】

毎朝水をやらないといけないし、大きな緑のカーテンを作るために、たくさんの植木ばちに水をやる必要があるからです。（６０字）

	正答率
山口県	35.3%
全　国	33.0%

● 自分の考えを広げたり深めたりするための発言の意図を捉えることについて、課題が見られる。

3

大岩さんの学級では、あまんきみこさんが書いた「きつねの写真」という題名の物語を読み、それぞれが考えたことについて、文章中の表現を示しながら話し合っています。次は、【物語の一部】と【話し合いの様子の一部】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

■物語のこれまでのあらすじ

ごんざ山に、松ぞうじいさんという木こりが孫のとび吉（きち）と二人で住んでいました。そこに、山野さんという新聞記者がきつねの写真をとりに来ました。

【物語の一部】 ①・②・③・④・⑤の内容は、あとの【話し合いの様子の一部】で取り上げられます。

（あまんきみこ「きつねの写真」による。）

【話し合いの様子の一部】

横山　あまんきみこさんの「きつねの写真」を読んで、心に残ったところはどこかな。

原　（③を示しながら）「あたりの木がいっせいにざざっとゆれてよびました」というところで［A］感じがすると思ったんだけど。

大岩　そうだね。［A］ことといえば、松ぞうじいさんととび吉はきつねだったのかな。

田中　二人を写したはずの写真にきつねが写っていたんだから、きっときつねだよ。

原　ア どこからそう思うの。

田中　（④を示しながら）「山野さんは、むかいあったふたりをぱちりとうつしました」とあるでしょ。

横山　そうだね。それに、（⑤を示しながら）「き、きつねの写真だ」と書いてあるしね。

原　二人を写したはずの写真にきつねが写っているってことは、やっぱりきつねなのかな。

大岩　きっときつねだよ。他にもきつねって考えられるところはあるかな。

田中　（②を示しながら）ここで、松ぞうじいさんが「ついてきなせえ」と言っているところがあるでしょ。私（わたし）は、ここからもきつねってわかる気がするんだけれど、どうかな。

原　私もそう思う。松ぞうじいさんは、きつねだからきつねのすんでいた穴の場所を知っていて、案内できたんだよね。田中さんの言いたいことはそういうことでいいのかな。

田中　そうそう。

横山　（①を示しながら）ここにもあるよ。「人間にうちとられたり」と書いてあるけれど、もし、松ぞうじいさんが本当に人間なら、「人間に」とか「うちとられた」とは言わないと思うから、松ぞうじいさんはきつねだと考えることもできるね。

田中　そこからも、松ぞうじいさんがきつねだと考えられるね。他にも見つけたよ。

［B］

～（話し合いが続く）～

3 二

二　【話し合いの様子の一部】の中の＿＿＿部ア・イの発言は、この話し合いの中で、それぞれどのような意図がありますか。最も適切なものを、次の１から４までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　考えのもととなる文章中の表現を明らかにしようとしている。
2　言葉の意味が理解できず、その意味を知ろうとしている。
3　今まで出ていない考えを引き出そうとしている。
4　自分の理解が正しいかどうかを相手に確かめようとしている。

【正答】3 二
アに１、イに４と解答しているもの

	正答率
山口県	29.6%
全　国	28.0%

（３）－②　具体的な問題と解答状況　－小学校算数－

〇相当数の児童ができている点

【小学校　算数Ａ】

〇　具体的な問題場面において、乗法で表すことができる二つの数量の関係を理解することについて、正答率が高い。

1 (1)

１ｍあたりの値段（ねだん）が 60 円のリボンを何ｍか買います。

そのときの代金の求め方を考えます。

(1)　リボンを２ｍ買ったときの代金はいくらですか。また，リボンを３ｍ買ったときの代金はいくらですか。それぞれ答えを書きましょう。

【正答】1 (1)　２ｍ買ったとき　１２０円
３ｍ買ったとき　１８０円

	正答率
山口県	96.9%
全　国	96.9%

【小学校　算数Ｂ】

〇　示された考えを解釈し、数を変更した場合も同じ関係が成り立つことを、図に表現することについて、正答率が高い。

1 (2)

【あやかさんの考え】

カードの差が2の 3 と 5 を選んだ53－35の場合

53 を 10 が５つと１が３つ，35 を 10 が３つと１が５つとみて，図1のように表しました。図の中の ⑩ は 10 を，① は１を表しています。

図１

53	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①	①
35	⑩	⑩	⑩	①	①	①	①	①

53 から 35 をひくと，残るのは図2の ( ) の部分です。

１つの ( ) は，10－１，つまり９を表しています。

図２

53	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①	①
35	⑩	⑩	⑩	①	①	①	①	①

( ) の部分が２つ残るから，２けたのひき算の答えは，９×２で，18 になります。

カードの差が3の 2 と 5 を選んだ52－25の場合

カードの差が２の場合と同じように考えます。

52 から 25 をひくと，残るのは図3の ( ) の部分です。

図３

52	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①
25	⑩	⑩	①	①	①	①	①

( ) の部分が３つ残るから，２けたのひき算の答えは，９×３で，27 になります。

(2)　カードの差が１の場合，２けたのひき算の答えが９になることを【あやかさんの考え】と同じように考えます。

4 と 5 を選んだ 54 － 45 の場合では，どこが残りますか。

解答用紙の図に ( ) をかき入れましょう。

54	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①	①	①
45	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①	①	①	①

【正答】1 (2)　下のように 54 の⑩と 45 の①を囲んでいるもの

54	⑩	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①	①	①
45	⑩	⑩	⑩	⑩	①	①	①	①	①

	正答率
山口県	81.7%
全　国	81.8%

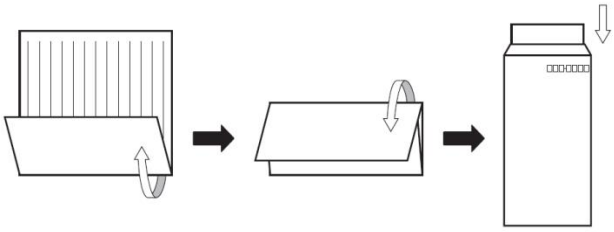
●課題のある点

【小学校　算数Ｂ】

● 直線の数とその間の関係に着目して、示された方法を問題場面に適用することについて、課題が見られる。

2

小さい封筒に入れるためには，長方形の形をした手紙を３つに折る必要があります。

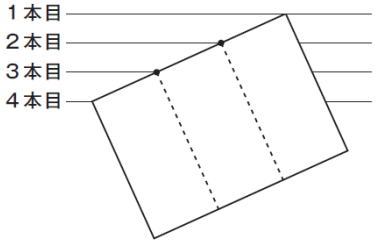


ゆりえさんは，手紙をなるべくきれいに３つに折るために，先生から**３等分する点を見つける方法**を教えてもらいました。

３等分する点を見つける方法

① 同じはばに並んだ４本の平行な直線の，１本目の直線と４本目の直線に手紙の長い辺の両はしをあわせる。

② ２本目，３本目の直線と手紙の長い辺が交わった点が，手紙の長い辺を３等分する点になる。

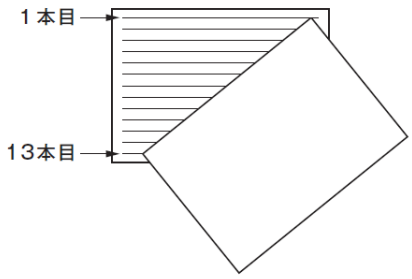


ゆりえ

同じはばに並んだ直線を４本使うと，直線と直線の間が３つになるので，３等分する点を見つけることができるのですね。

手紙の用紙には，同じはばに並んだ13本の平行な直線がひかれています。

ゆりえさんは，手紙を３つに折るために，もう１枚の手紙の用紙を使おうと考えました。そして，下の図のように，１本目と13本目の直線に手紙の両はしをあわせて，３等分する点を見つけました。



(2) 13本の直線のうち，手紙の長い辺と交わった点が，その辺を３等分する点になるのは，上から何本目と何本目の直線ですか。

答えを書きましょう。

【正答】2 (2)　上から５本目と９本目

	正答率
山口県	24.7%
全　国	27.4%

【小学校　算数Ｂ】

● 身近なものに置き換えた基準量と割合を基に、比較量に近いものを判断し、その判断の理由を言葉や式を用いて記述することについて、課題が見られる。

5

月の直径を，硬貨（こうか）の直径に置きかえて考えます。

１円玉，100円玉，500円玉の直径は，それぞれ下のとおりです。

硬貨の種類とその直径

１円玉	100円玉	500円玉
20 mm	22.6 mm	26.5 mm

(2)　「最小の満月の直径」を１円玉の直径としたときに，「最小の満月の直径」をもとにして14％長くなっている「最大の満月の直径」は，100円玉と500円玉のどちらの直径に近いですか。

下の **1** と **2** から選んで，その番号を書きましょう。

また，選んだ硬貨のほうが「最大の満月の直径」に近いと考えたわけを，言葉や式を使って書きましょう。

1　100円玉

2　500円玉

【正答】 5 (2)

番号）　1

例）最大の満月の直径は20×1.14＝22.8で，22.8mmです。

100円玉の直径との差は22.8－22.6＝0.2で，0.2mmです。

500円玉の直径との差は26.5－22.8＝3.7で，3.7mmです。

100円玉の直径との差のほうが小さいので，100円玉のほうが近いです。

	正答率
山口県	10.3%
全　国	13.2%

（３）－③　具体的な問題と解答状況　－中学校国語－

〇相当数の生徒ができている点

【中学校　国語Ａ】

〇　文脈に即して漢字を正しく読むことについて、正答率が高い。

9 二　次の１から３までの文中の———線部の漢字の正しい読みを**ひらがな**でていねいに書きなさい。

１　覚悟を決める。

【正答】9 二１　かくご

	正答率
山口県	99.0%
全　国	98.7%

【中学校　国語Ｂ】

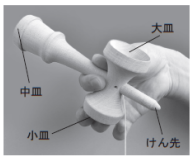
〇　目的に応じて資料を効果的に活用して話すことについて、正答率が高い。

2 石井さんは、けん玉についてスピーチをします。次は、石井さんがスピーチをするために読んだ【本の一部】、リハーサルで実際に話した【スピーチ】、リハーサル後に友達からもらった【意見1】、【意見2】です。これらを読んで、あとの問いに答えなさい。（【スピーチ】の［　］は、その箇所で〈実演〉を行うことを表します。〈実演〉は三回とも同じ動作を行います。）

【本の一部】

「大皿」という技について説明します。まず、けん玉を下の図のように持ちます。次に、ひざを曲げながら、けん先を下にして手を少し下げます。続いて、ひざを伸ばしながら、下げた手を戻す勢いで玉をまっすぐに引き上げます。引き上げた玉が落ち始める寸前は、玉が一瞬静止した状態になるので、玉を捉えやすくなります。このときに玉の真下に素早く皿を持ってきて、ひざを曲げながら受け止めます。ただひざを曲げればよいということではありません。玉の動きに合わせてひざを曲げるのです。ひざの動きは「大皿」に限らず、けん玉の多くの技を行う際に重要な動きです。特に、皿で玉を受け止めるときには、皿と玉がぶつかるときの衝撃をやわらげる効果があるのです。

【図】



【スピーチ】

今日は、けん玉の「大皿」という技を取り上げて、技を上手に決めるコツについて説明します。

「大皿」というのは、けん玉の一番大きな皿に玉を乗せる技です。「大皿」はこのように持って行います。まずはどのような技なのか見てください。〈実演〉一回目

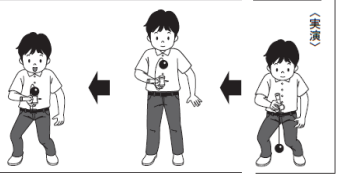
「大皿」のコツは二つあります。

一つは、引き上げた玉が落ち始める寸前に、玉の真下に素早く皿を持ってくることです。玉の動きが一瞬静止した状態になるこのタイミングだと玉を捉えやすいので、成功する確率が高くなります。では、やってみます。〈実演〉二回目　少し難しいかもしれませんが、何度か繰り返してやっていると、徐々にタイミングがつかめるようになります。

もう一つのコツはひざをうまく動かすことです。では、ひざの動きに注意して見てください。〈実演〉三回目　始めにひざを曲げます。そしてひざを伸ばしながら玉をまっすぐに引き上げます。玉を受け止めるときのひざの動きも重要です。玉を受け止めるときは、今私がやったようにひざを動かすとよいです。

コツが分かったでしょうか。皆さんも、ぜひ、この二つのことに気を付けながら、「大皿」という技をやってみてください。

〈実演〉



【意見1】

三回目の実演のときは、どこに気を付けて見ればよいのかが分かりやすかったので、二回目の実演のときも同じようにするとよいと思います。

【意見2】

「今私がやったようにひざを動かすとよいです」というところは、どのようにひざを動かすのかが分かりづらかったです。それに、なぜひざを動かすとよいのかについても説明してほしいです。

2－　石井さんが**〈実演〉二回目**と**〈実演〉三回目**を行った意図として最も適切なものを、次の１から４までの中から**一つ**選びなさい。

１　技が成功する実演と失敗する実演の動きの違いに気付いてもらうため。

２　それぞれのコツの説明を実演と照らし合わせて理解してもらうため。

３　説明した内容に含まれていないコツを実演によって知ってもらうため。

４　易しい技と難しい技を実演することで興味をもってもらうため。

【正答】2 －　２

	正答率
山口県	86.3%
全　国	85.4%

●課題のある点

【中学校　国語Ａ】

● 事象や行為などを表す多様な語句について理解することについて、課題が見られる。

9 五　次は、校内でのあいさつを活発にするための取り組みについての**【話し合いの記録】**です。「活動内容案」の「２」については、今回は結論が出なかったので、あとでもう一度話し合うことになりました。［　　］に当てはまる言葉を、**漢字三字以内**で書きなさい。

【話し合いの記録】

校内でのあいさつを活発にするための取り組み

活動内容案	結果
1　標語やポスターの募集と掲示を行う。	可決
2　登校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	［　　］
3　下校時間に校門の前であいさつや呼びかけを行う。	否決

【正答例】
9 五　再検討
保留

	正答率
山口県	36.9%
全　国	35.8%

【中学校　国語Ｂ】

● 表現の仕方について捉え、自分の考えを書くことについて、課題が見られる。

1 三

三　青山さんは、**【本の紹介カード】**にある「比喩を用いた表現」に着目して**【本の一部】**を読み、感じたことや考えたことなどをあとの**【読書の記録】**に書いています。あなたなら**【読書の記録】**の〈心に残った一文〉と〈感想〉にどのようなことを書きますか。次の**条件1**と**条件2**にしたがって書きなさい。

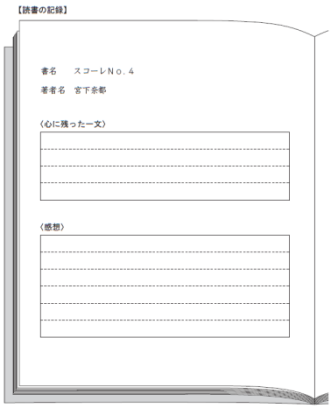
なお、読み返して文章を直したいときは、二本線で消したり行間に書き加えたりしてもかまいません。

条件1　〈心に残った一文〉は、**【本の一部】**から、比喩を用いた表現が含まれる一文を抜き出して書くこと。

条件2　〈感想〉は、**条件1**で取り上げた表現について、「誰（何）」の、「どのような」様子なのかを明確にした上で、あなたが感じたことや考えたことを具体的に書くこと。

【本の紹介カード】

【読書の記録】



【正答例】 1 三
＜心に残った一文＞
皿が笑っている。
＜感想＞
皿が雨に濡れてとても美しく見える様子。「皿が美しい」と比喩を用いずに表現するよりも、皿の美しさが鮮明に伝わる。

	正答率
山口県	42.7%
全　国	41.4%

（３）－④　具体的な問題と解答状況　－中学校数学－

〇相当数の生徒ができている点

【中学校　数学Ａ】

〇　実生活の場面において、ある数量が正の数と負の数で表されることを理解することについて、正答率が高い。

1（４）下の表のＡの段は，ある地点の５年間の桜の開花日を表しています。また，Ｂの段は，３月25日を基準にして，それより遅い場合には正の数，早い場合には負の数で，基準との日数の差を表しています。表の □ に当てはまる数を求めなさい。

【正答】1 (4)　－２

年		2012	2013	2014	2015	2016
A	開花日	3月30日	3月17日	3月24日	3月27日	3月23日
B	基準との日数の差	＋5	－8	－1	＋2	□

	正答率
山口県	92.7%
全　国	89.4%

【中学校　数学Ｂ】

〇　与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取ることについて、正答率が高い。

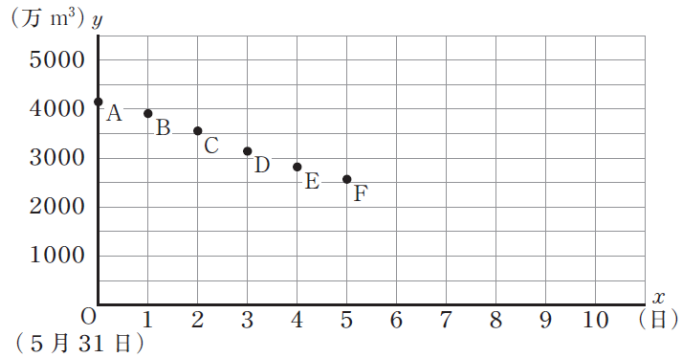
3 (1)

康平さんは，ダムの貯水量が減ってきており，水不足の心配があることを新聞で知りました。そこで，新聞に載っていたダムについて，毎日の同時刻の貯水量を調べました。そして，５月31日から x 日後のダムの貯水量を y 万 m^3 として，次のように表にまとめ，下のグラフに表しました。

調べた結果

５月31日から経過した日数と貯水量

経過した日数 x（日）	0	1	2	3	4	5
貯水量 y（万 m^3）	4140	3920	3540	3140	2820	2570



【正答】3 (1)　点Ｅ

（１）**調べた結果**のグラフにおいて，５月31日から４日経過したときに，貯水量が2820万 m^3 であったことを表す点はどれですか。点Ａから点Ｆまでの中から記号を１つ書きなさい。

	正答率
山口県	91.7%
全　国	90.8%

●課題のある点

【中学校　数学Ａ】

● 関数の意味を理解することについて、課題が見られる。

9

縦と横の長さの和が20 cmの長方形について，「縦の長さを決めると，それにともなって面積がただ1つ決まる」という関係があります。

下線部を，次のように表すとき，［　①　］と［　②　］に当てはまる言葉を書きなさい。

［　①　］は［　②　］の関数である。

【正答】9　①面積　②縦の長さ

	正答率
山口県	20.7%
全　国	20.6%

【参考】関連過去問題　平成２６年度　全国学力・学習状況調査　中学校数学Ａより

9　下の表は，ある運送会社の書類の宅配サービスの料金表です。

重量	100 g まで	250 g まで	500 g まで	1 kg まで
料金	150 円	190 円	270 円	320 円

このサービスで扱える書類の重量は 1 kg までです。

このとき，1 kg までの書類の重量と料金について，「重量を決めると，それにともなって料金がただ1つ決まる」という関係があります。

下線部を，次のように表すとき，［　①　］と［　②　］に当てはまる言葉を書きなさい。

［　①　］は［　②　］の関数である。

【正答】9　①料金　②重量

	正答率
山口県	36.9%
全　国	35.8%

【中学校　数学Ｂ】

● ２つの図形の関係を回転移動に着目して捉え、数学的な表現を用いて説明することについて、課題が見られる。

1 (2)

万華鏡（まんげきょう）は次のような筒状のおもちゃで，中に３枚の鏡を組み合わせた正三角柱が入っています。鏡が内側に向いているので，中をのぞくと，正三角柱の底面にある模様が周りの鏡に映って，美しい模様が見えます。

正三角柱の底面にある模様が**図１**である場合，**図２**のような模様が見えます。これは，隣り合う正三角形がすべて，共通する辺を軸に線対称になっているとみることができます。例えば，**図３**にある４枚の正三角形に着目すると，隣り合う正三角形は，共通する辺を軸に線対称になっていることがわかります。

図１

図２

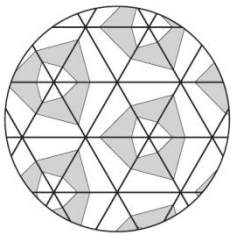
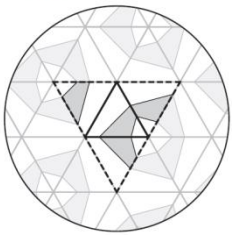
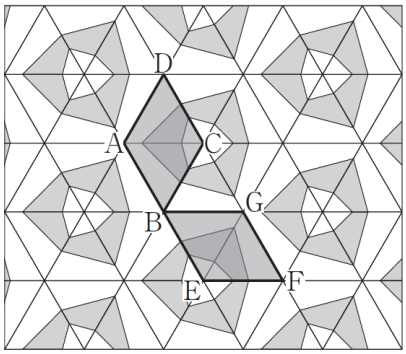


図３



（２）前ページの**図２**の模様を**図５**のように広い範囲で考えます。**図５**の四角形ABCDの模様は，１回の回転移動で四角形GBEFの模様に重なります。四角形ABCDの模様は，どのような回転移動によって四角形GBEFの模様に重なるか書きなさい。

図５



【正答】1 (2)

(例)四角形ＡＢＣＤを点Ｂを回転の中心として、時計回りに１２０°回転移動した図形は、四角形ＧＢＥＦに重なる。

	正答率
山口県	13.3%
全　国	14.0%

２　質問紙調査の結果

（１）授業改善～児童生徒質問紙と学校質問紙との関連設問～

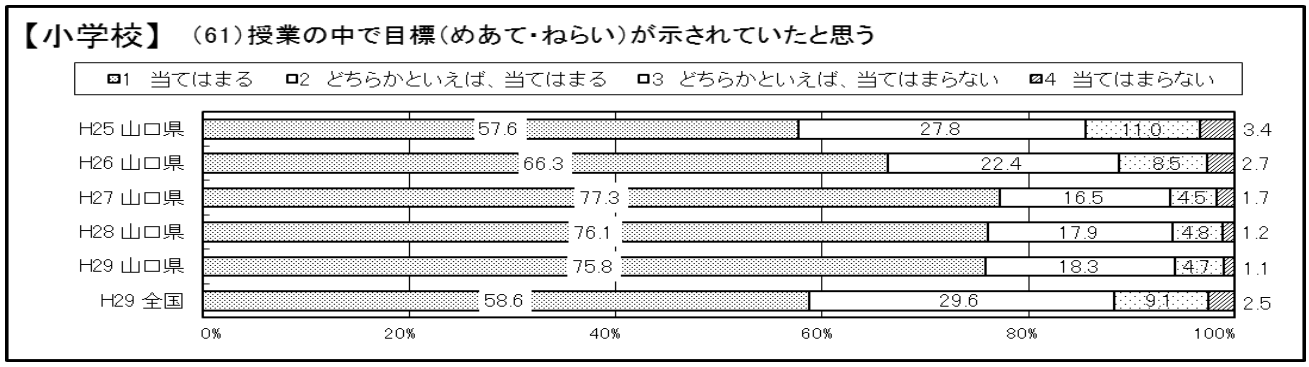
①授業の目標（めあて・ねらい）

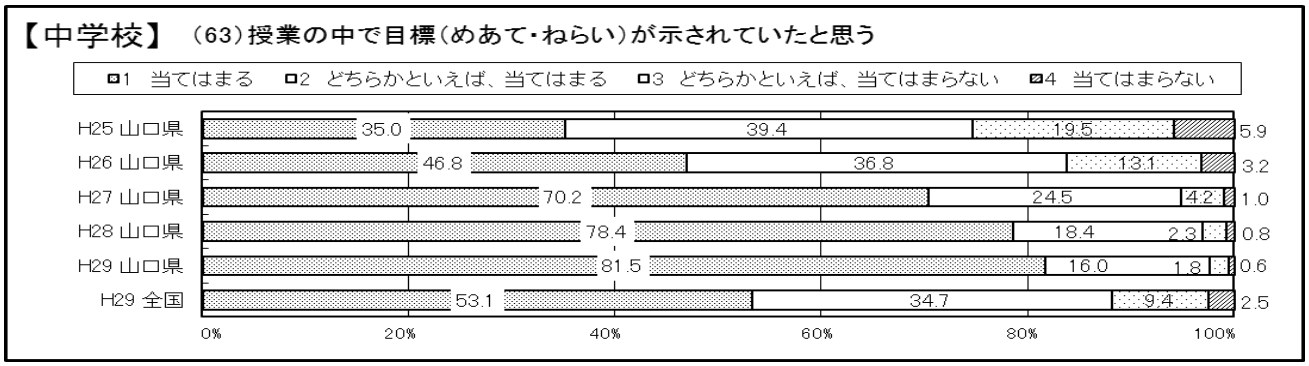
○　授業の中で目標（めあて・ねらい）を示すことについて、肯定的に回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに全国に比べて高い。

●　児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差が小さくなっており、特に中学校においては大きく改善しているものの、小学校では依然として差がある。

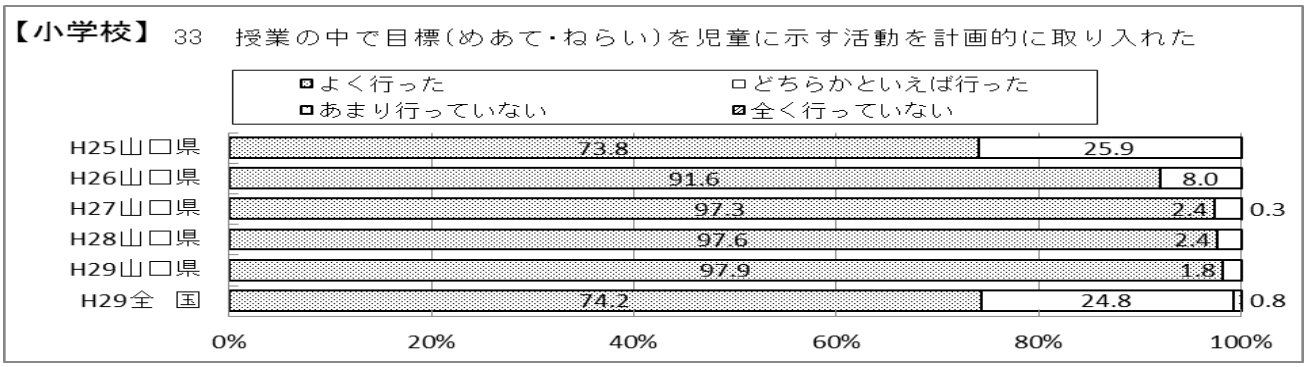
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、児童生徒に目標が明確に伝わり、見通しをもって学習に臨むことができるよう、提示方法を工夫したり、目標の質を向上させたりするなど、計画的に取り組むことが必要である。

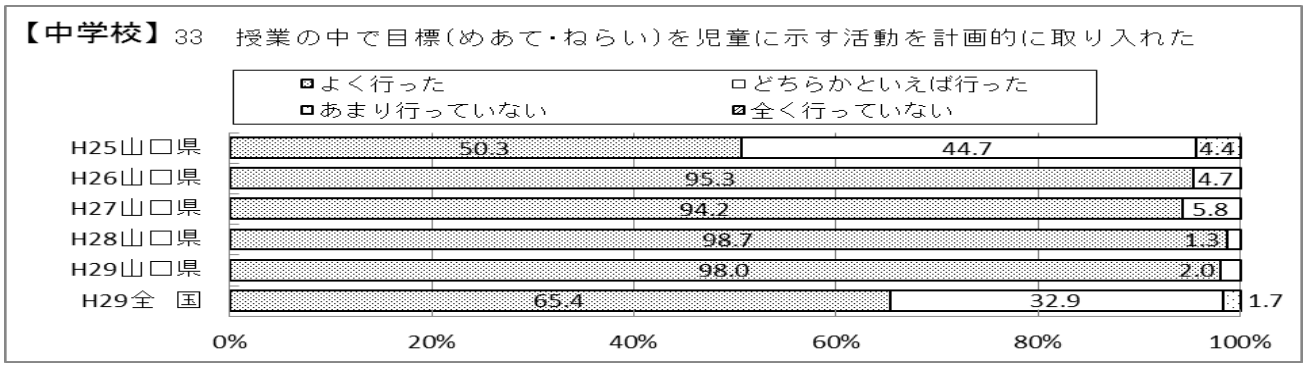
［児童生徒質問紙］





［学校質問紙］





［学校と児童生徒の回答状況の比較］

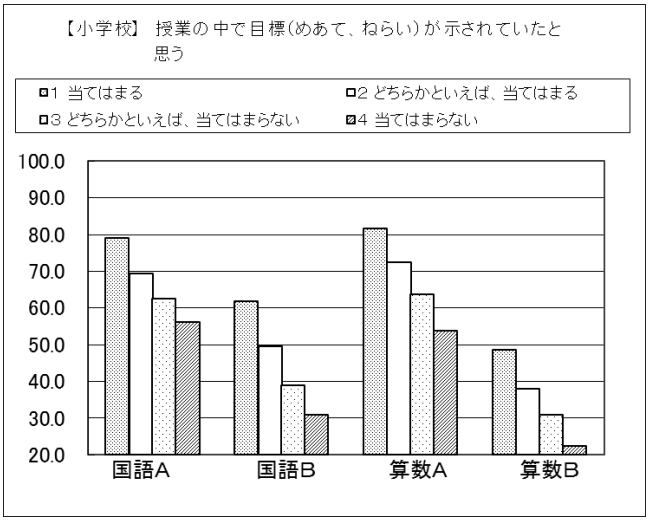
【小学校】

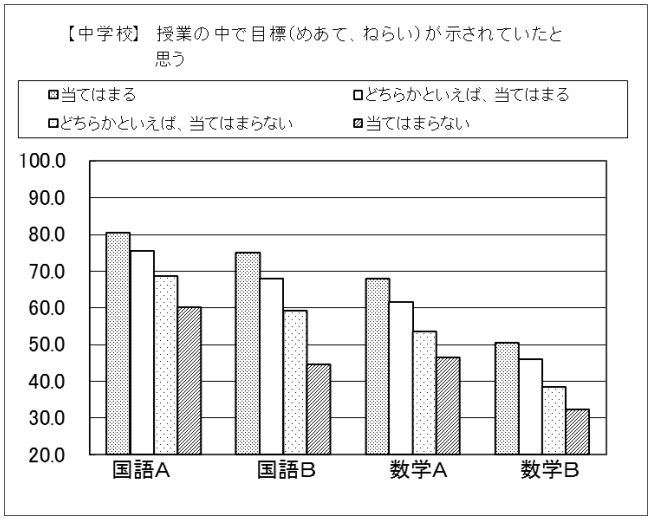
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25 年度	９９．７％	８５．４％	１４．３
26 年度	９９．６％	８８．７％	１０．９
27 年度	９９．７％	９３．８％	５．９
28 年度	１００．０％	９４．０％	６．０
29 年度	９９．７％	９４．１％	５．６

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25 年度	９５．０％	７４．４％	２０．６
26 年度	９８．７％	８３．６％	１５．１
27 年度	１００．０％	９４．７％	５．３
28 年度	１００．０％	９６．８％	３．２
29 年度	１００．０％	９７．５％	２．５

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





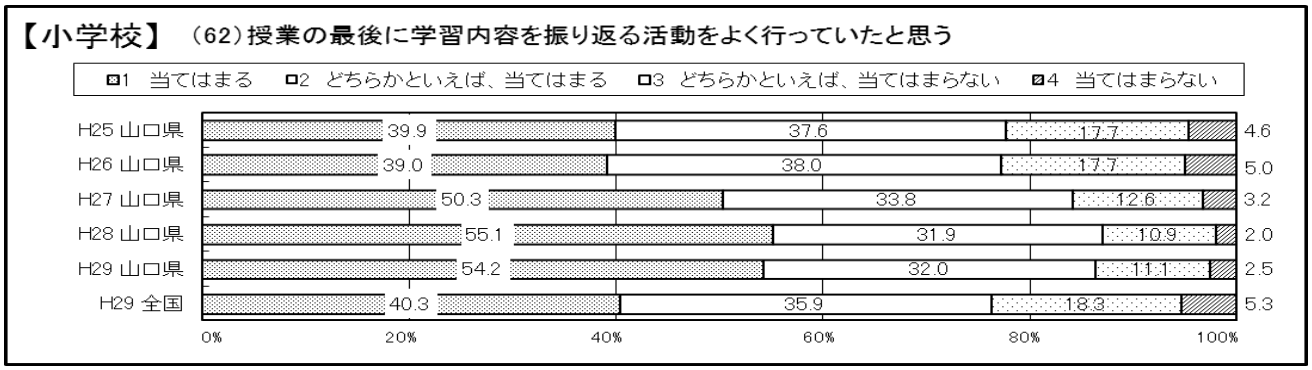
②授業の振り返り

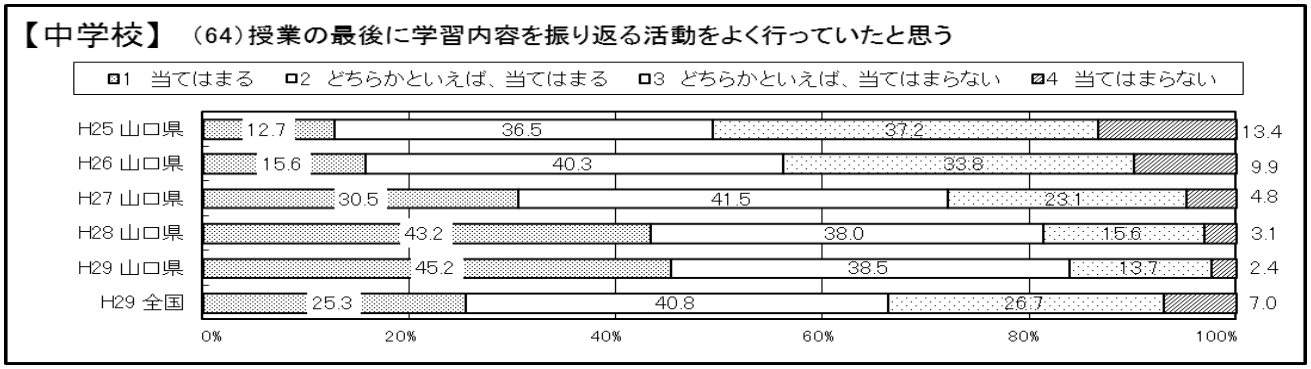
○　授業の最後に学習内容を振り返る活動を行ったことについて、肯定的に回答した児童生徒の割合と計画的に取り入れた学校の割合は、ともに全国に比べて高く、全ての中学校で行っている。

●　児童生徒と学校の回答状況を比較すると、依然として開きがあり、そのように受け取っていない児童が１３．５%、生徒が１６．３%いる。

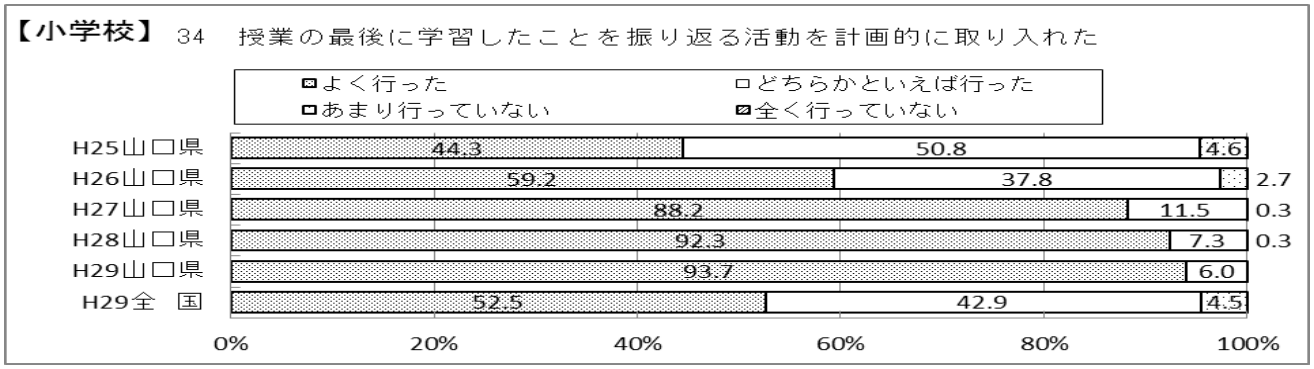
☞　小学校では、肯定的に回答した児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。一方、中学校の生徒には、必ずしもその傾向が見られないことから、毎時間の授業を通じて、何が分かったか、何ができるようになったか等を整理するような、振り返りの活動を計画的に取り入れるとともに、学習の振り返りの質の向上を図る必要がある。

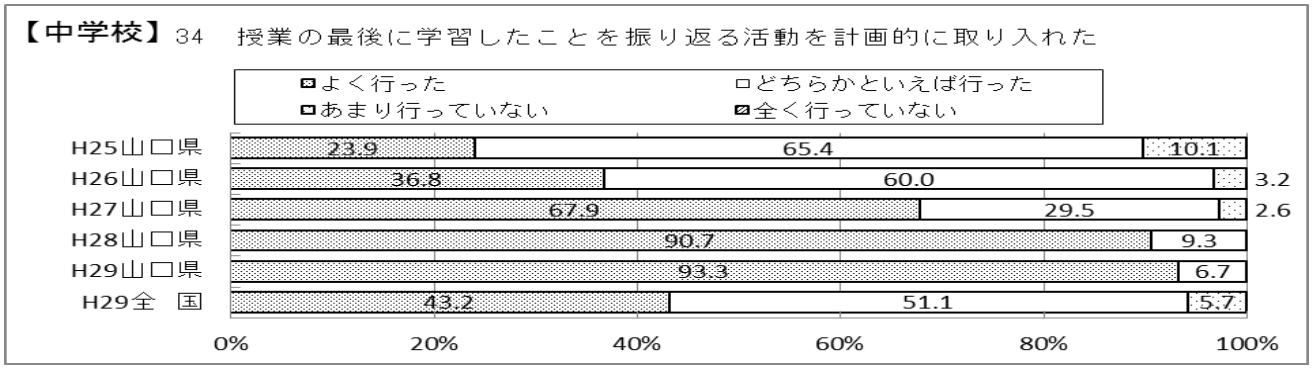
[児童生徒質問紙]





[学校質問紙]





［学校と児童生徒の回答状況の比較］

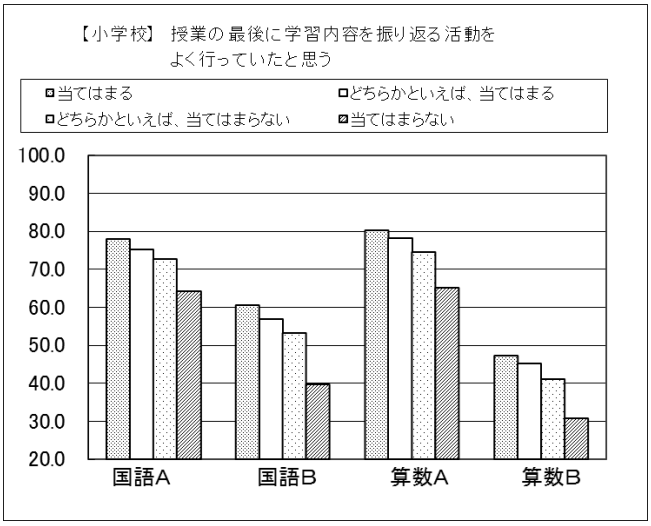
【小学校】

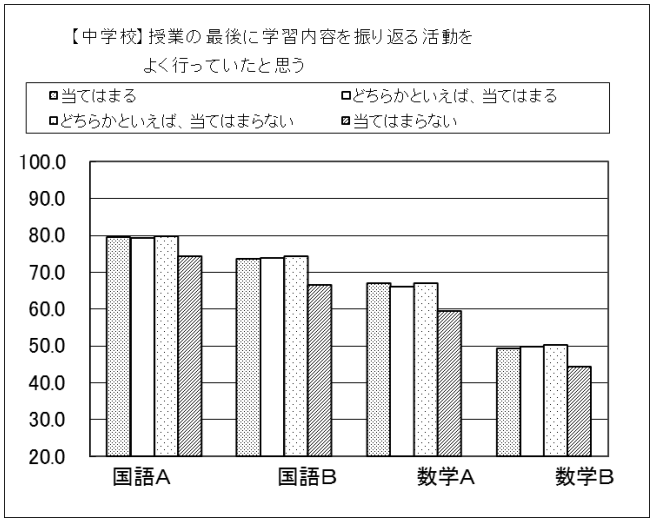
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25 年度	９７．４％	８１．０％	１６．４
26 年度	９８．０％	８８．９％	９．１
27 年度	９９．７％	８４．１％	１５．６
28 年度	９９．６％	８７．０％	１２．６
29 年度	９９．７％	８６．２％	１３．５

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25 年度	９３．１％	７３．４％	１９．７
26 年度	９７．４％	８４．５％	１２．９
27 年度	９７．４％	７２．０％	２５．４
28 年度	１００．０％	８１．２％	１８．８
29 年度	１００．０％	８３．７％	１６．３

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





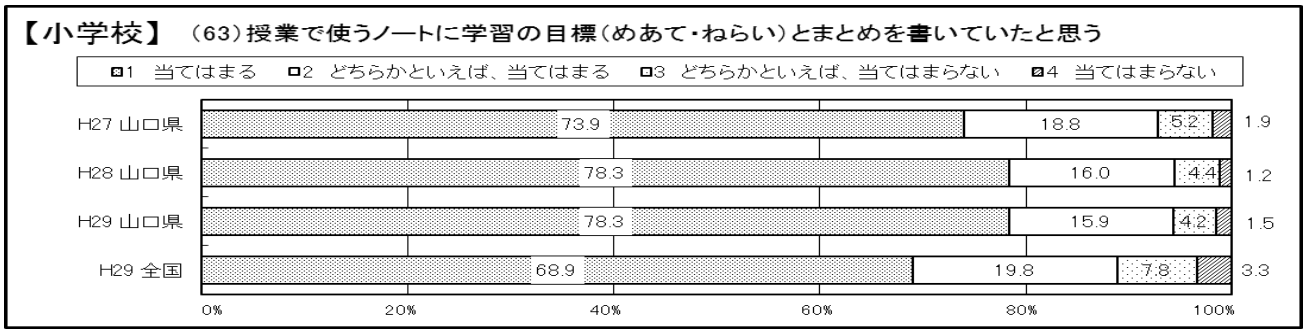
③ノートに目標（めあて・ねらい）とまとめを書く習慣

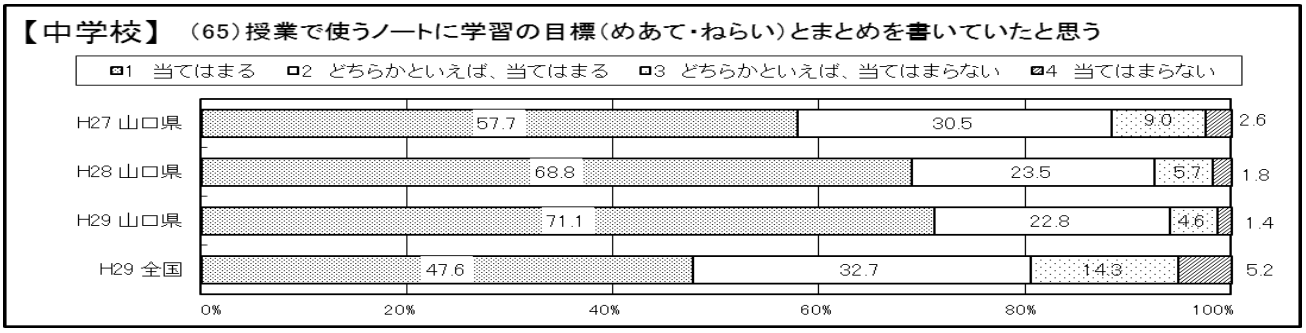
○　授業で使うノートには、学習の目標（めあて・ねらい）とまとめを書いたと思う児童生徒の割合と、そのように指導した学校の割合は、全国に比べて高い。

●　児童生徒と学校の回答状況を比較すると、依然として開きがある。また、小、中学校ともに学校の割合は減少している。

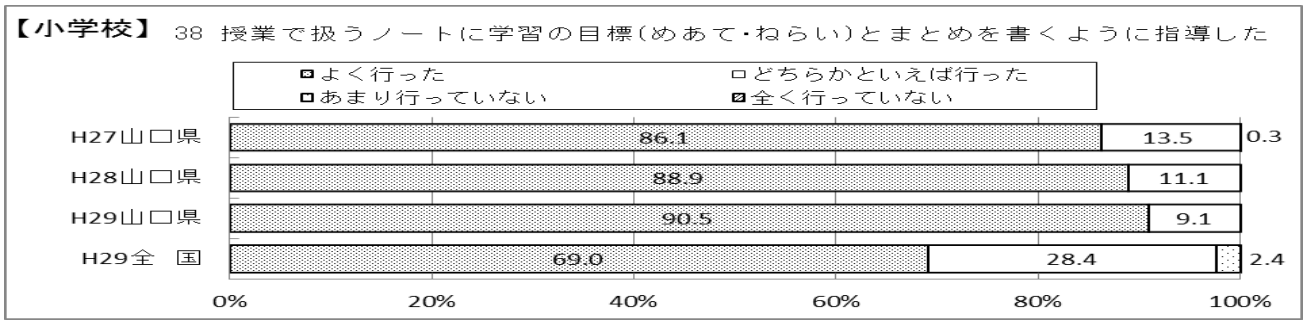
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。また、児童生徒の意識は向上していることから、引き続き、目標やまとめの記述が意識できるような働きかけや、効果的・機能的で、より質の高いノート指導を行っていくことが必要である。

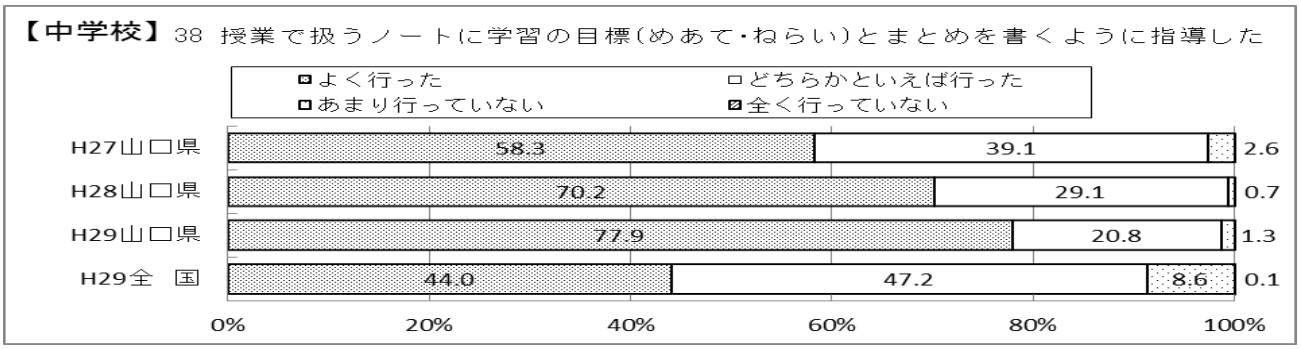
[児童生徒質問紙]





[学校質問紙]





［学校と児童生徒の回答状況の比較］

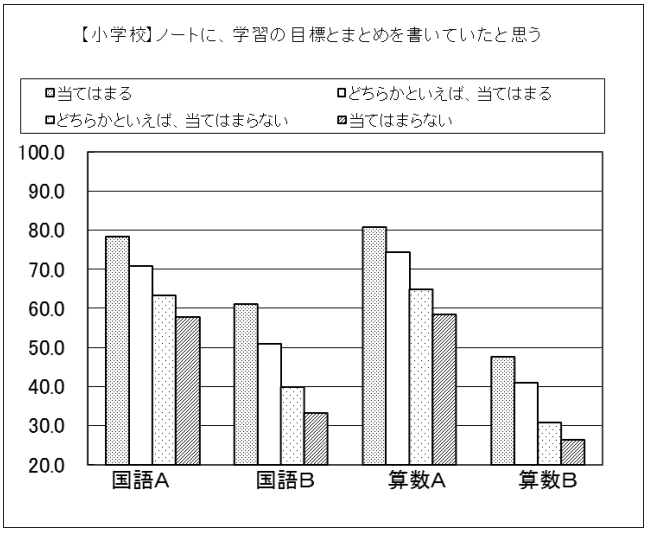
【小学校】

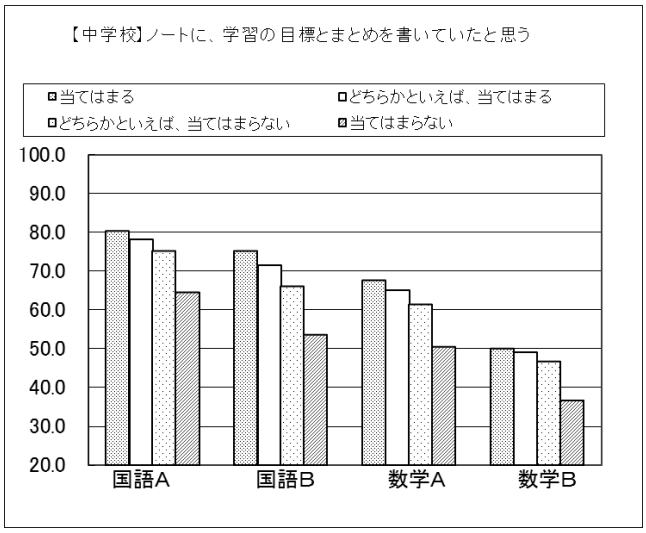
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
27 年度	９９．６％	９２．７％	６．９
28 年度	１００．０％	９４．３％	５．７
29 年度	９９．６％	９４．２％	５．４

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
27 年度	９７．４％	８８．２％	９．２
28 年度	９９．３％	９２．３％	７．０
29 年度	９８．７％	９３．９％	４．８

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





④学級やグループで話し合う活動

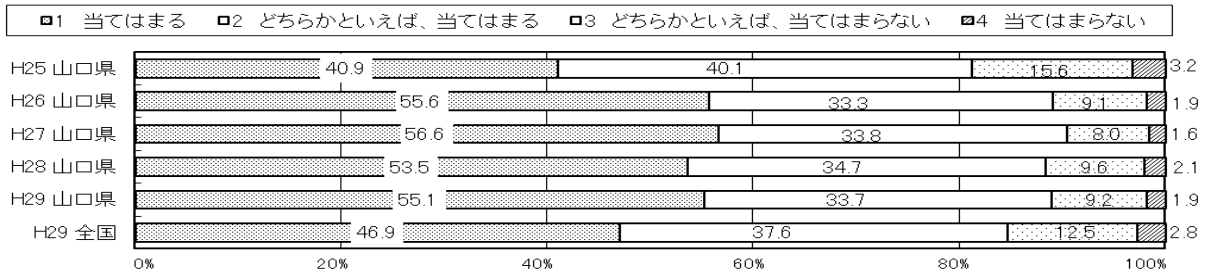
○　授業では、学級の友達との間で話し合う活動を行ったと思う児童生徒の割合と、そのように考えている学校の割合は、全国に比べて高く、中学校では１００％である。

●　児童生徒と学校との回答状況を比較すると、中学校では学校、生徒の割合ともに増加傾向にあり、その差も縮まっているものの、小学校、中学校ともに依然として開きがある。

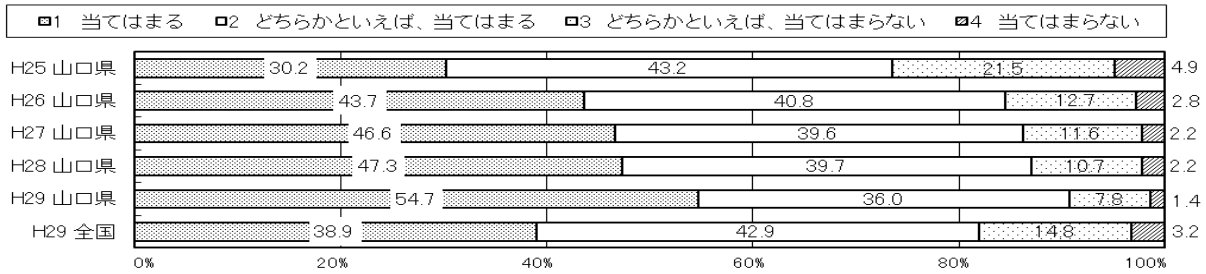
☞ 肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、児童生徒に話し合いの目的や意図を明確にし、効果的な話し合い活動の場の設定に取り組むことが必要である。

[児童生徒質問紙]

【小学校】（57）授業では、学級の友達との間で話し合う活動をよく行っていたと思う

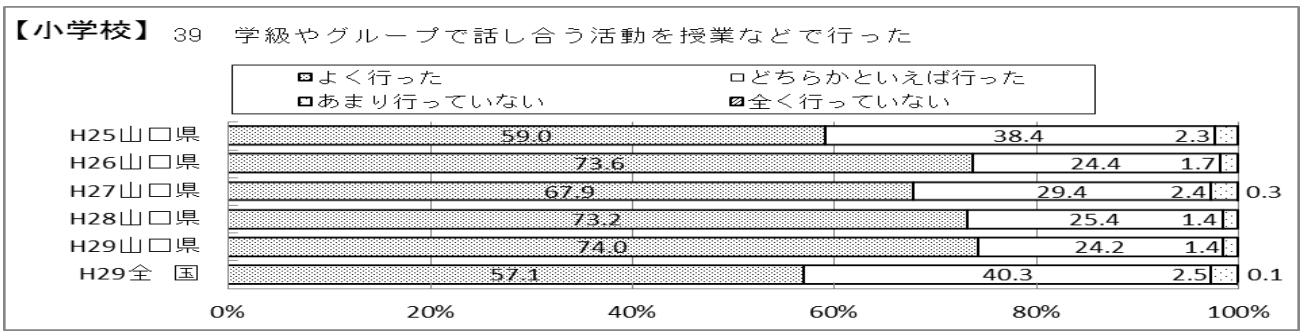


【中学校】（59）授業では、生徒の間で話し合う活動をよく行っていたと思う

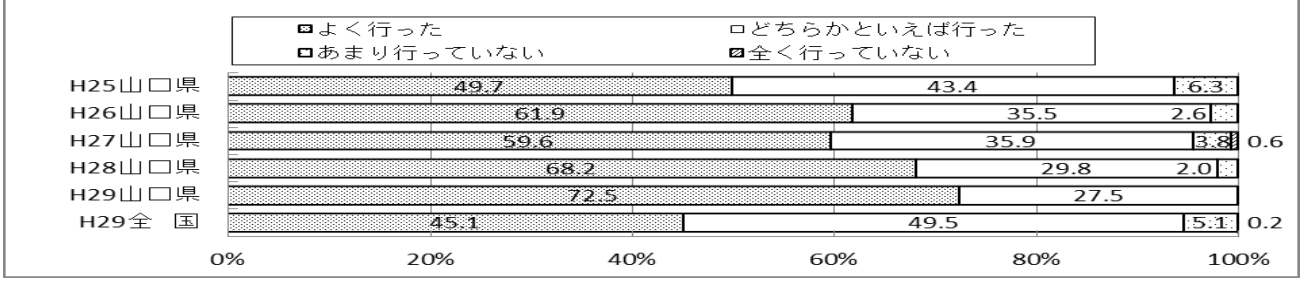


[学校質問紙]

【小学校】 39　学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



【中学校】 39　学級やグループで話し合う活動を授業などで行った



［学校と児童生徒の回答状況の比較］

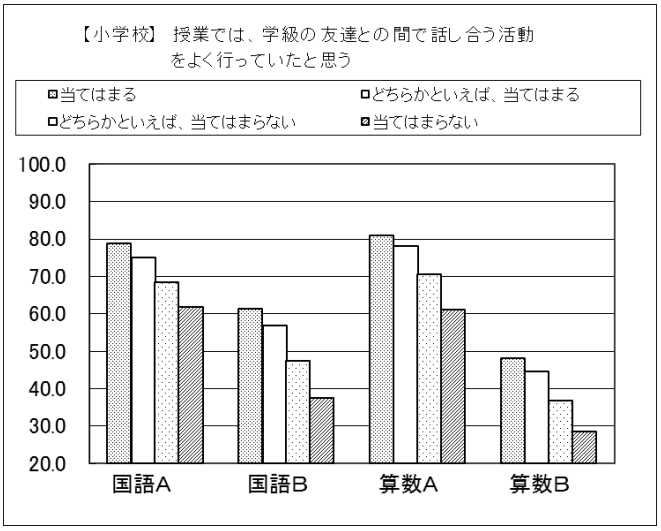
【小学校】

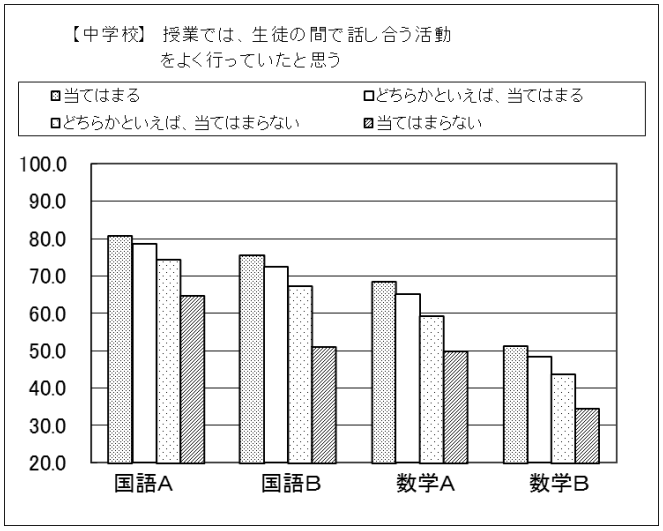
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25 年度	９７．４％	８１．０％	１６．４
26 年度	９８．０％	８８．９％	９．１
27 年度	９７．３％	９０．４％	６．９
28 年度	９８．６％	８８．２％	１０．４
29 年度	９８．２％	８８．８％	９．４

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25 年度	９３．１％	７３．４％	１９．７
26 年度	９７．４％	８４．５％	１２．９
27 年度	９５．５％	８６．２％	９．３
28 年度	９８．０％	８７．０％	１１．０
29 年度	１００．０％	９０．７％	９．３

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





⑤話合いで自分の考えを深めたり広げたりする

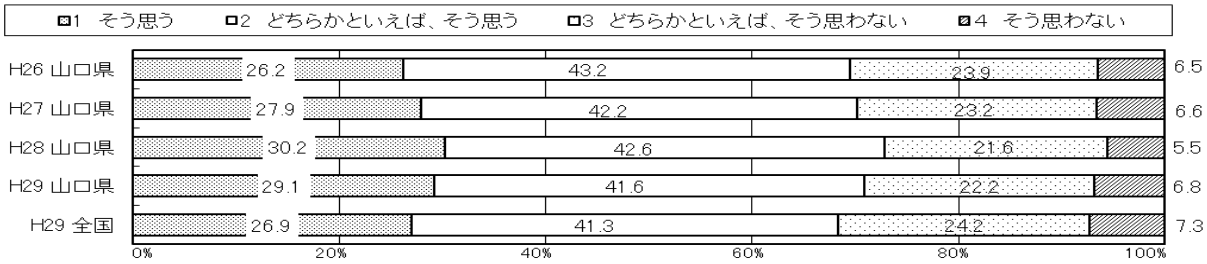
○　学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う児童生徒の割合は、全国に比べて高い。また、児童生徒ができていると考えている学校の割合も全国に比べて高い。

●　児童生徒と学校との回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は大きく、特に小学校の差が大きい。

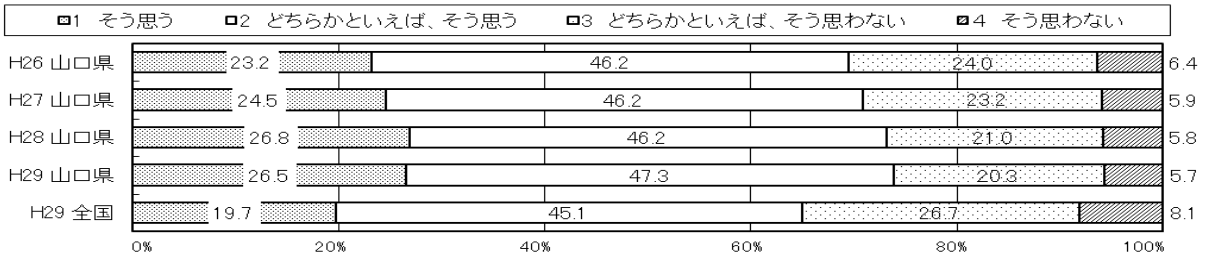
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、話し合う内容を精査したり、話し合いにより自分の考えがどのように変わったかを子どもに自己評価させたりすること等により、考えを広げ深める「対話的な学び」の実現ができているかという視点で、授業改善を考えていく必要がある。

［児童生徒質問紙］

【小学校】（68）学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

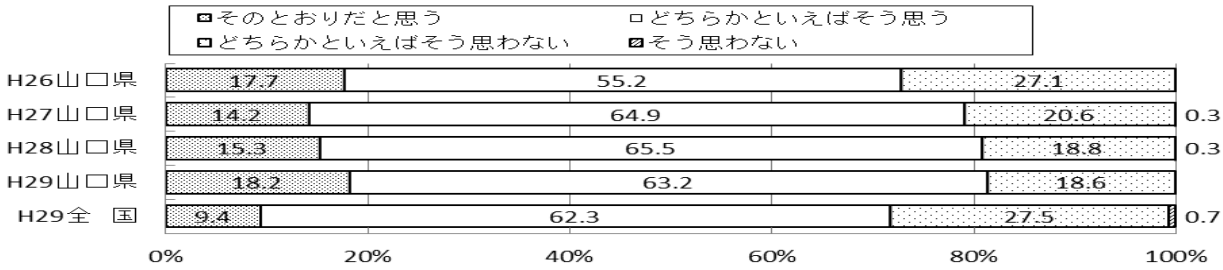


【中学校】（70）生徒の間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う

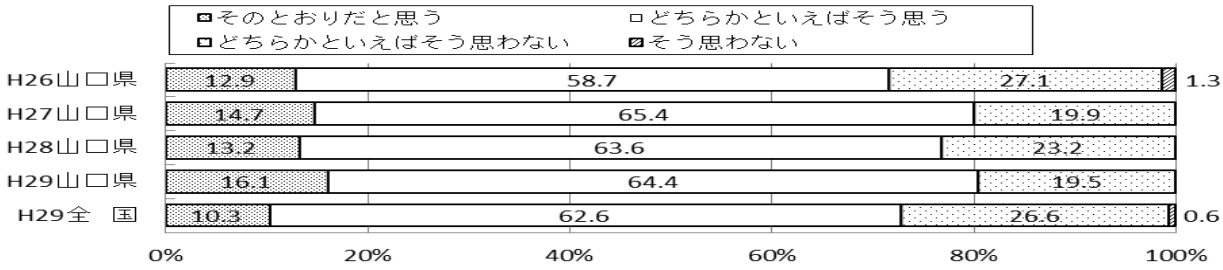


［学校質問紙］

【小学校】17　児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



【中学校】17　生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている



［学校と児童生徒の回答状況の比較］

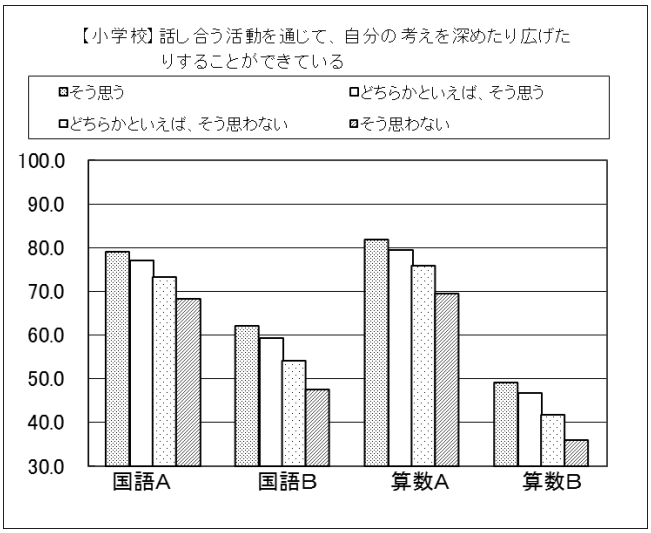
【小学校】

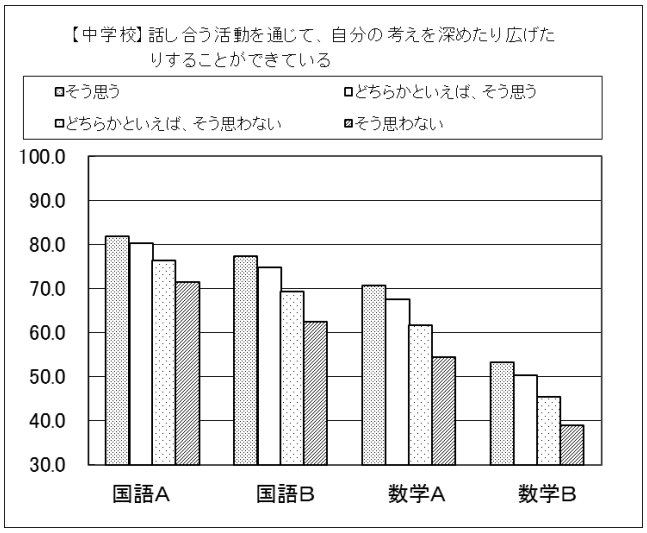
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「そう思う」・「どちらかといえば、そう思う」と回答した児童の割合	
26 年度	７２．９％	６９．４％	３．５
27 年度	７９．１％	７０．１％	９．０
28 年度	８０．８％	７２．８％	８．０
29 年度	８１．４％	７０．７％	１０．７

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「そう思う」・「どちらかといえば、そう思う」と回答した生徒の割合	
26 年度	７１．６％	６９．４％	２．２
27 年度	８０．１％	７０．７％	９．４
28 年度	７６．８％	７３．０％	３．８
29 年度	８０．５％	７３．８％	６．７

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





⑥課題解決的な学習活動

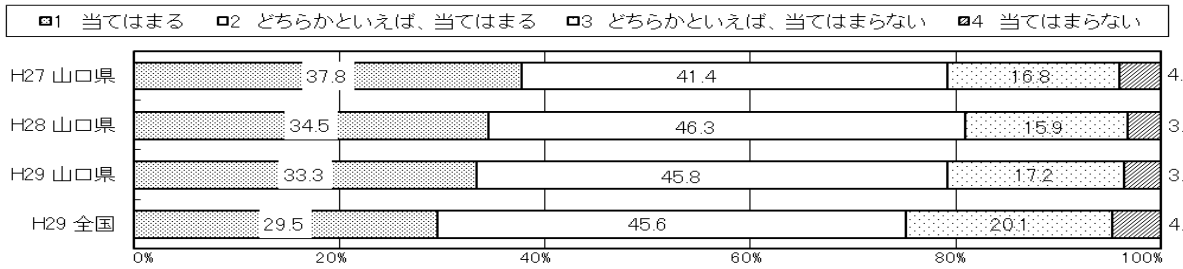
○　授業では、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う児童生徒の割合と、そのような活動を行ったと考えている学校の割合は、全国に比べて高い。

●　中学校では、学校、生徒ともに肯定的な回答の割合は年々増加している一方で、小学校の児童は、学校の回答に反して減少傾向にある。また、児童生徒と学校の回答状況を比較すると、肯定的な回答の割合の差は、小学校、中学校ともに大きい。

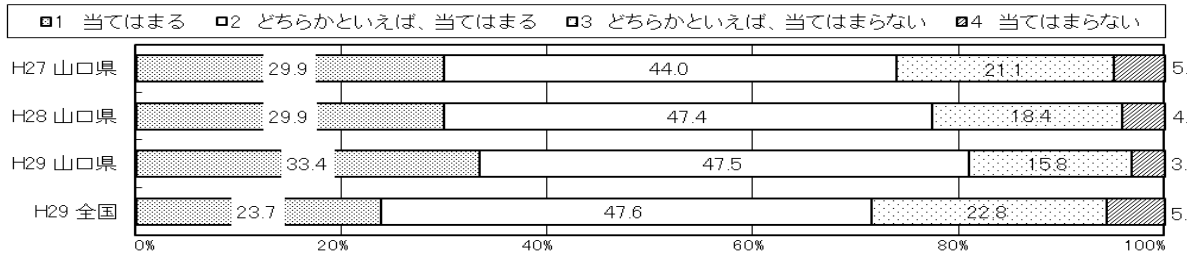
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、新学習指導要領の趣旨を理解し、各教科等の特質に応じて、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善に積極的に取り組んでいく必要がある。

［児童生徒質問紙］

【小学校】　(58)授業では、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

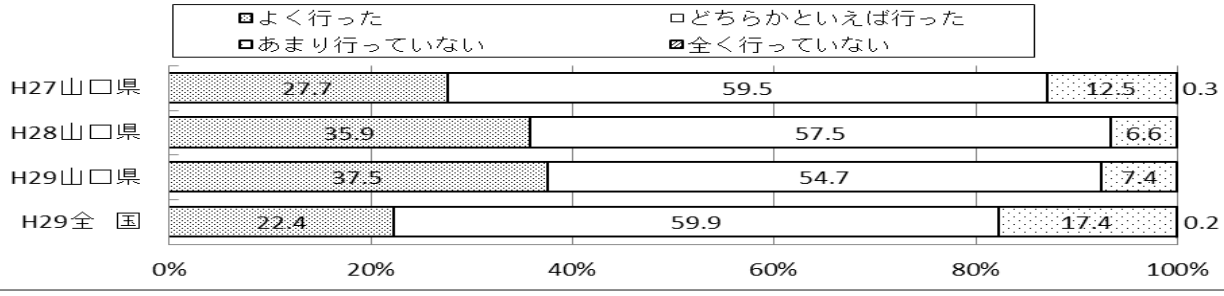


【中学校】　(60)授業では、自分たちで課題を立てて、その解決に向けて情報を集め、話し合いながら整理して、発表するなどの学習活動に取り組んでいたと思う

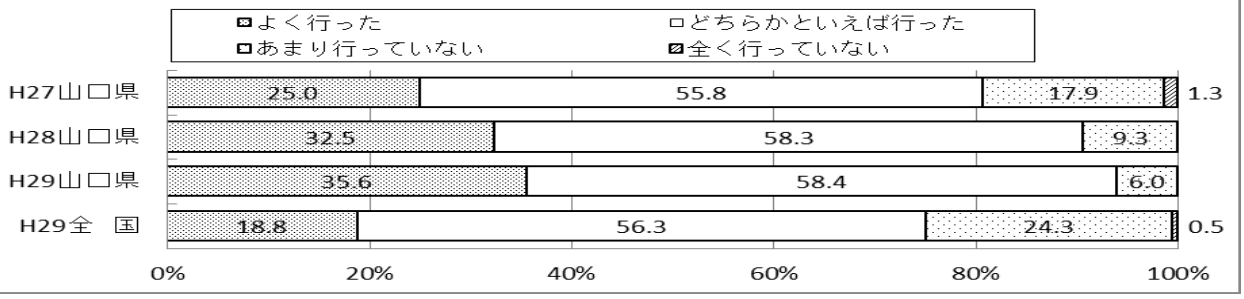


［学校質問紙］

【小学校】　41　授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



【中学校】　41　授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れた



［学校と児童生徒の回答状況の比較］

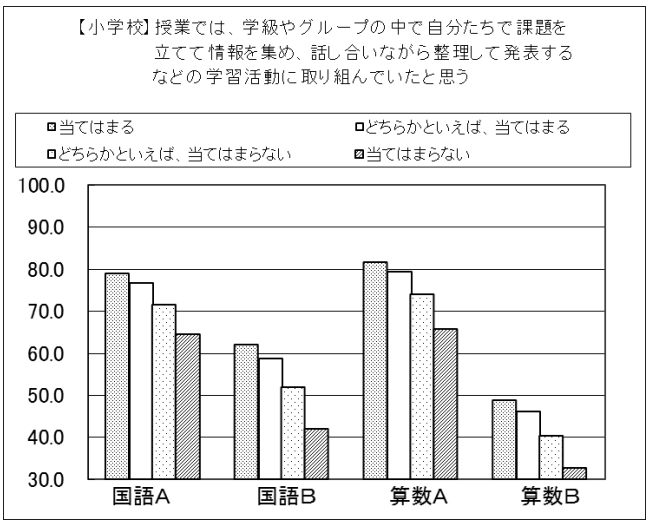
【小学校】

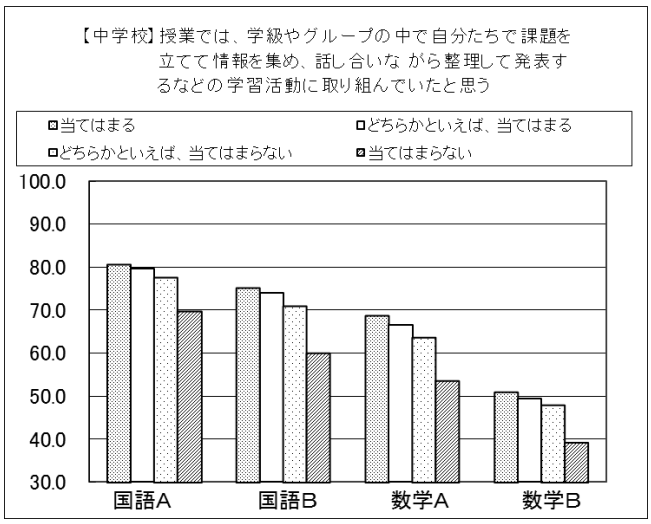
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
27 年度	８７．２％	７９．２％	８．０
28 年度	９３．４％	８０．８％	１２．６
29 年度	９２．２％	７９．１％	１３．１

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
27 年度	８０．８％	７３．９％	６．９
28 年度	９０．８％	７７．３％	１３．５
29 年度	９４．０％	８０．９％	１３．１

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





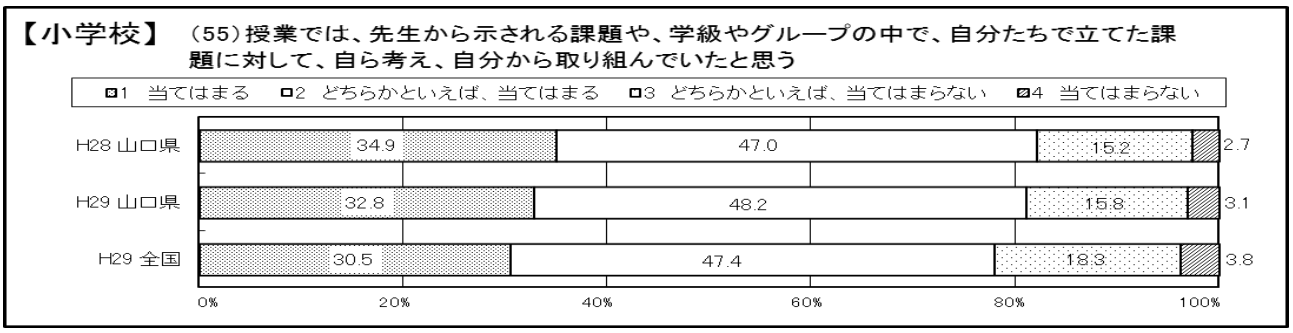
⑦課題に向き合う姿勢

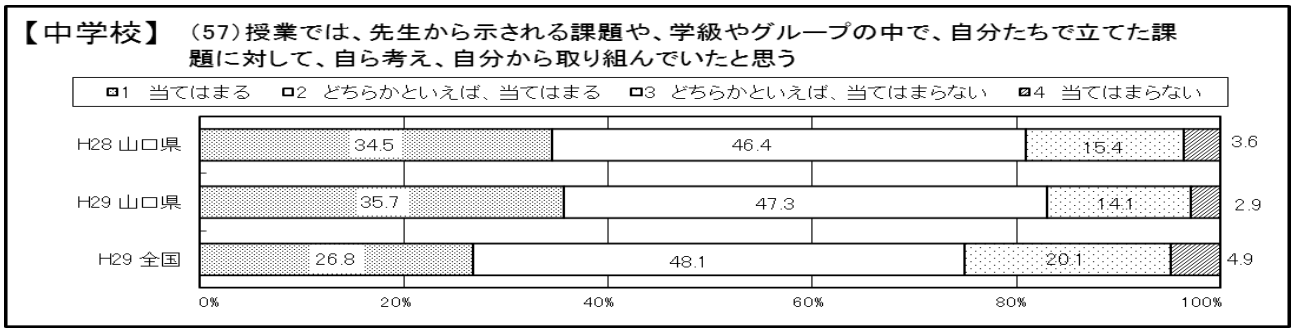
○　先生から示されたり、自分たちで立てたりした課題に対して、自ら考え、自分から取り組んでいたと思う児童生徒の割合と、児童生徒が課題を理解して授業に取り組んだと考えている学校の割合は、全国に比べて高い。

●　児童生徒と学校の回答状況を比較すると、「そのとおりだと思う」学校の割合より、「当てはまる」と思う児童生徒の割合の方が高いものの、肯定的な回答の合計の割合は、学校の方が高く、課題の理解や取組に対する捉え方の違いがうかがえる。

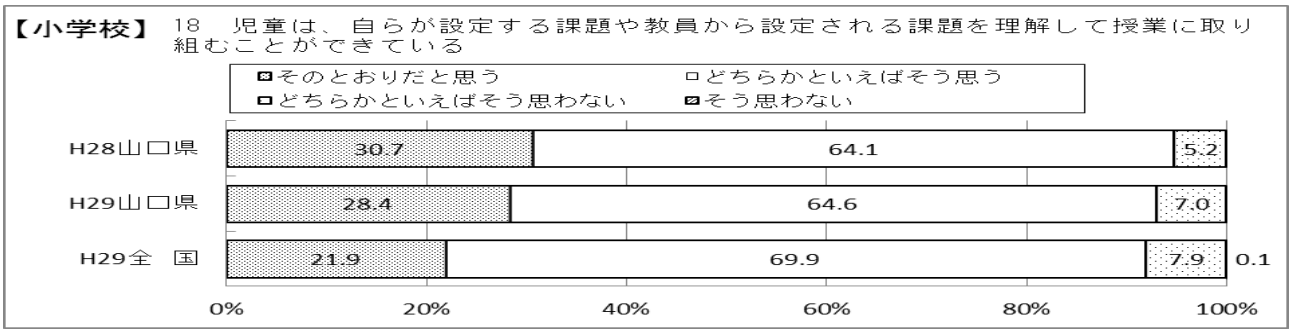
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、子どもたちが興味・関心をもち、見通しをもって取り組める、「主体的な学び」の実現に向け、課題の設定の仕方や取組の充実に向けて工夫改善を行いながら、授業改善を行う必要がある。

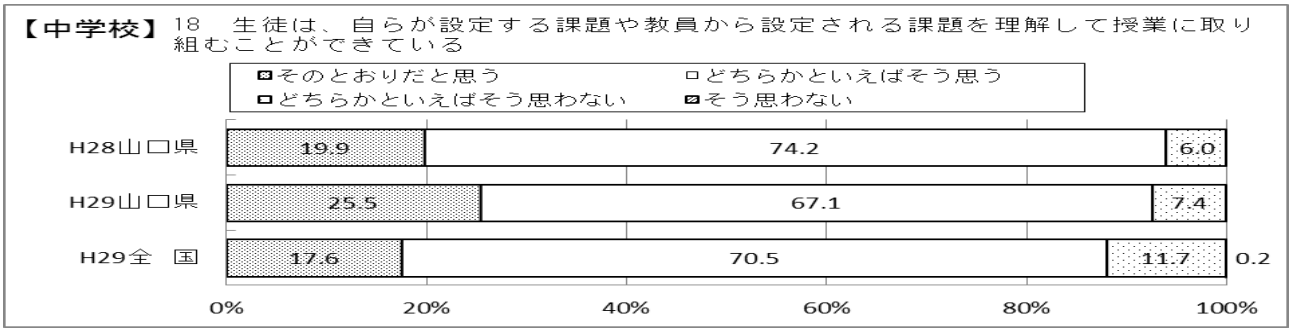
[児童生徒質問紙]





[学校質問紙]





［学校と児童生徒の回答状況の比較］

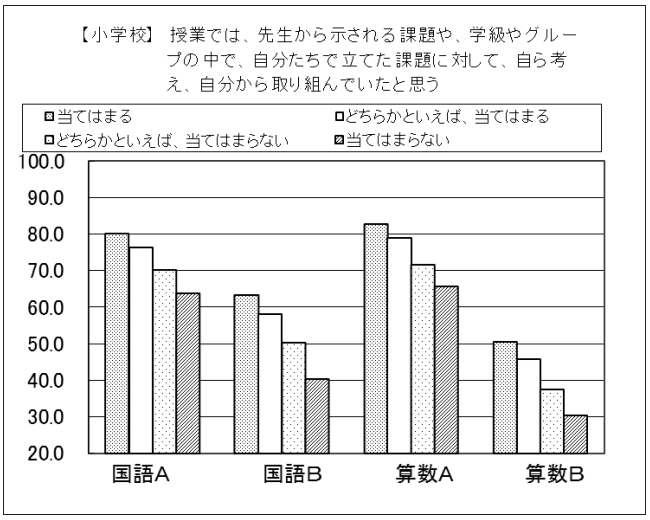
【小学校】

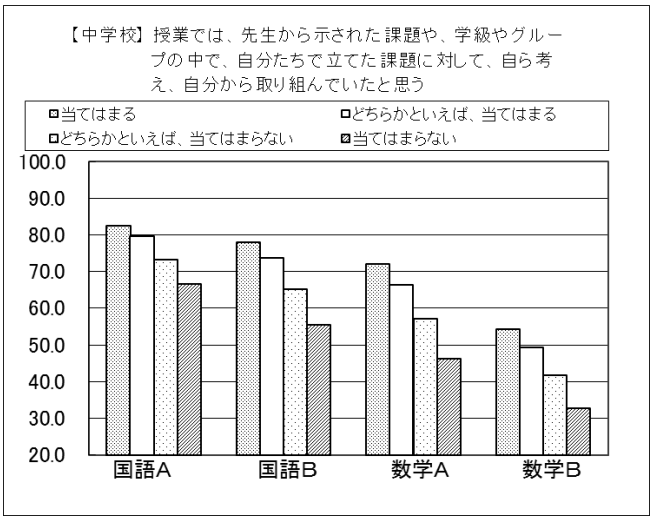
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
28 年度	９４．８％	８１．９％	１２．９
29 年度	９３．０％	８１．０％	１２．０

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「そのとおりだと思う」・「どちらかといえばそう思う」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
28 年度	９４．１％	８０．９％	１３．２
29 年度	９２．６％	８３．０％	９．６

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





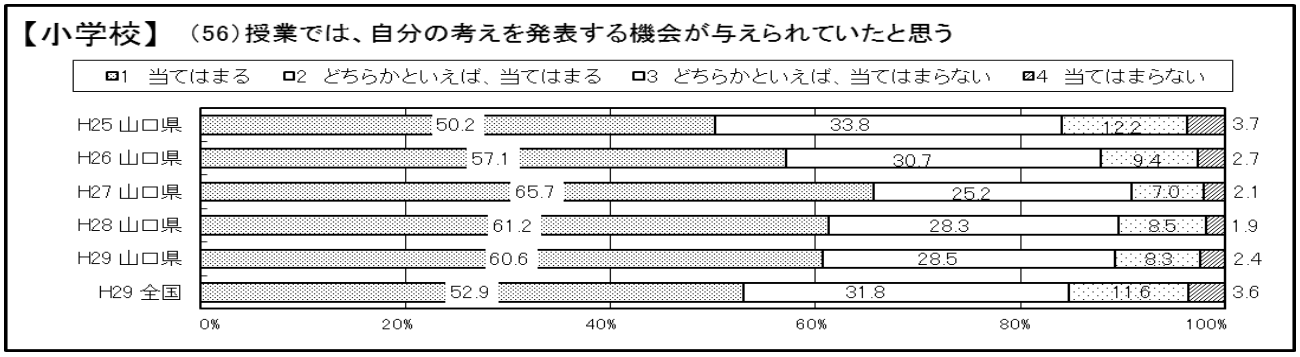
⑧子どもの発言や活動の時間の確保

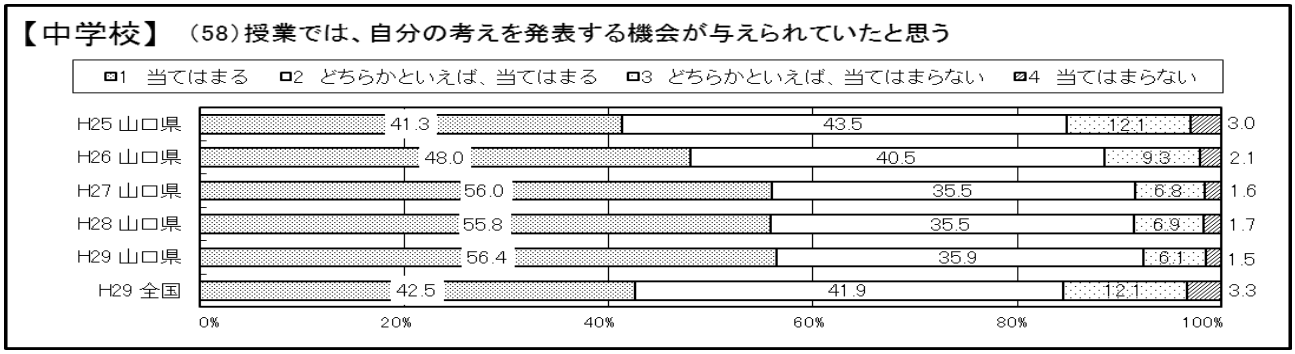
○　自分の考えを発表する機会が与えられていたと思うと回答した児童生徒の割合と、そのような時間を確保して授業を進めた学校の割合は、全国に比べて高い。特に、中学校は学校、生徒ともに増加傾向が見られる。

●　児童生徒と学校の回答状況を比較すると、ほとんどの学校が指導を行ったと回答しているものの意識の差が見られ、特に小学校の児童と学校との意識の差は依然として大きい。

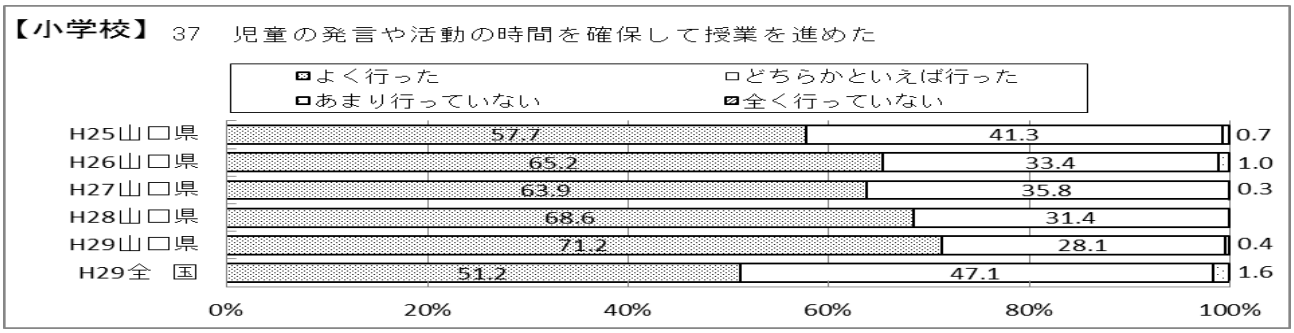
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、各教科等の特質に応じて、児童生徒が、発言や活動ができたと実感できるような場と時間をどのように取り入れるかを考えながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、言語活動を計画的・継続的に充実させることが必要である。

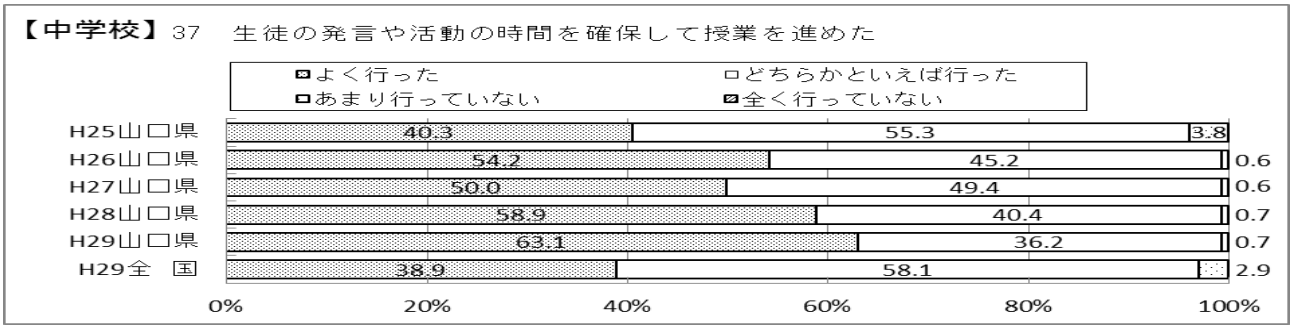
[児童生徒質問紙]





[学校質問紙]





［学校と児童生徒の回答状況の比較］

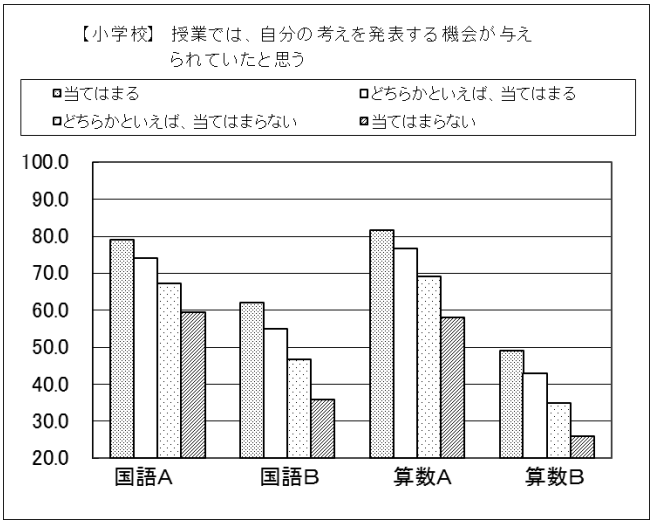
【小学校】

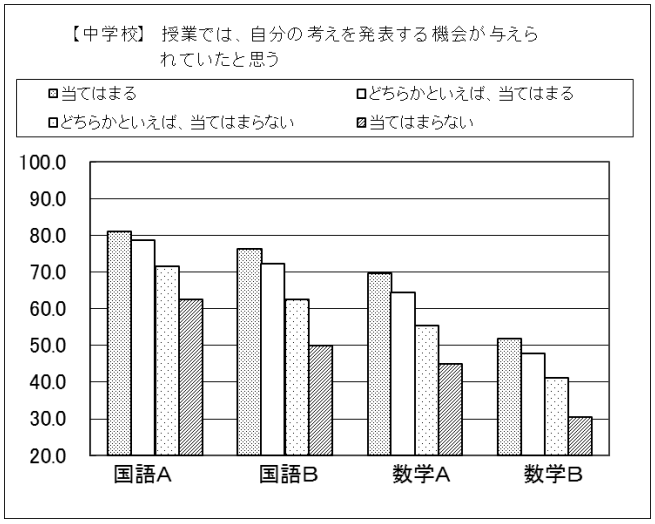
	学校質問紙	児童質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した児童の割合	
25 年度	９９．０％	８４．０％	１５．０
26 年度	９８．６％	８７．８％	１０．８
27 年度	９９．７％	９０．９％	８．８
28 年度	１００．０％	８９．５％	１０．５
29 年度	９９．３％	８９．１％	１０．２

【中学校】

	学校質問紙	生徒質問紙	差
	「よく行った」・「どちらかといえば、行った」と回答した学校の割合	「当てはまる」・「どちらかといえば、当てはまる」と回答した生徒の割合	
25 年度	９５．６％	８４．８％	１０．８
26 年度	９９．４％	８８．５％	１０．９
27 年度	９９．４％	９１．５％	７．９
28 年度	９９．３％	９１．３％	８．０
29 年度	９９．３％	９２．３％	７．０

［児童生徒質問紙の回答と教科の正答率との関係］





（２）児童生徒質問紙

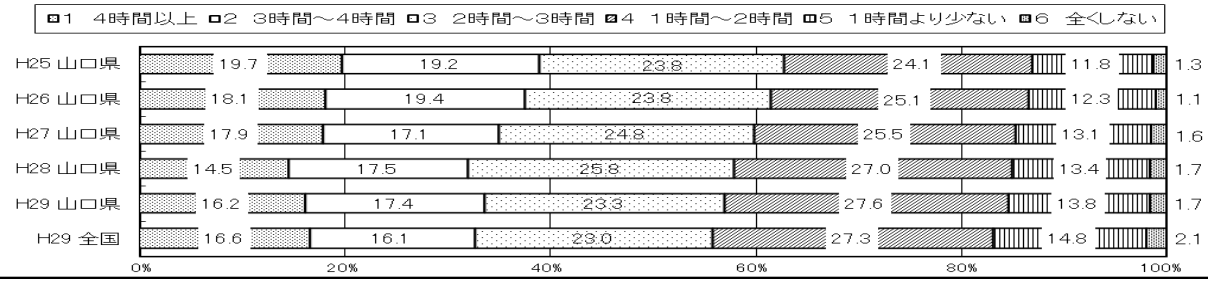
①　家庭での生活習慣

ア　平日のテレビ等の視聴時間

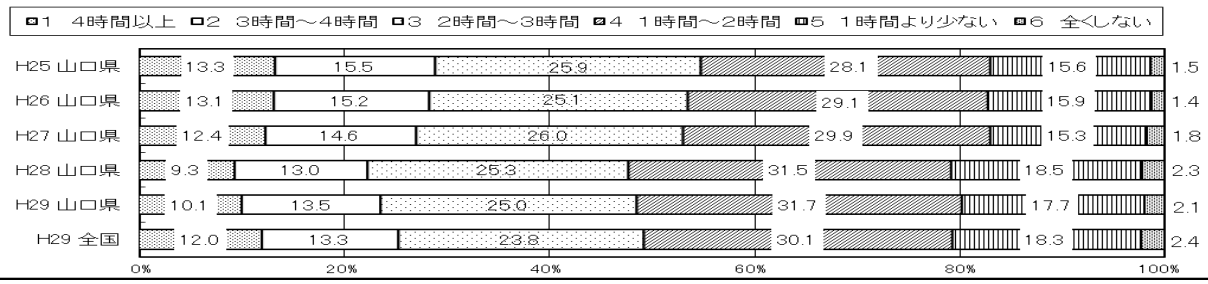
● 平日１日当たり２時間以上テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、聞いたりすると回答した児童生徒の割合は、年々減少しているが、小学校児童の割合は全国に比べて依然として高い。４時間以上テレビやビデオ・ＤＶＤを見たり、聞いたりする児童は１６．２%、生徒は１０．１%いる。

☞ テレビ等の視聴時間に関する家庭のルール作りを推奨する等、引き続き、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

【小学校】 (12) 普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりしますか



【中学校】 (12) 普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、テレビやビデオ・DVD を見たり、聞いたりしますか

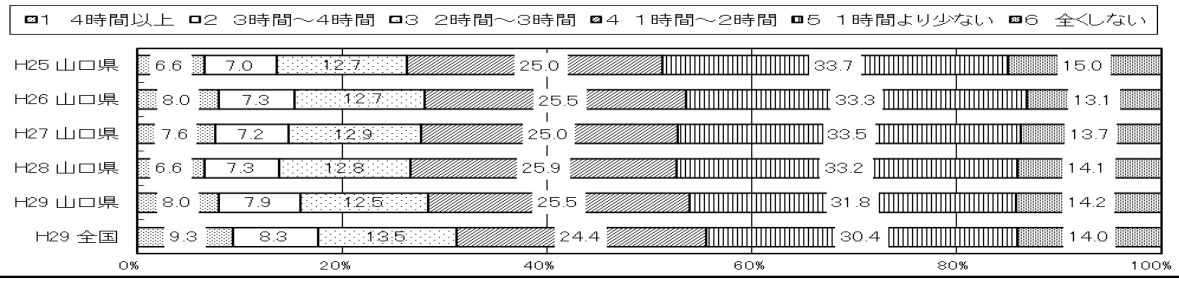


イ　平日のテレビゲームの時間

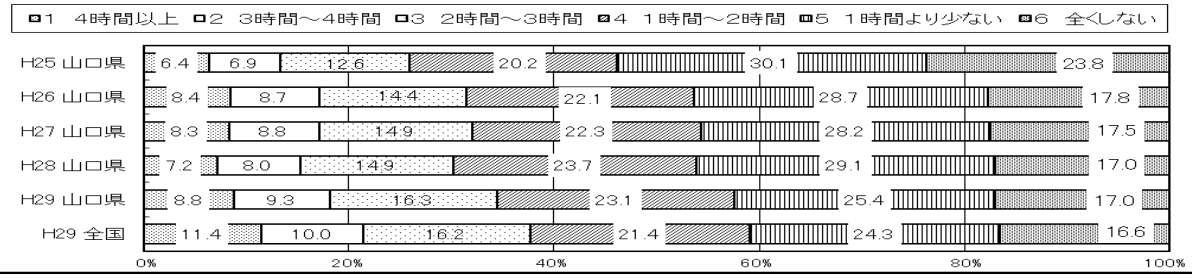
● 平日１日当たり１時間以上テレビゲームをする児童生徒の割合は、全国に比べて低いものの、小学校、中学校ともに過去５年で最も高く、児童より生徒の割合が高い。

☞ テレビゲームに関する家庭のルール作りを推奨する等、引き続き、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

【小学校】 (13) 普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか



【中学校】 (13) 普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか

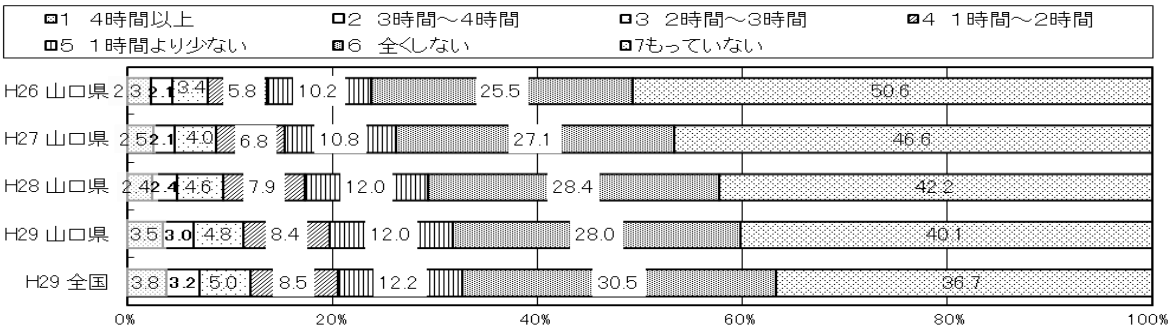


ウ　平日の携帯やスマートフォンでのインターネット利用時間

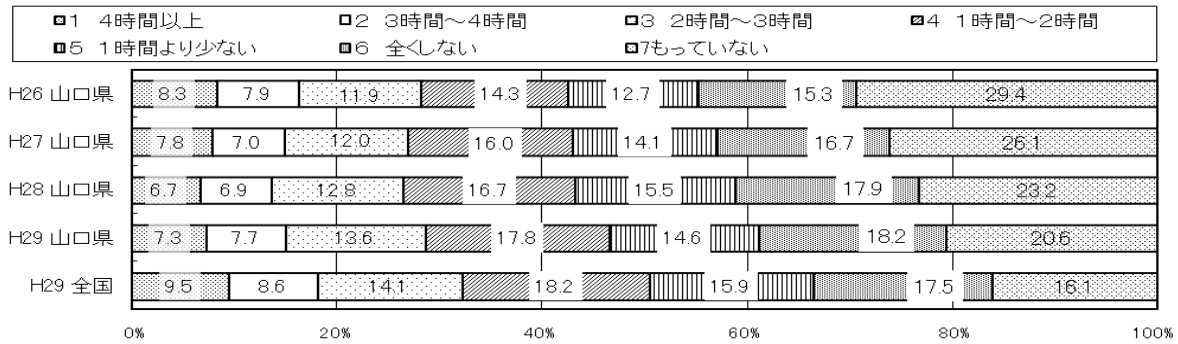
● 平日１日当たり１時間以上、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする児童生徒の割合は、全国に比べて低いものの、年々増加している。また、「もっていない」と回答する児童生徒の割合は、年々減少している。

☞ 平日１日当たり携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをする時間が少ないほど、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。小学生は約６割、中学生は約８割の児童生徒が、携帯電話やスマートフォンを利用していることから、使い方に関する家庭のルール作りを推奨する等、引き続き、家庭との連携・協力を強めていく必要がある。

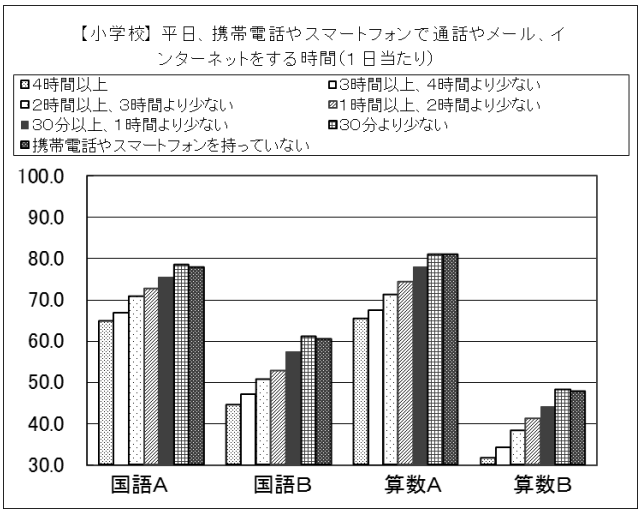
【小学校】 （14） 普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか

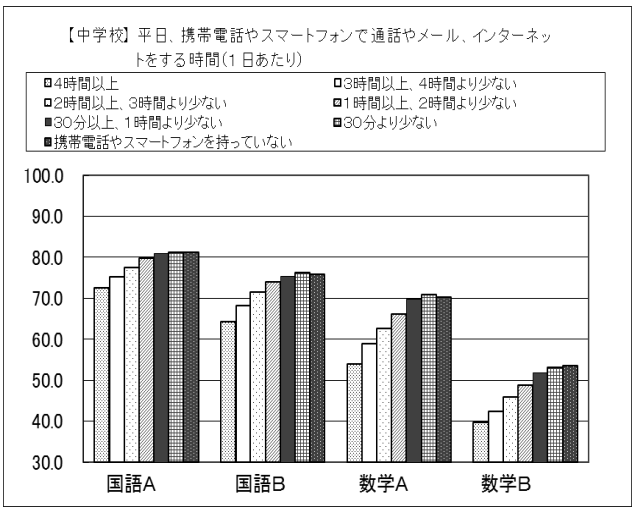


【中学校】 （14） 普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、携帯電話やスマートフォンで通話やメール、インターネットをしますか



［教科の正答率との関係］



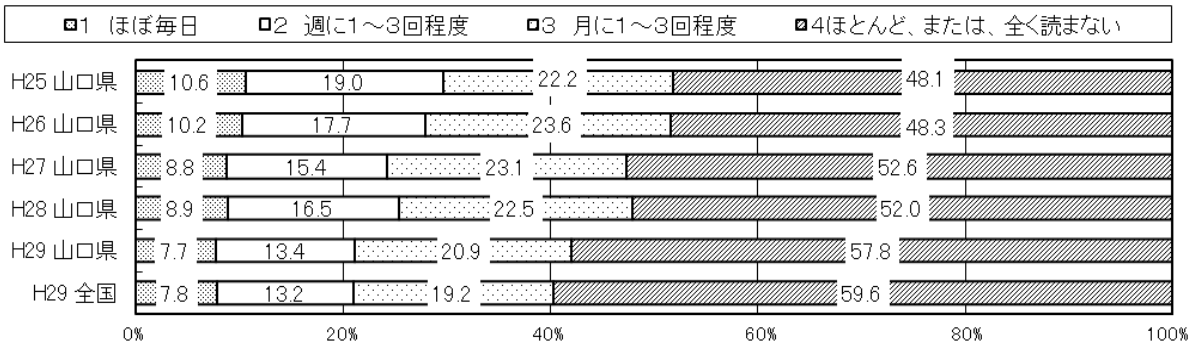


エ　新聞を読んでいる

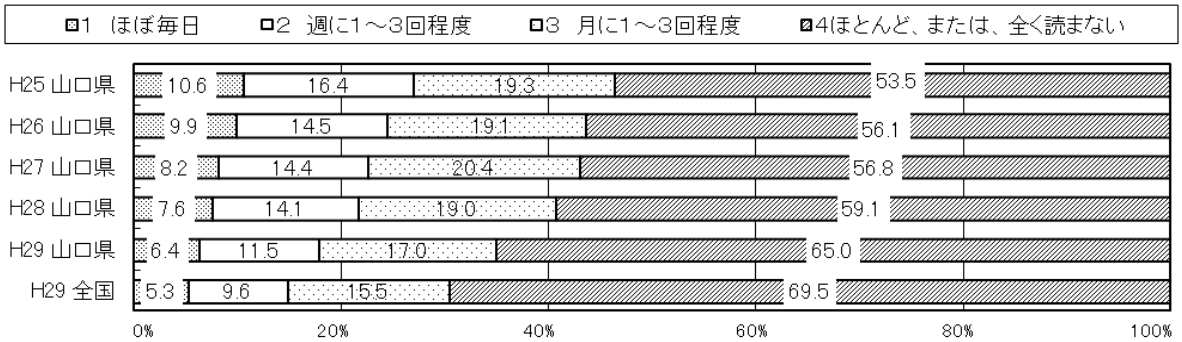
● 新聞をほとんど、または、全く読まないと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて低いものの増加しており、全く読まない中学校の生徒の割合は、小学校の児童の割合より多い。

☞ 新聞をよく読んでいる児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、活字に触れる、情報を選択する、社会の動きに関心をもつなど、新聞の効果を活用する取組や効果を家庭と共有する必要がある。

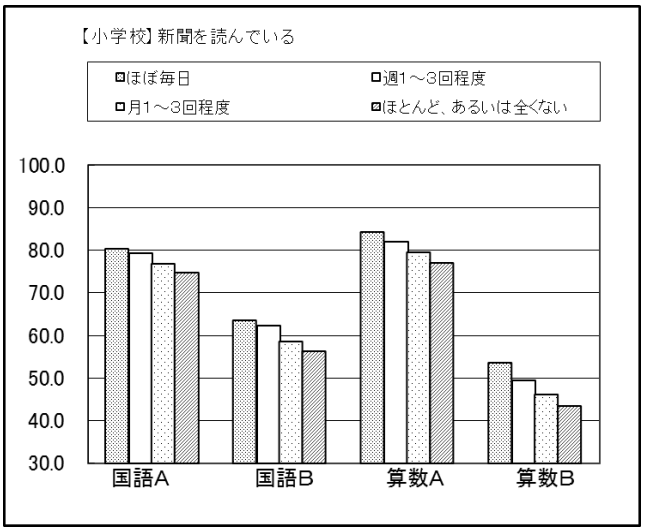
【小学校】（45）新聞を読んでいますか

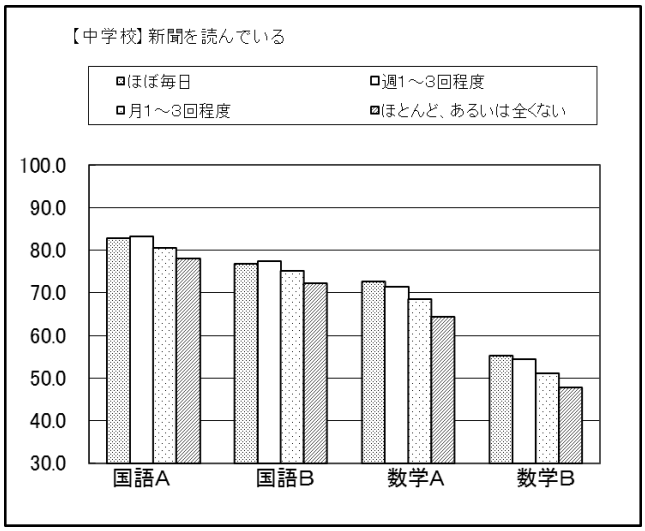


【中学校】（47）新聞を読んでいますか



［教科の正答率との関係］





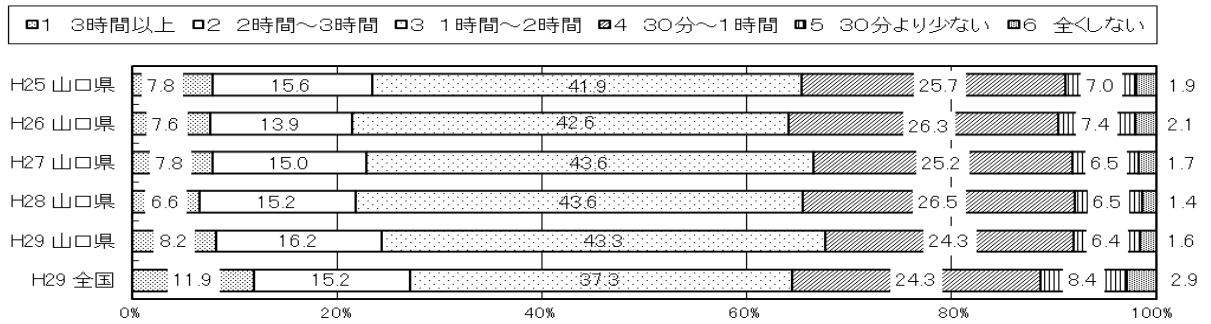
②　家庭での学習習慣

ア　平日の学習時間

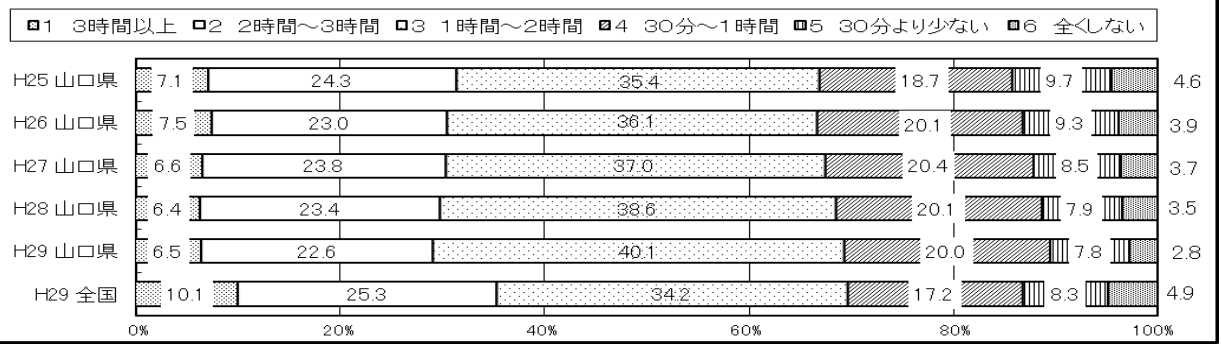
● 学校の授業時間以外に、平日、１日当たりに１時間以上学習する児童生徒の割合は、増加傾向にあるものの、２時間以上の割合は低い。全く勉強しないと回答した小学校の児童の割合は１．６％、中学校の生徒の割合は２．８％である。

☞ 平日に、一定時間以上、学習する児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も引き続き、家庭との連携・協力を密にし、平日の限られた時間を工夫しながら家庭学習に取り組む習慣を定着させていくとともに、学習する内容の質的向上を図る指導を行う必要がある。

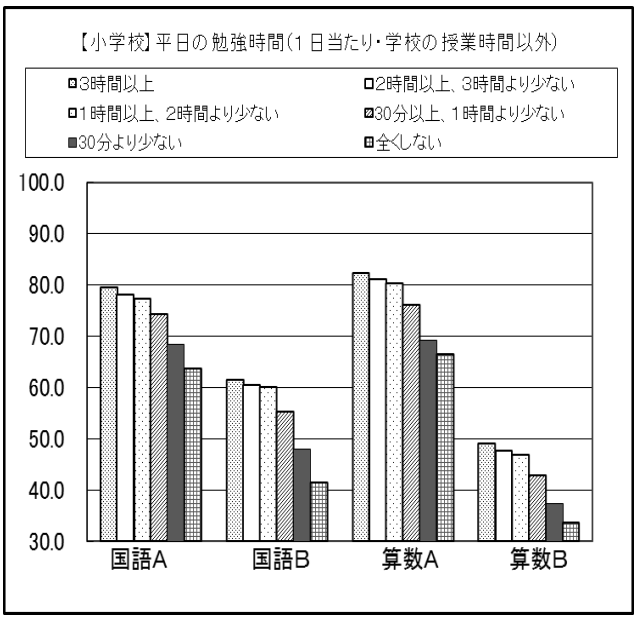
【小学校】　（15）学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

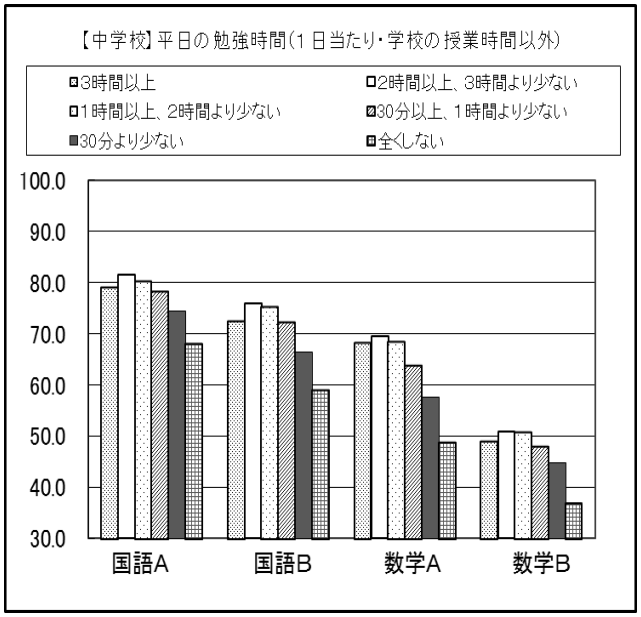


【中学校】　（15）学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



［教科の正答率との関係］



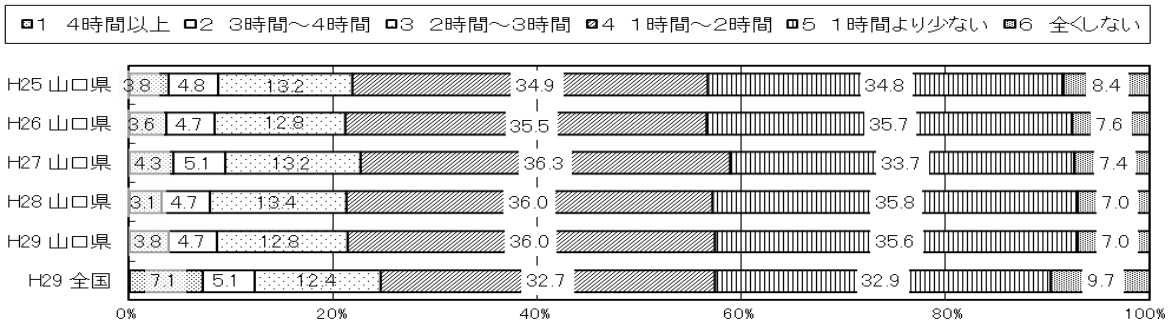


イ　休日の学習時間

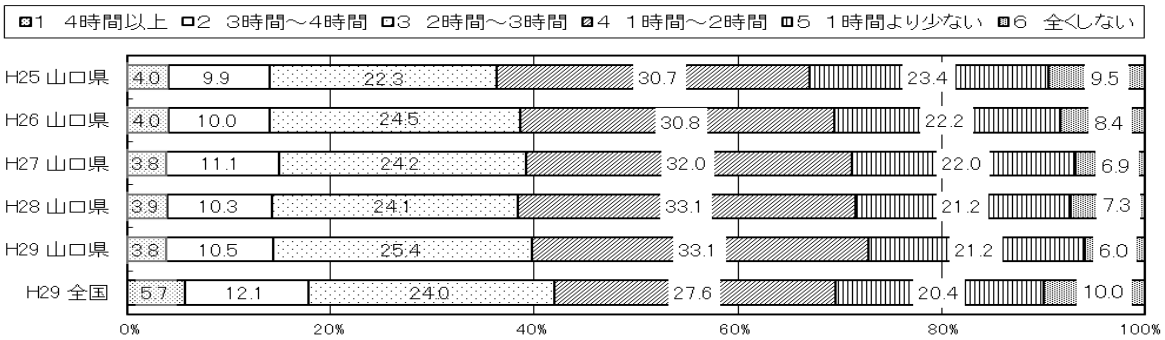
● 学校の授業時間以外に、休日、１日当たりに１時間以上学習する児童生徒の割合は、増加傾向にあるものの、２時間以上の割合は全国に比べて低い。全く勉強しない小学校の児童の割合は７．０％、中学校の生徒の割合は６．０％である。

☞ 休日に、一定時間以上学習する児童生徒の方が、教科の平均正答率が高い傾向が見られることから、今後も、家庭との連携・協力を密にし、休日の過ごし方等の情報交換を行うとともに、家庭学習習慣の定着を図るとともに、学習する内容の質的向上を図る必要がある。

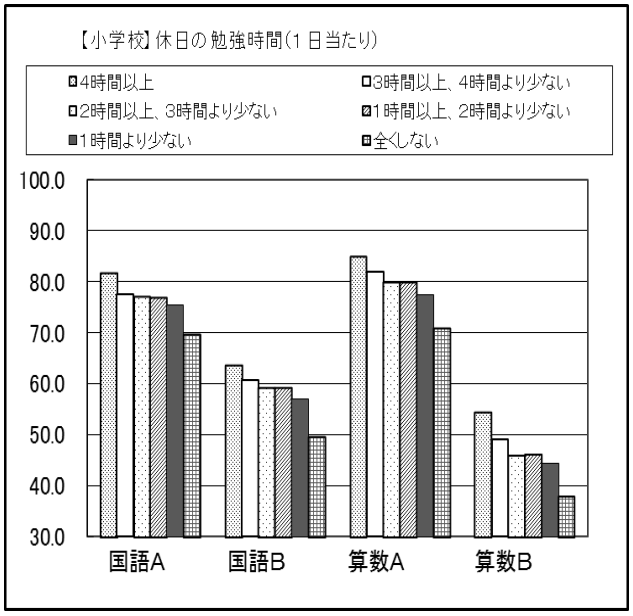
【小学校】 （16） 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか

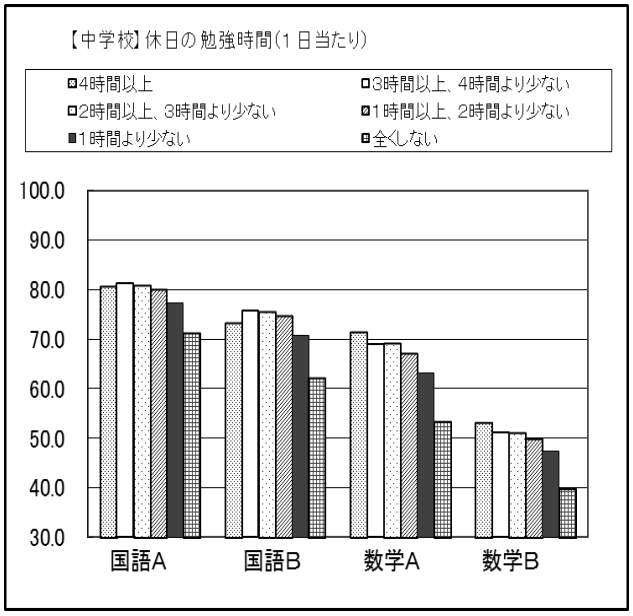


【中学校】 （16） 土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか



[教科の正答率との関係]



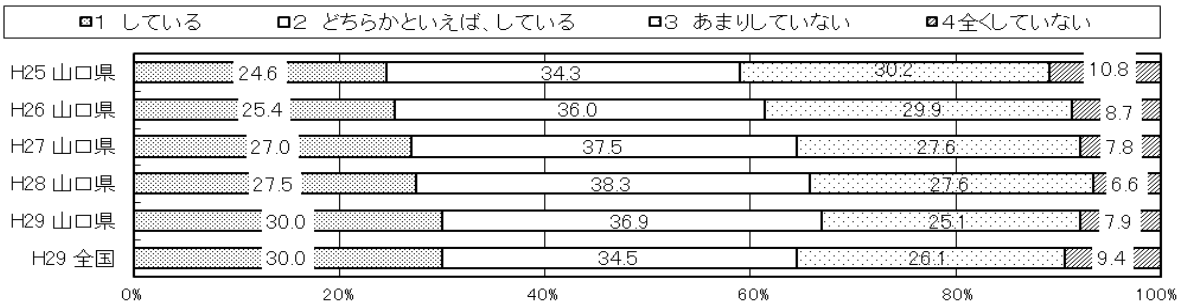


ウ　自分で計画を立てて勉強している

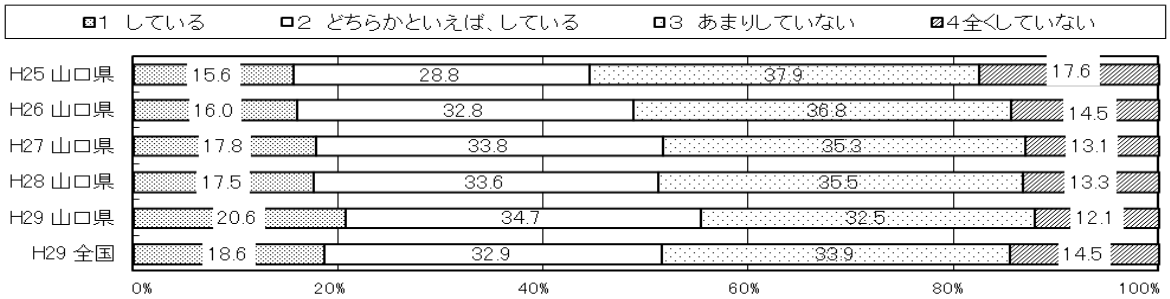
○　家で、自分で計画を立てて勉強していると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞　引き続き、学校で具体的な計画の立て方を示すことなどにより、見通しをもって学習する習慣の確立を図ることが必要である。

【小学校】（29）自分で計画を立てて勉強している



【中学校】（31）自分で計画を立てて勉強している

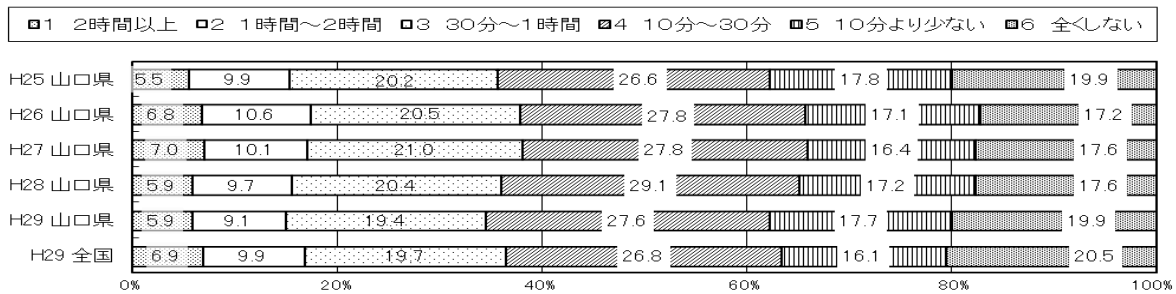


エ　平日の読書時間

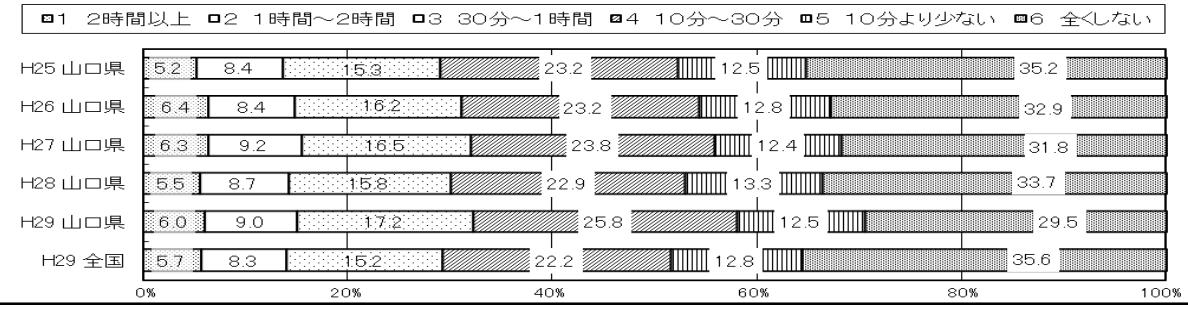
●　平日に読書をする小学校の児童の割合は、年々減少しており、全国と比べても低い。全く読書をしない小学校の児童の割合は１９．９％、生徒の割合は２９．５％である。

☞　学校の朝読書の時間などを活用し、活字に触れ、読書の楽しさを味わわせる取組の工夫を行うとともに、家庭と情報共有し、連携して読書習慣の確立を図る必要がある。

【小学校】（18）学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



【中学校】（18）学校の授業時間以外に、普段(月～金曜日)、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか



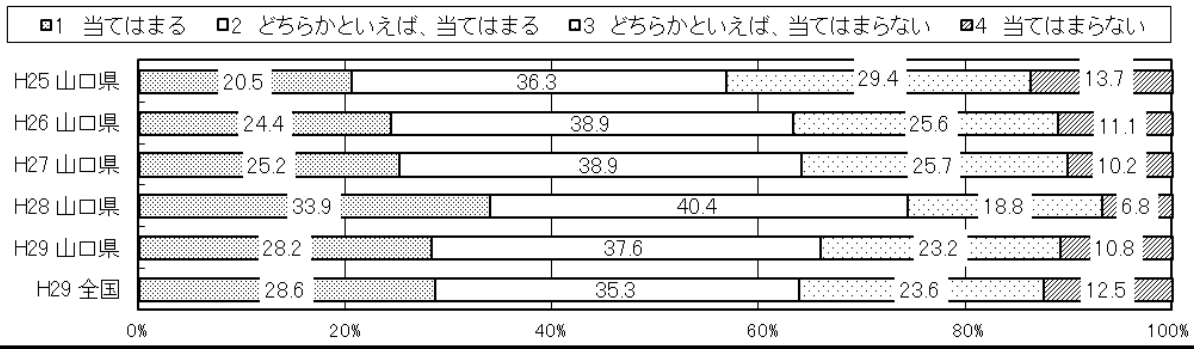
③　地域との関わり

ア　地域や社会の出来事に関心がある

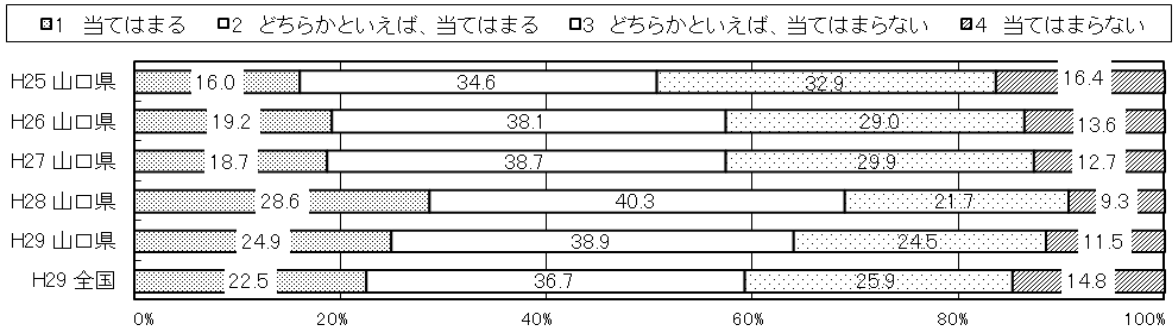
○　地域や社会の出来事に関心があると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞　地域や社会で起こっている出来事に関心があると肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域を身近に感じ、様々な出来事に関心をもたせるよう、地域とのつながりを大切にした指導の充実が求められる。

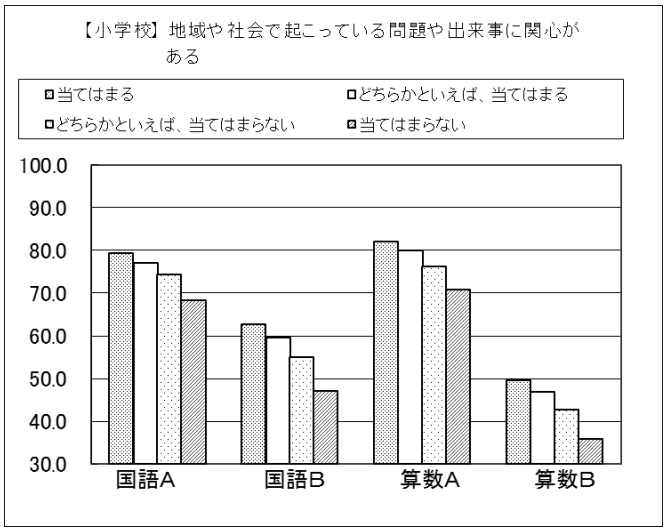
【小学校】（41）地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある

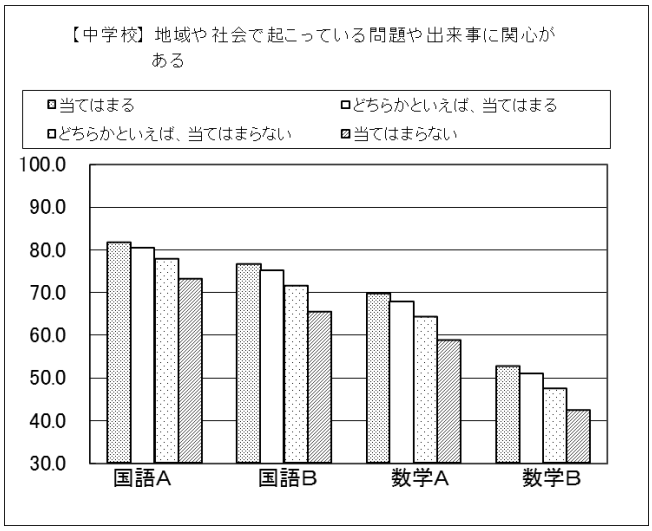


【中学校】（43）地域や社会で起こっている問題や出来事に関心がある



［教科の正答率との関係］



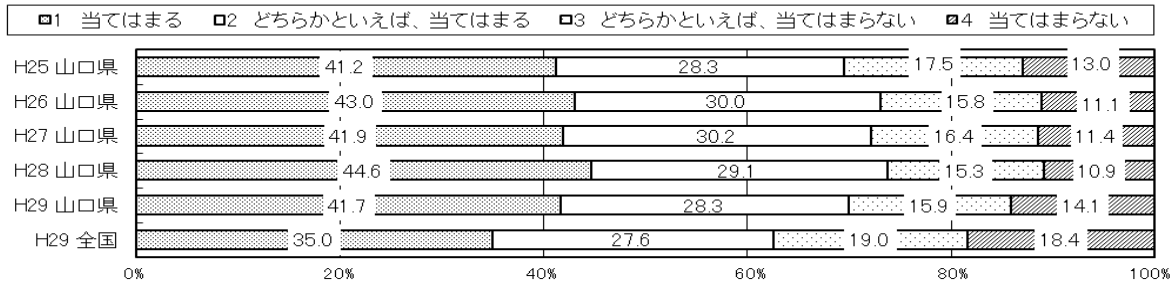


イ　地域行事への参加

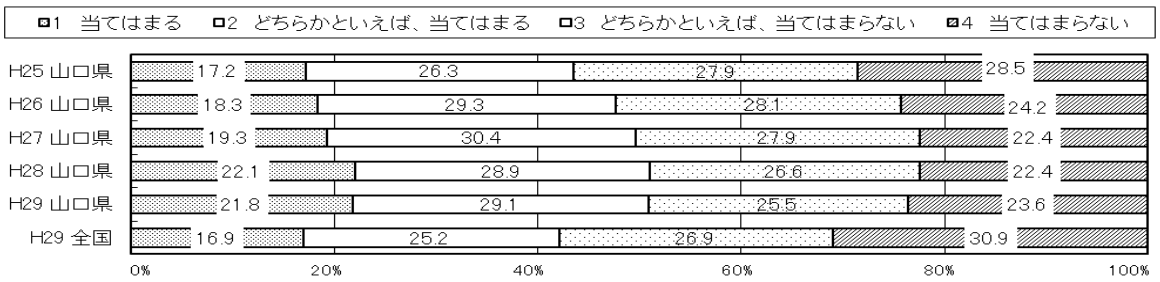
○　今住んでいる地域の行事に参加していると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞　コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域にどのような行事があるかを伝えるなど、今後も地域とのつながりを大切にし、地域の活性化を図る指導の充実が求められる。

【小学校】（40）今住んでいる地域の行事に参加している



【中学校】（42）今住んでいる地域の行事に参加している

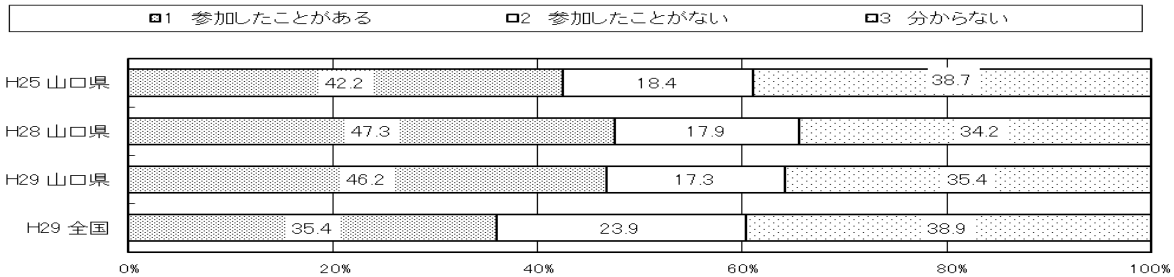


ウ　地域でのボランティア活動への参加

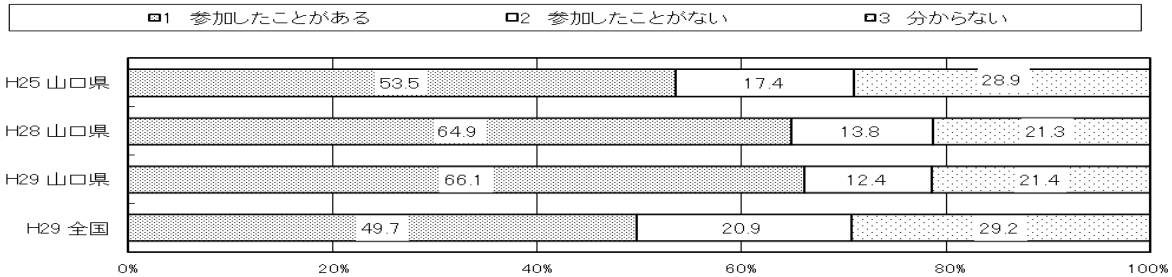
○　地域社会などでボランティア活動に参加したことがあると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞　コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域とのつながりを大切にし、地域貢献の意識を高める指導の充実が求められる。

【小学校】（43）地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか



【中学校】（45）地域社会などでボランティア活動に参加したことがありますか

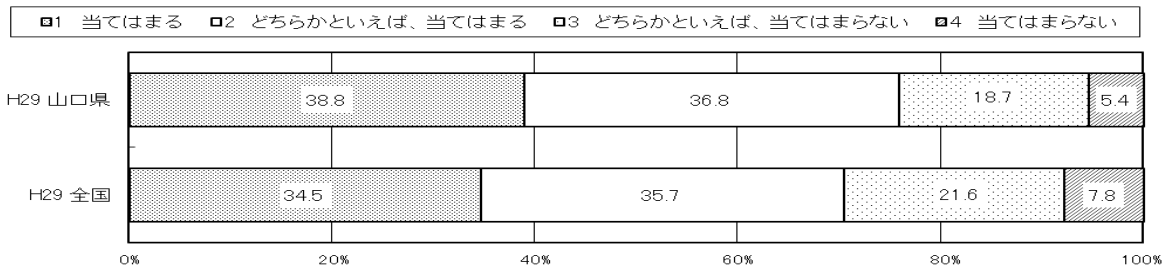


エ　授業等で地域のことを調べたり地域の人と関わったりする機会

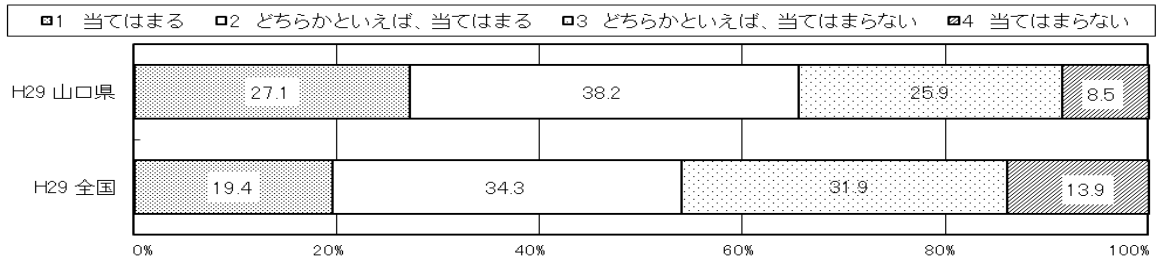
○　授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞　地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと肯定的に回答した小学校の児童の方が、全ての教科の平均正答率が高い。一方で、中学校の生徒には、必ずしもその傾向が見られない。今後、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用して、地域のもの・人とのつながりを大切にし、地域とともにある学校づくりを推進していくとともに、「何を学ぶか」を明確にした上で、地域の人的・物的資源等を活用しながら「社会に開かれた教育課程」の実現を目指す必要がある。

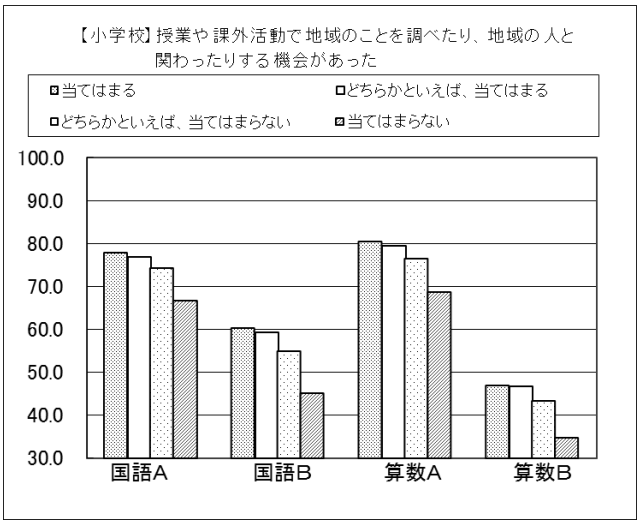
【小学校】　(65)授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う

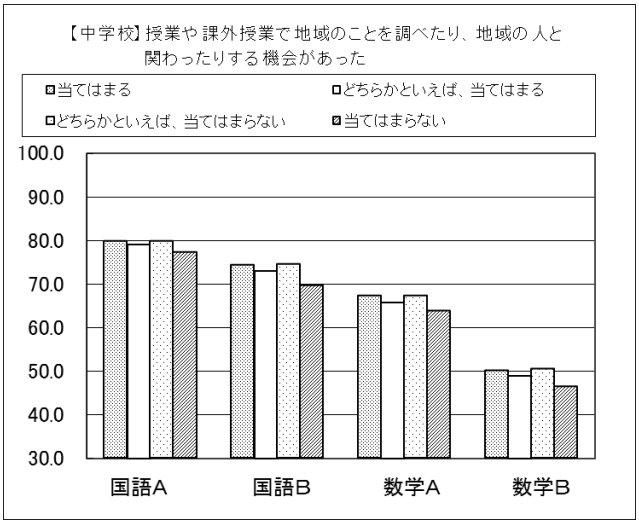


【中学校】　(67)授業や課外活動で地域のことを調べたり、地域の人と関わったりする機会があったと思う



[教科の正答率との関係]





④　子どもたちの意識

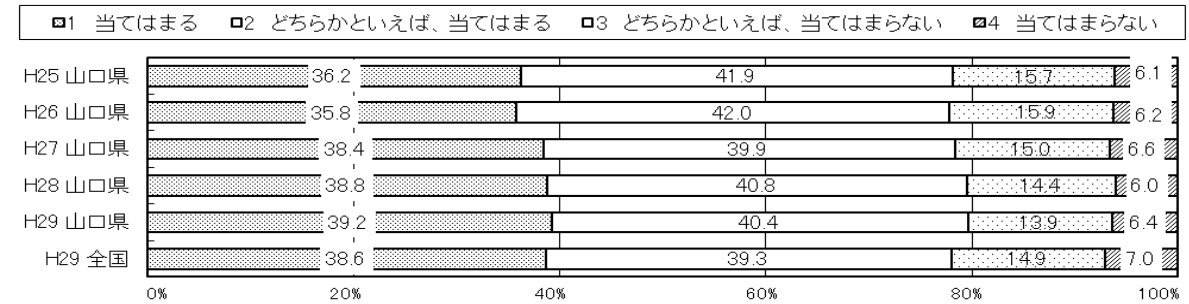
ア　自分にはよいところがある

○　自分にはよいところがあると思うと回答した児童生徒の割合は、全国に比べると高い。

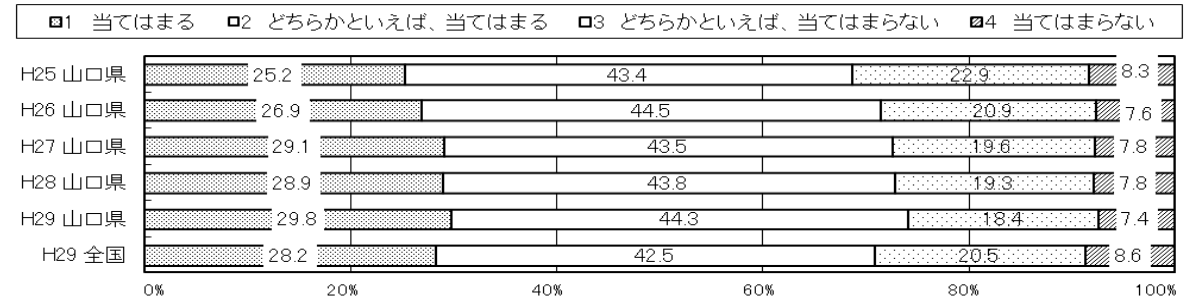
●　一方で、肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は２０．３％、中学校の生徒の割合は２５．８％であり、依然として高い割合である。

☞　肯定的に回答した小学校の児童の方が、教科の平均正答率が高い傾向がある。一方で、中学校の生徒には必ずしもその傾向は見られない。今後、教員や保護者、地域住民等の多様な大人たちとのかかわりにより、子どもたち一人ひとりのよさを具体的に認めたり、適切に評価したりする指導や場の一層の充実により、子どもが自己存在感を感じられるようになるとともに、全ての教科等において「学びに向かう力・人間性」の涵養に資することが望まれる。

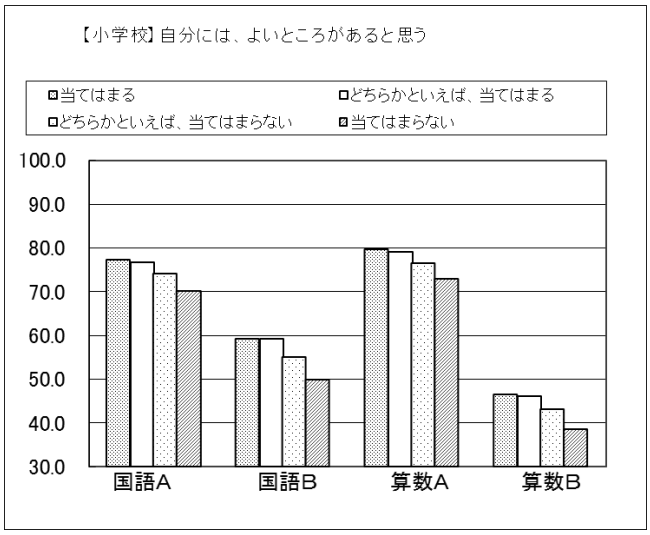
【小学校】　(6) 自分には、よいところがあると思う

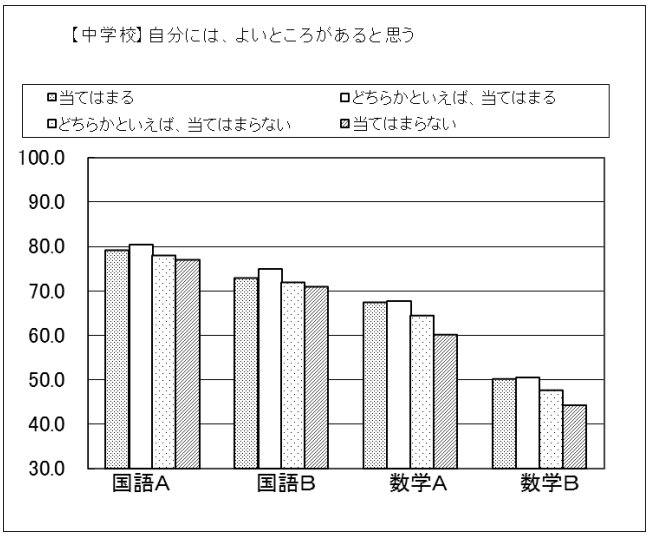


【中学校】　(6) 自分には、よいところがあると思う



［教科の正答率との関係］





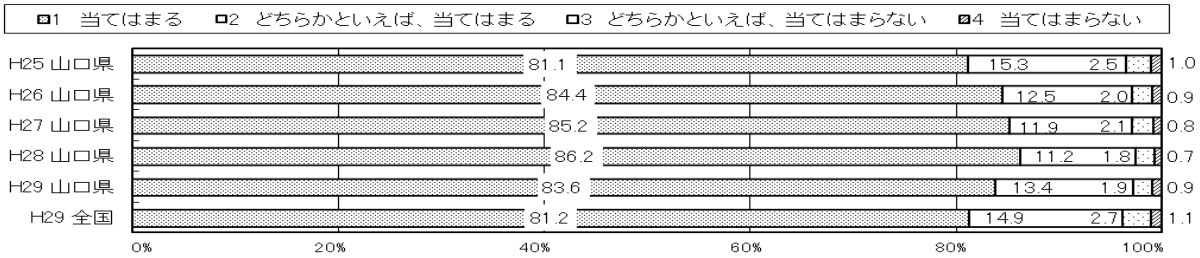
イ　いじめは絶対にいけない

○　いじめはどんな理由があってもいけないことだと思うと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

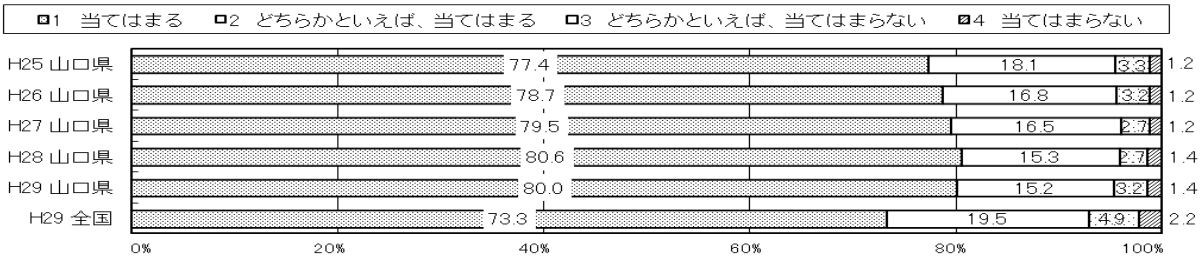
●　一方で、「当てはまる」と回答した児童生徒は減少しており、「当てはまらない」と回答した小学校の児童の割合は０．９％、中学校の生徒の割合は１．４％である。

☞　全ての児童生徒が、いじめはどんな理由があってもいけないという認識をもつことが重要であることから、今後も、道徳教育の充実をはじめ、心の教育の推進を継続して図る必要がある。

【小学校】　（52）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う



【中学校】　（54）いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う

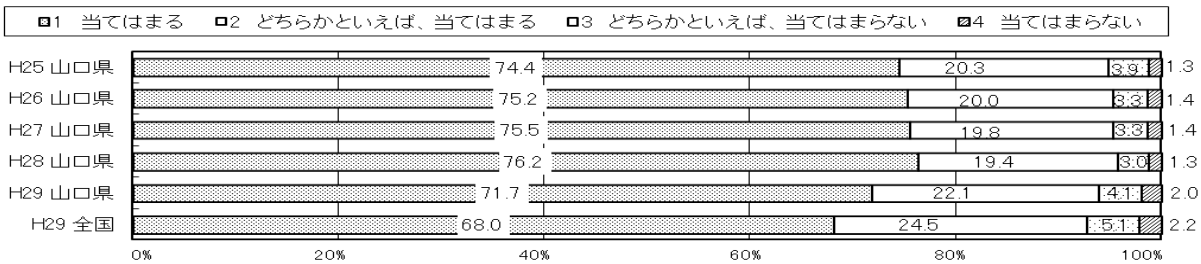


ウ　人の役に立つ人間になりたい

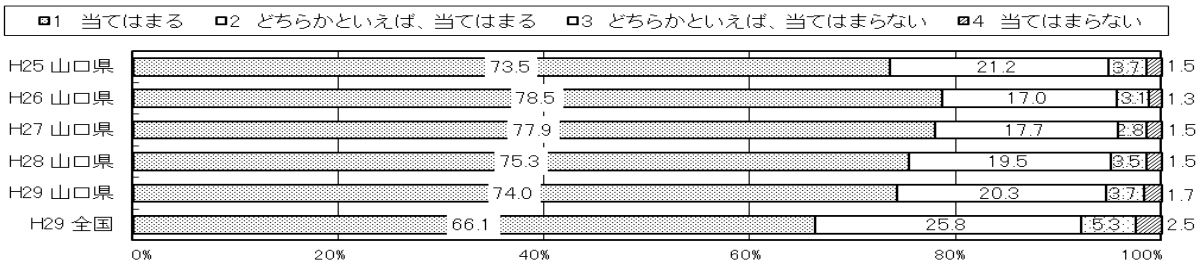
●　人の役に立つ人間になりたいと思うと回答している児童生徒の割合は、全国と比べて高いものの、いずれも昨年度より減少し　中学校の生徒の割合は減少傾向が見られる。肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は６．１％、中学校の生徒の割合は５．４％である。

☞　今後、道徳科の授業改善や様々な体験活動の充実をはじめ、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用しながら、児童生徒の自己有用感を高める指導の充実を図る必要がある。

【小学校】　（53）人の役に立つ人間になりたいと思う



【中学校】　（55 ）人の役に立つ人間になりたいと思う

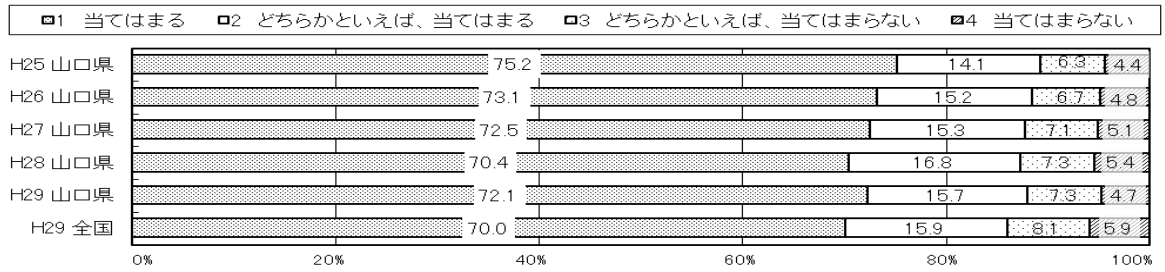


エ　将来の夢や目標をもっている

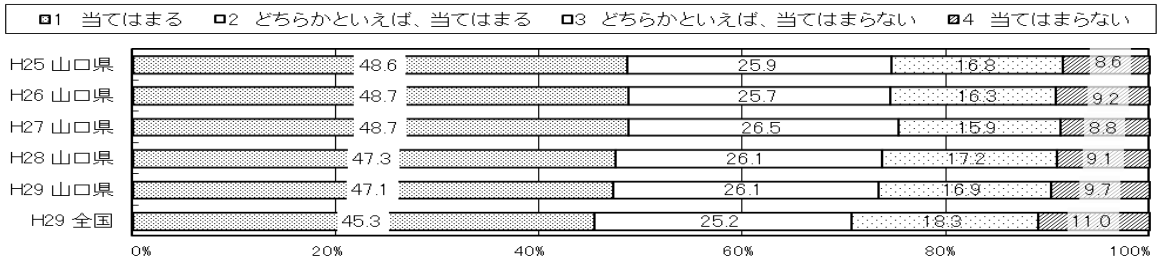
● 将来の夢や目標を持っていると回答している児童生徒の割合は、全国に比べて高いものの、中学校の生徒の割合は減少傾向が見られる。肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は１２．０%、中学校の生徒の割合は２６．６%である。

☞ 本県のめざす「やまぐちっ子のすがた」である「高い志をもち、未来に向かって挑戦し続ける人」を育てるために、今後も、キャリア教育の一層の充実を図ることが必要である。

【小学校】（10）将来の夢や目標を持っている



【中学校】（10）将来の夢や目標を持っている

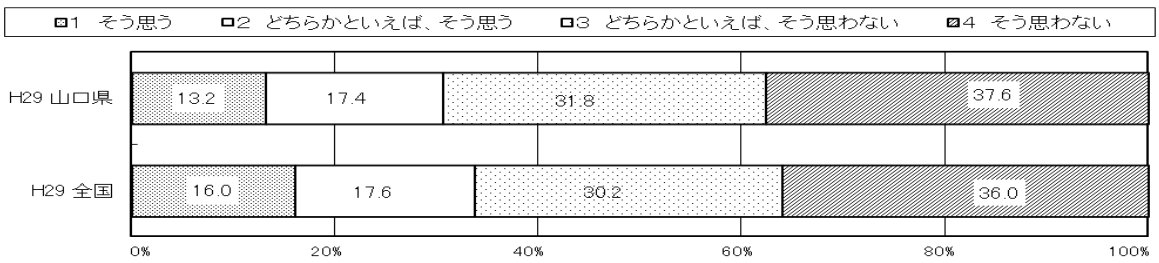


オ　外国への興味

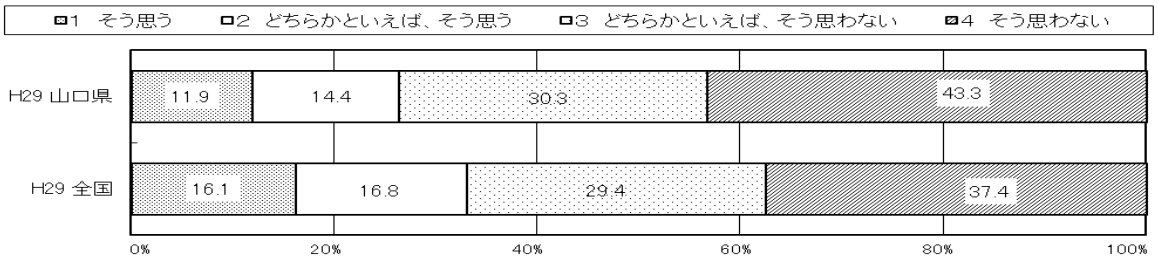
● 将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと回答している児童生徒の割合は、全国に比べて低い。肯定的な回答をしなかった小学校の児童の割合は６９．４%、中学校の生徒の割合は７３．６%である。

☞ 郷土への愛着や誇りを一層高めていくためにも、より広いグローバルな視点で、社会に関わっていこうとする意識の醸成を図ることが必要である。

【小学校】（48）将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う



【中学校】（50）将来、外国に留学したり、国際的な仕事に就いたりしてみたいと思う



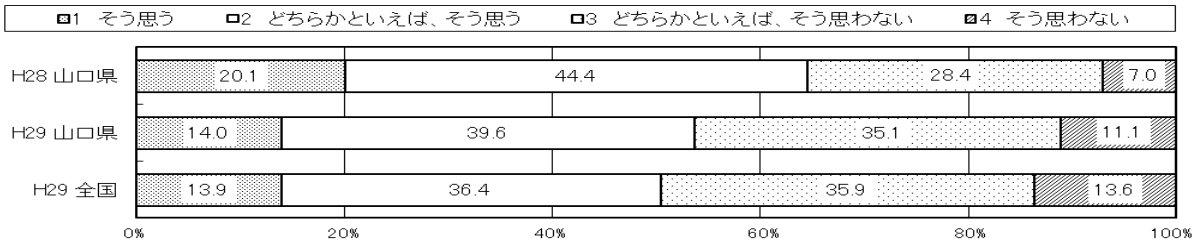
⑤　学校での活動

ア　自分とは異なる意見や少数意見を尊重

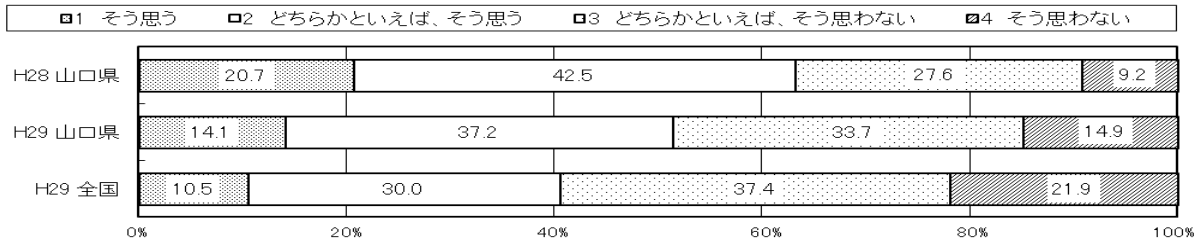
●　話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめていると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高いものの、昨年度の肯定的な回答より減少している。

☞　話し合い活動の経験を重ねることで、話し合うことのよさや相手の意見を尊重する意識が養われると考えられることから、今後も、発達の段階に応じて、全ての学年の児童生徒が活発に意見を交わせる話し合いの場の設定と学級風土の醸成に取り組むことが必要である。

【小学校】　(36)話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている



【中学校】　(38)話し合い活動で、自分とは異なる意見や少数意見のよさを生かしたり、折り合いをつけたりして話し合い、意見をまとめている

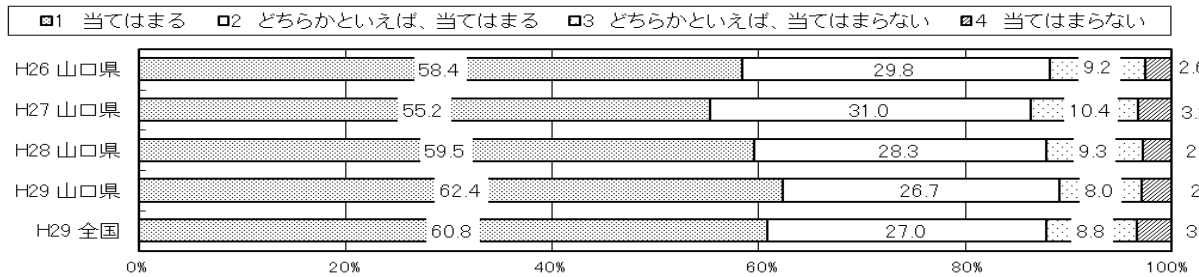


イ　みんなで協力してやり遂げ、うれしかった

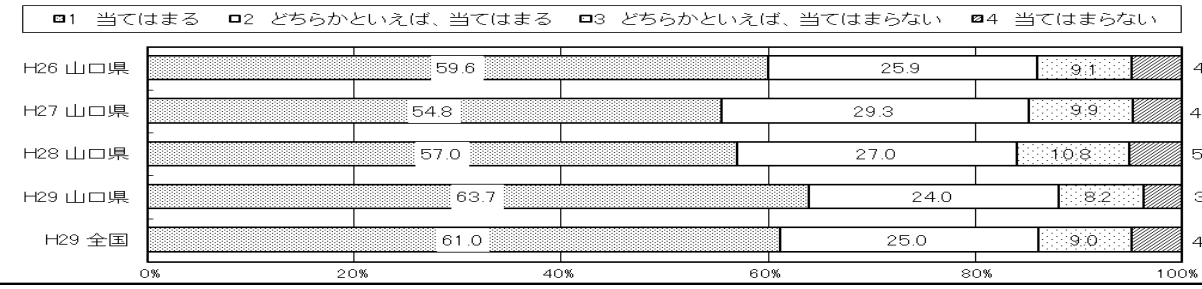
○　学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがあると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

☞　引き続き、計画的・意図的に協働的な活動場面を設定するなどの工夫をするとともに、児童生徒が成就感や連帯感を得られるための指導が必要である。

【小学校】　(37)学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある



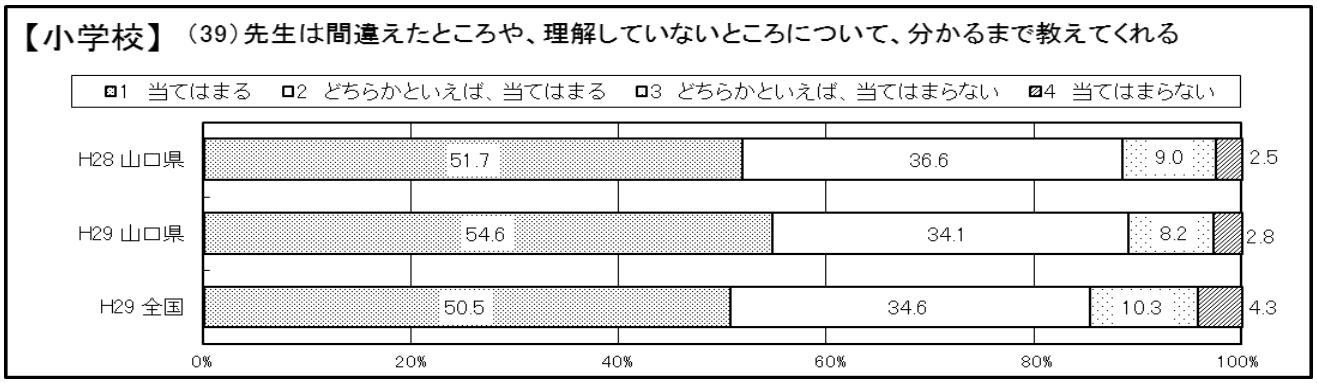
【中学校】　(39)学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある

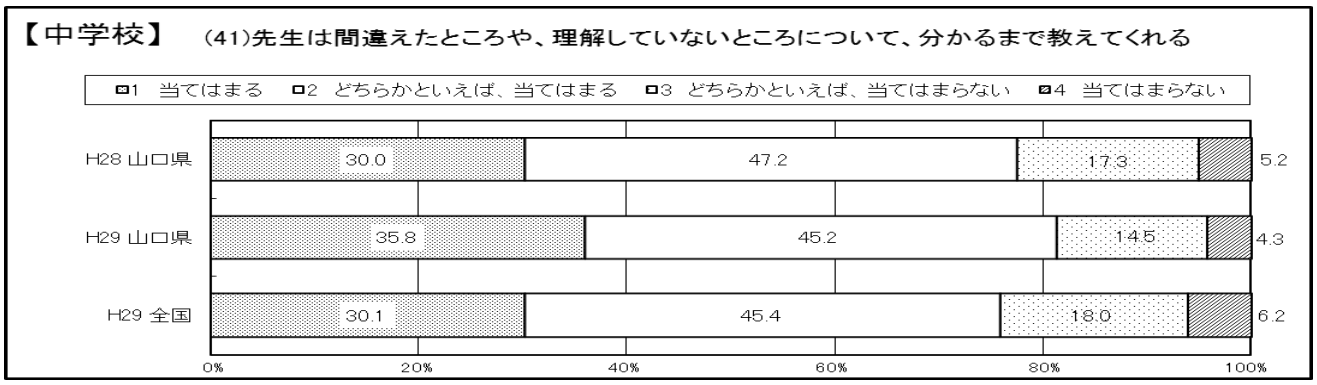


ウ　先生は分かるまで教えてくれる

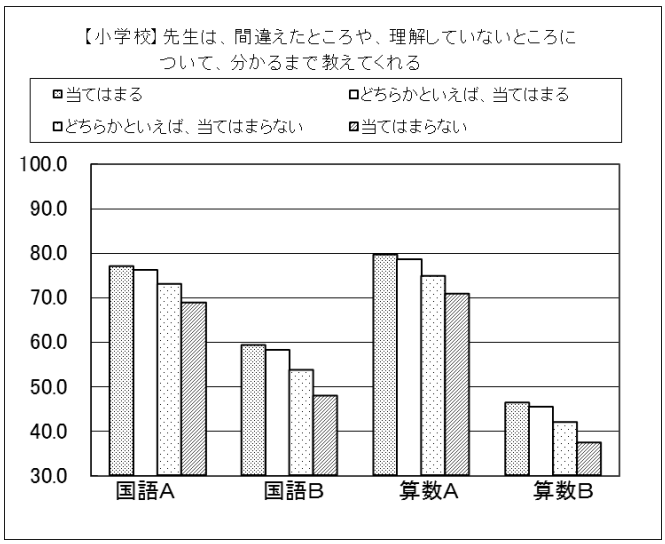
○　先生は間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれると回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高い。

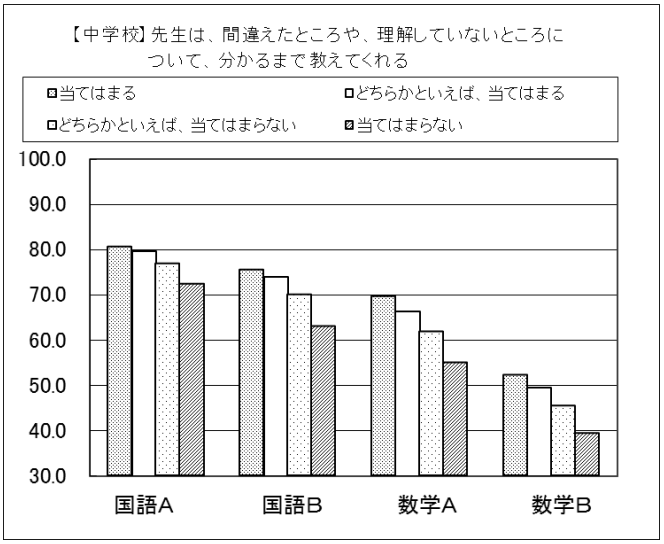
☞　肯定的に回答した児童生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。引き続き、子どもたち一人ひとりに対するきめ細かな指導を充実させ、教員の指導に対する信頼を高めていくことが必要である。





［教科の正答率との関係］

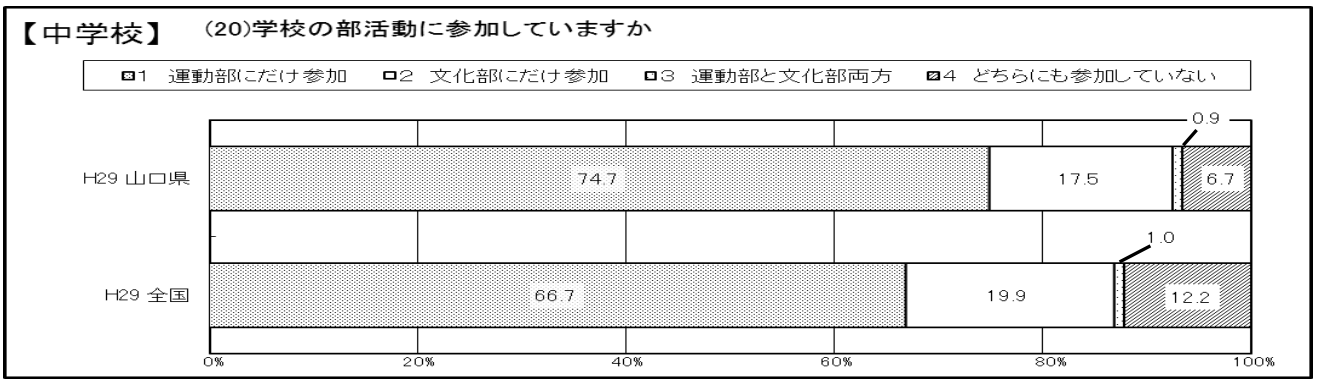


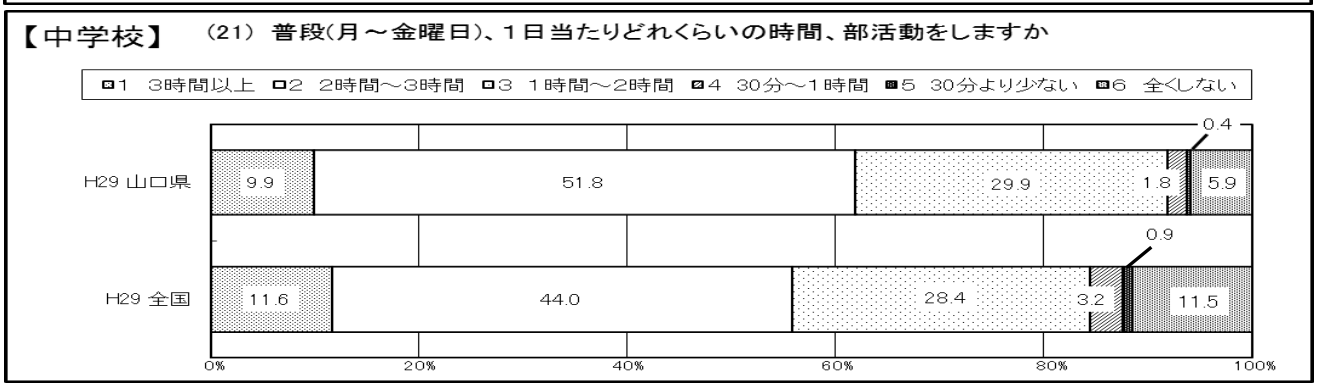


エ　学校の部活動への参加

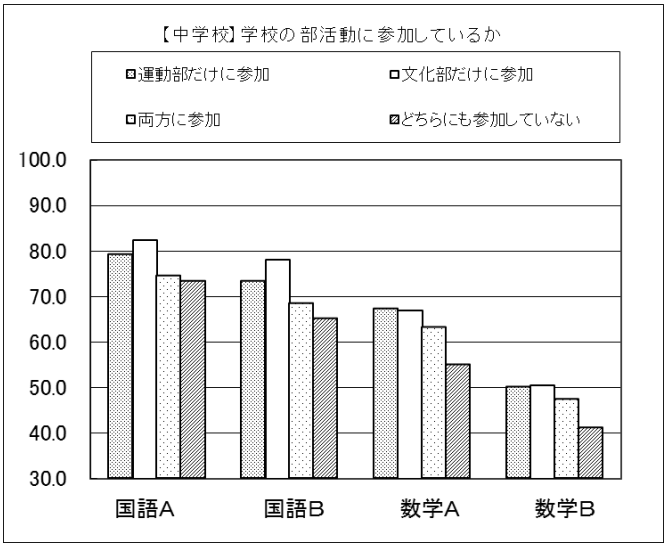
○　学校の部活動に参加している生徒の割合は、全国と比べて高く、特に運動部への参加の割合が高い。また、平日の部活動の時間は、８割以上が１時間以上３時間未満である。

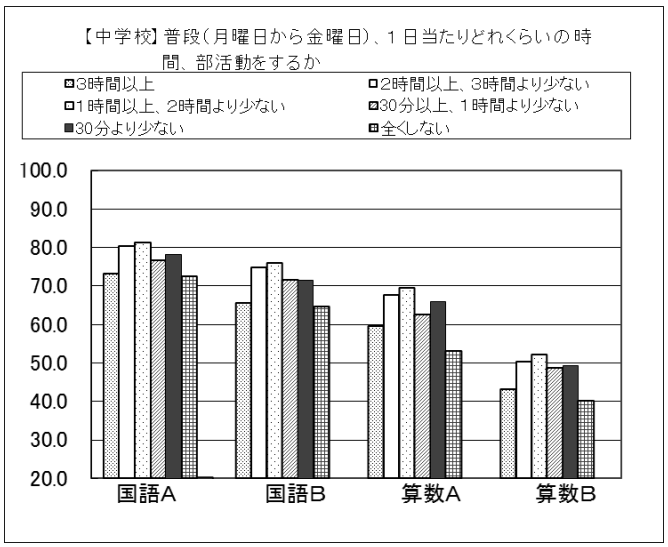
☞　学校の部活動に参加している生徒の方が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。また、平日の部活動時間が、１時間以上２時間未満と回答した生徒が、全ての教科の平均正答率が高い傾向が見られる。今後も、部活動の意義が十分発揮されるような適切な部活動運営に留意するとともに、生徒のバランスのとれた生活と成長を確保するなどの配慮が必要である。





[教科の正答率との関係]





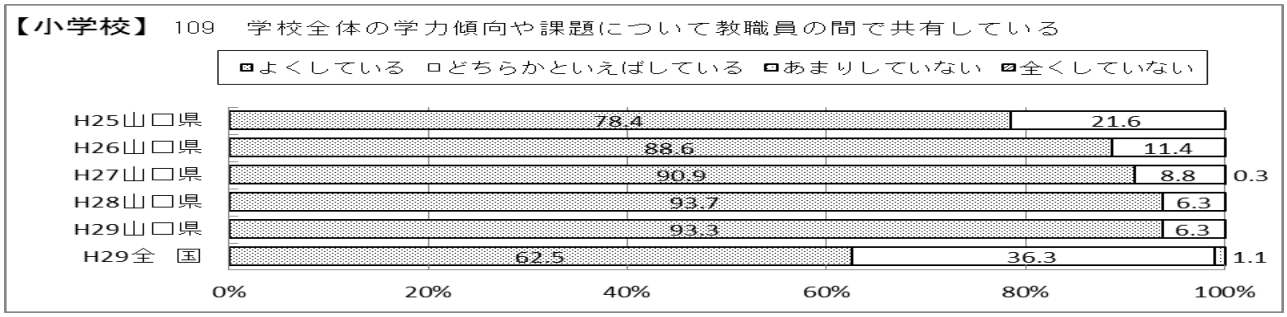
（３）学校質問紙

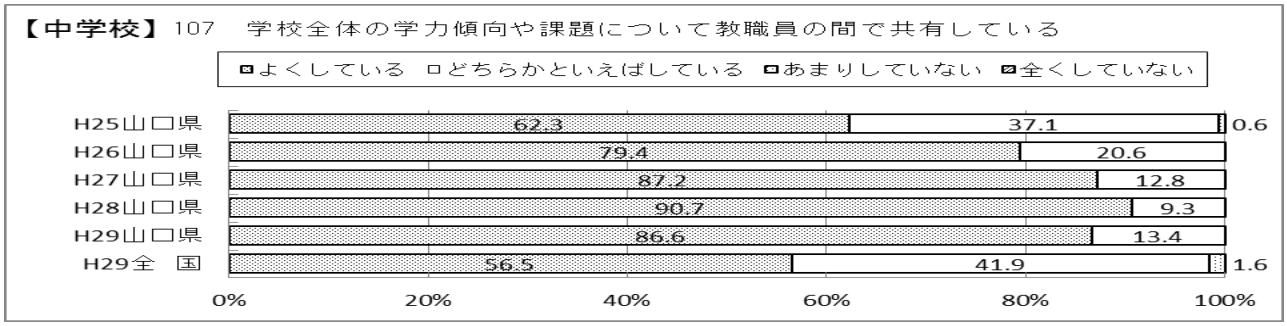
①　研修体制

ア　学校全体の学力傾向や課題を全教職員で共有

○　学校全体の学力傾向や課題について、全教職員の間でよく共有している学校の割合は高く、中学校は１００％である。

☞　引き続き、学力傾向や課題を全教職員で共有し、課題解決に向けた組織的な取組が、学校全体で継続的に行われることが必要である。

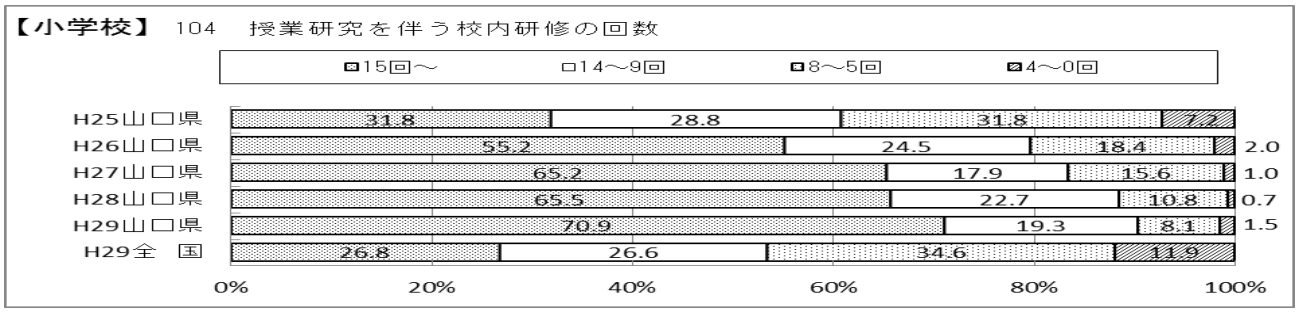


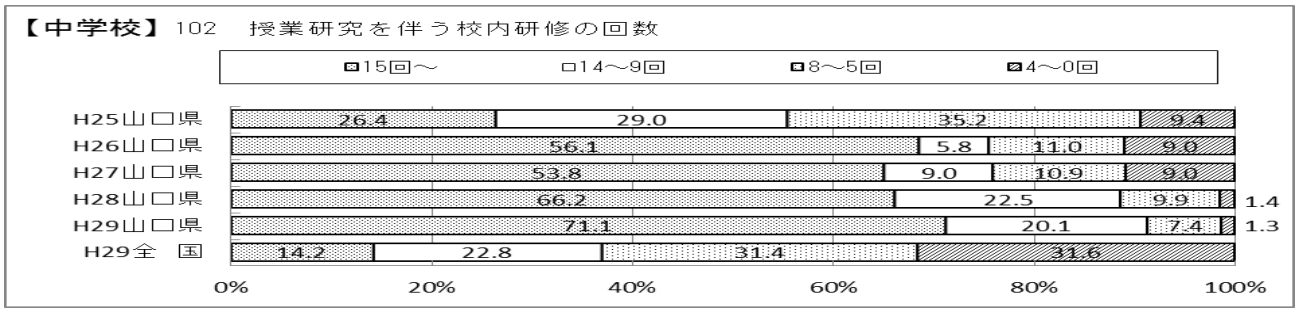


イ　授業研究を伴う校内研修の実施回数

○　授業研究を伴う校内研修の年間実施回数は、全国に比べて多く、７割以上の小、中学校が１５回以上実施している。

☞　今後も、学力向上推進リーダー・推進教員を効果的に活用したり、互見授業やユニット型研修を積極的に実施したりするなど、校内研修が活性化され、日常的な授業改善が図られることが必要である。

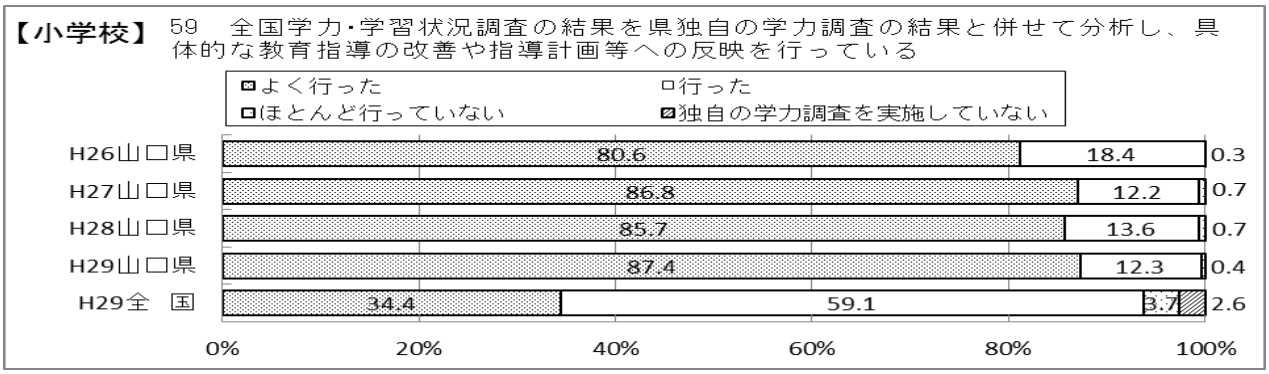


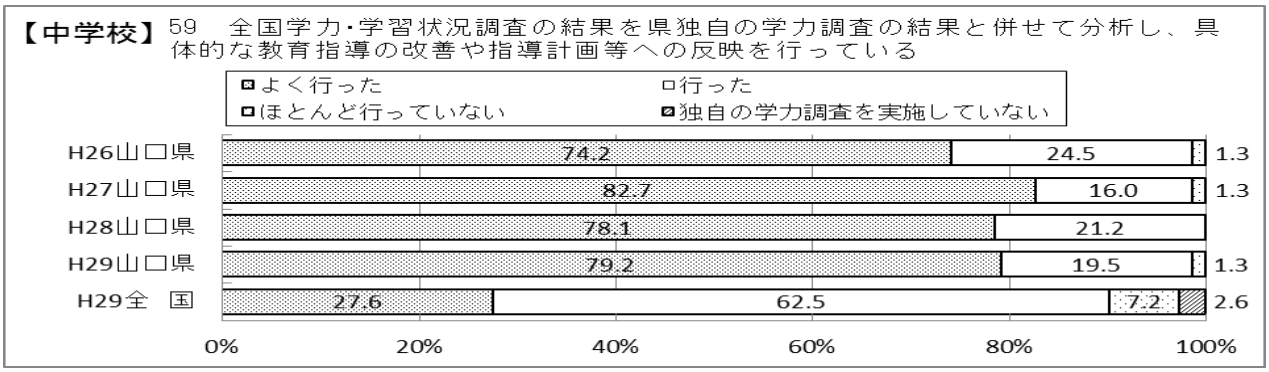


ウ　全国調査と県調査を併せて分析し指導の改善に反映

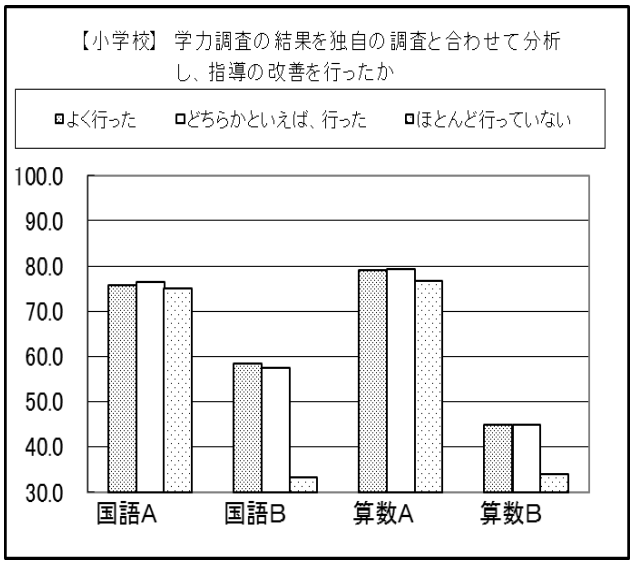
○　全国学力・学習状況調査と山口県学力定着状況確認問題の結果を併せて分析し、指導の改善や指導計画への反映を行った学校の割合は、全国に比べて高い。

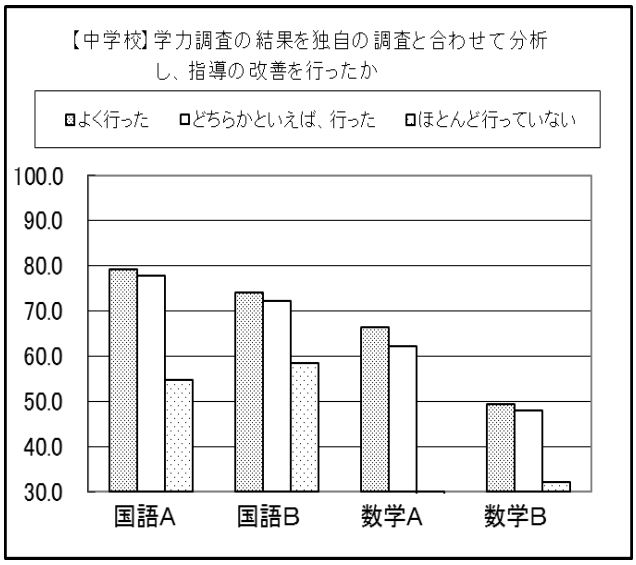
☞　中学校では肯定的に回答した学校の方が、教科の平均正答率が高い傾向があるものの、小学校の相関は見られない。教科の特質や児童生徒の学力傾向を踏まえながら、年間２回の検証改善サイクルの質を高める工夫が必要である。





［教科の正答率との関係］



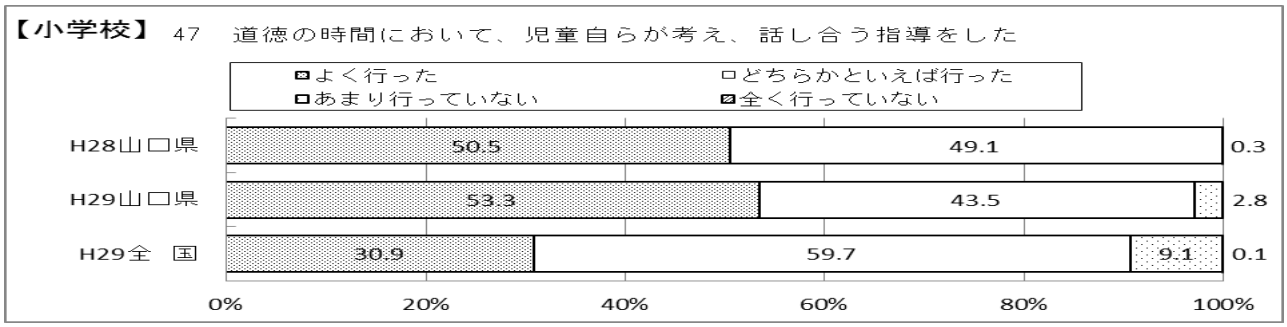


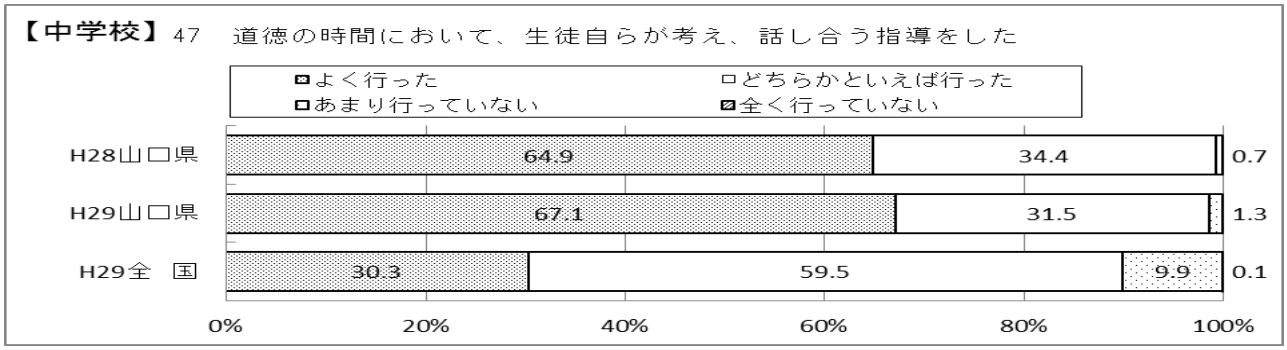
エ　子ども同士が考え話し合う道徳の時間

○　道徳の時間において、児童生徒自らが考え、話し合う指導を行った学校の割合は、全国に比べて高い。

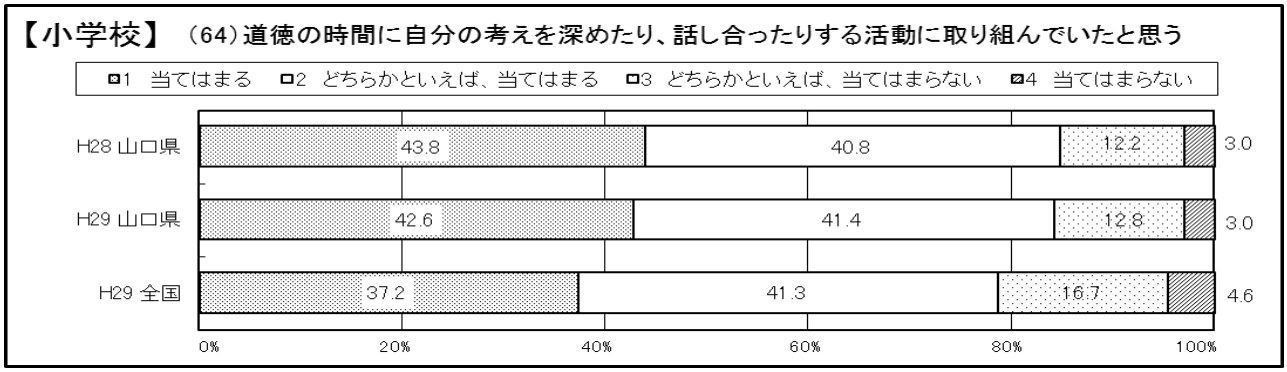
●　道徳の時間に自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動に取り組んでいたと回答した児童生徒の割合は、全国に比べて高いものの、学校の回答との差が見られる。

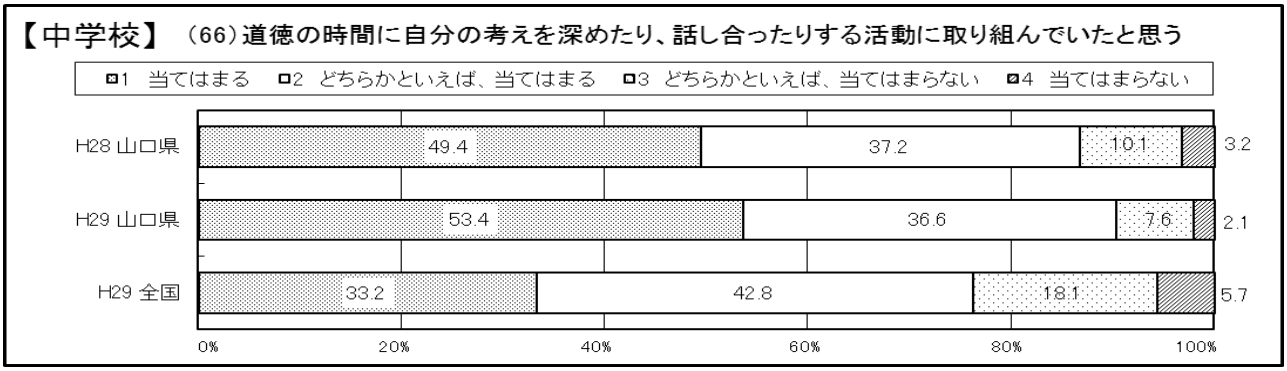
☞　今後も「考え、議論する道徳」への転換を目指し、子どもたちが自分の考えをもとに表現・交流し、その考えを広げ深められる場の設定を行うなどにより、自分を見つめ直すことのできる道徳科の授業づくりを進めていく必要がある。





[児童生徒質問紙との関係]



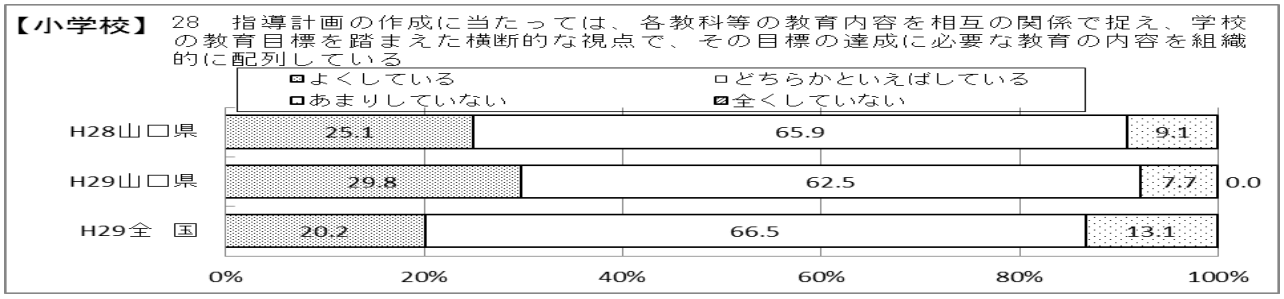


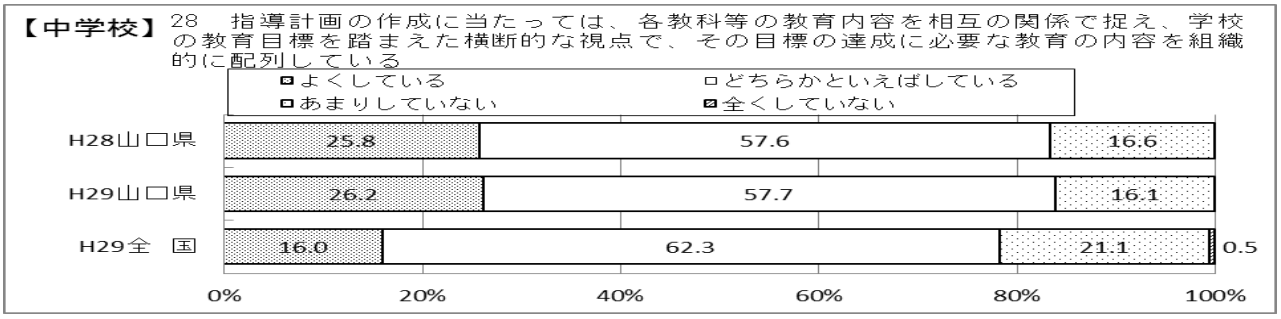
②　カリキュラム・マネジメント

ア　各教科等の内容を、横断的な視点で、組織的に配列した指導計画

○　指導計画の作成に当たって、各教科等の教育内容を相互の関係で捉え、学校の教育目標を踏まえた横断的な視点で、その目標の達成に必要な教育の内容を組織的に配列している学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　今後も、校長を中心に、全教職員が「カリキュラム・マネジメント」の必要性を理解し、日々の授業等についても教育課程全体の中での位置付けを意識しながら取り組むことが必要である。

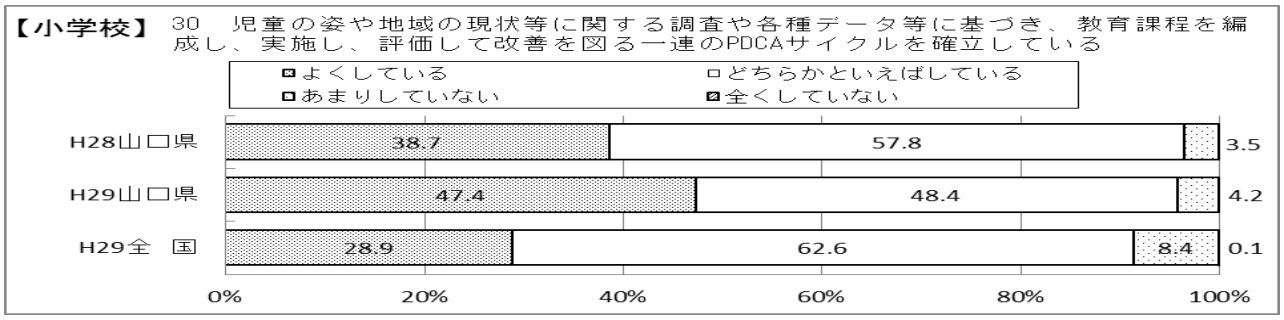


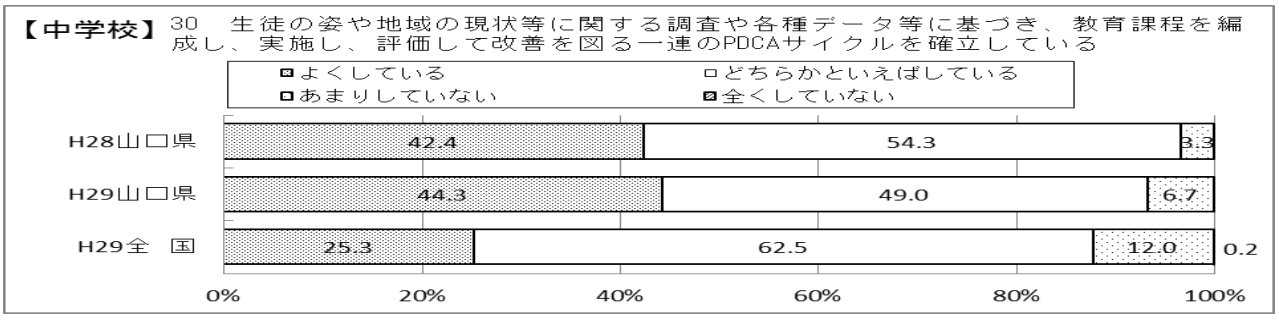


イ　子どもの姿や地域に関するデータに基づいたＰＤＣＡサイクルの確立

○　児童生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のＰＤＣＡサイクルを確立している学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　今後も、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用しながら、校長を中心に、全教職員が、児童生徒の姿や地域の実状等と指導内容を関連付けながら、効果的な年間指導計画等の在り方について、校内研修等を通じて研究を重ねるとともに、改善を図るＰＤＣＡサイクルを充実させていくことが必要である。

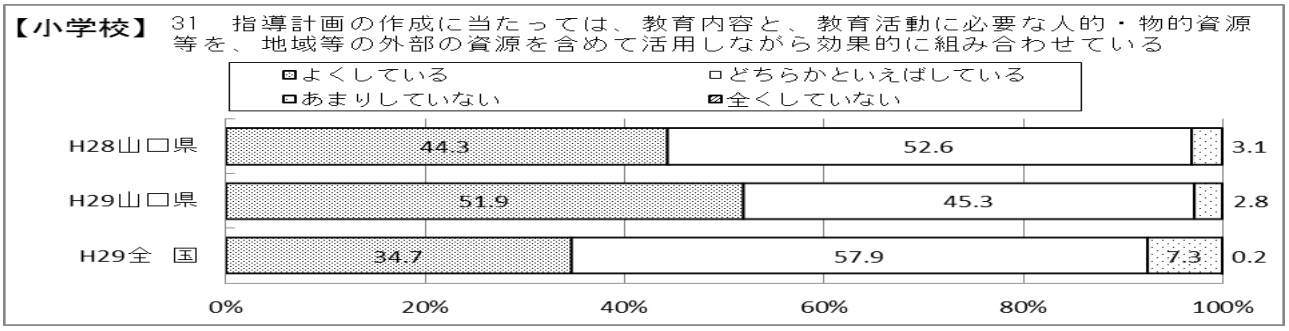


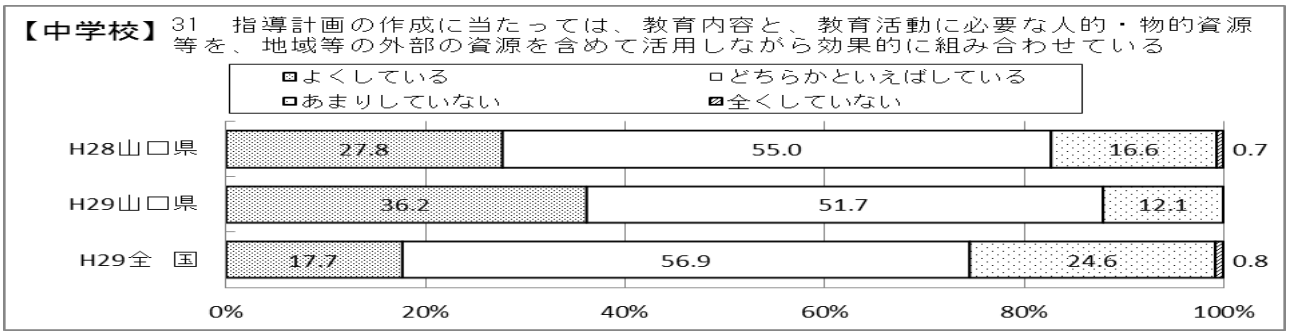


ウ　地域等の外部資源を含めた人的・物的資源を活用して指導計画を作成

○　指導計画の作成に当たって、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせている学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　教科の正答率との相関は見られないものの、新学習指導要領の趣旨の実現に向け、コミュニティ・スクールの仕組み等を活用しながら、地域人材等の外部資源を効果的に組み合わせる「カリキュラム・マネジメント」が求められる。





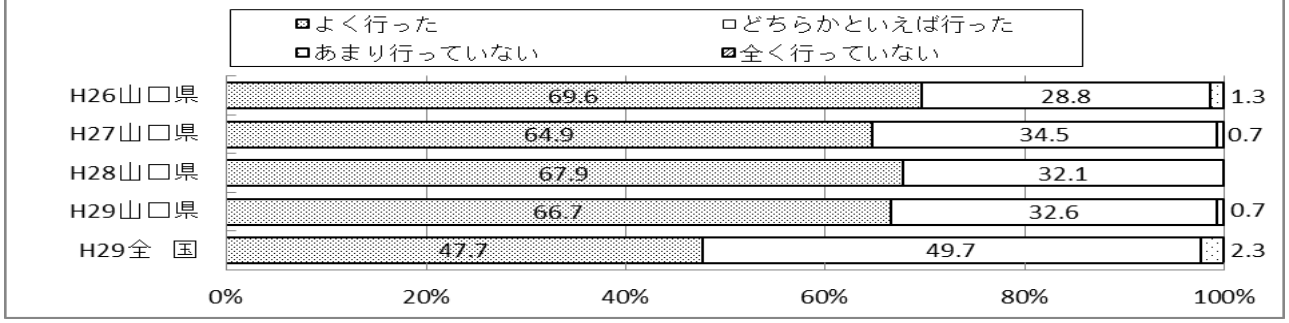
③　子どもに対する評価

ア　積極的な評価の実施

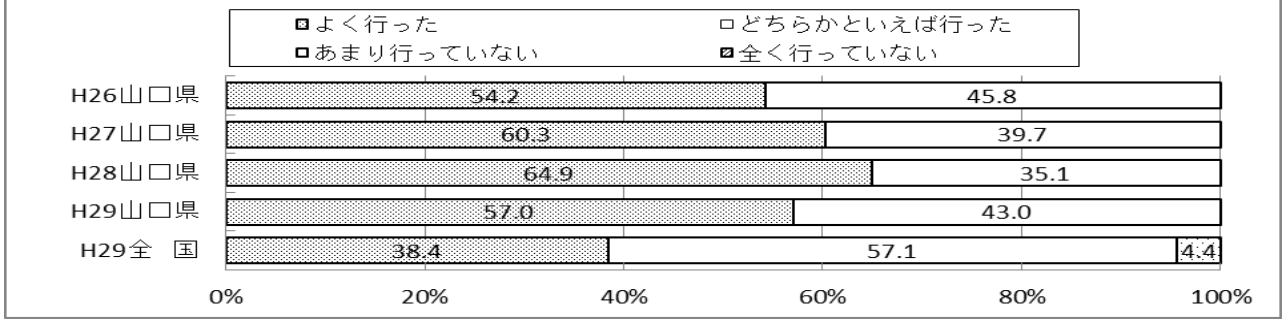
○　学校生活の中で、児童生徒一人ひとりのよい点や可能性を見付け、伝えるなど積極的に評価したと回答した学校の割合は、全国と比べて高い。また、「先生が良いところを認めてくれる」と思う児童生徒の割合も、全国に比べて高く、年々増加している。

☞　今後も、学校生活の様々な場面で、児童生徒に具体的かつ肯定的な評価を行っていき、子どもたちの自己肯定感を高めていく必要がある。

【小学校】 51　学校生活の中で、児童一人ひとりのよい点や可能性を見付け、児童に伝えるなど積極的に評価した

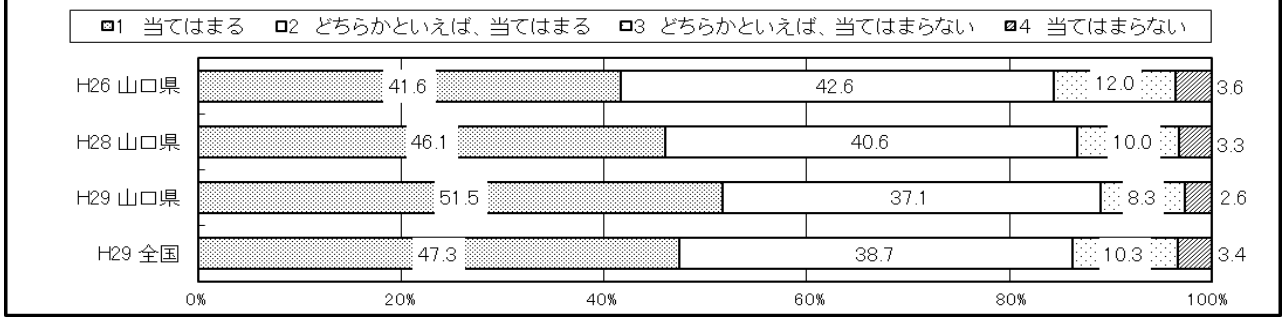


【中学校】 51　学校生活の中で、生徒一人ひとりのよい点や可能性を見付け、生徒に伝えるなど積極的に評価した

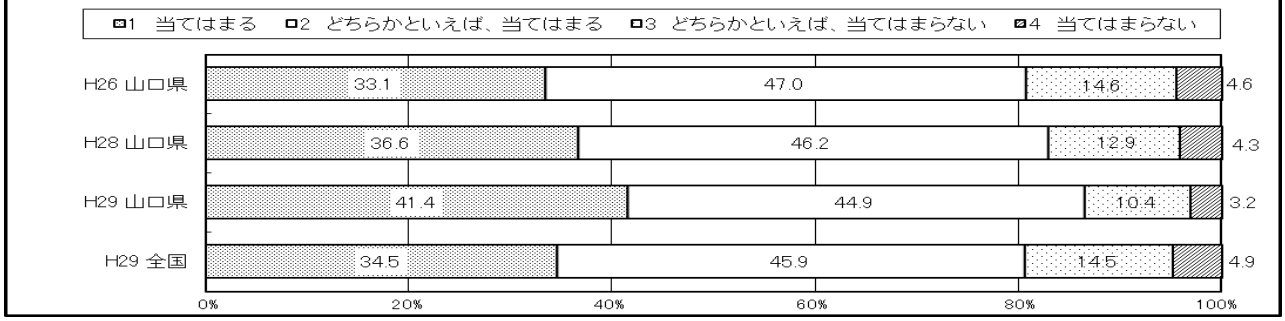


[児童生徒質問紙との関係]

【小学校】 (38)先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う



【中学校】 (40)先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う

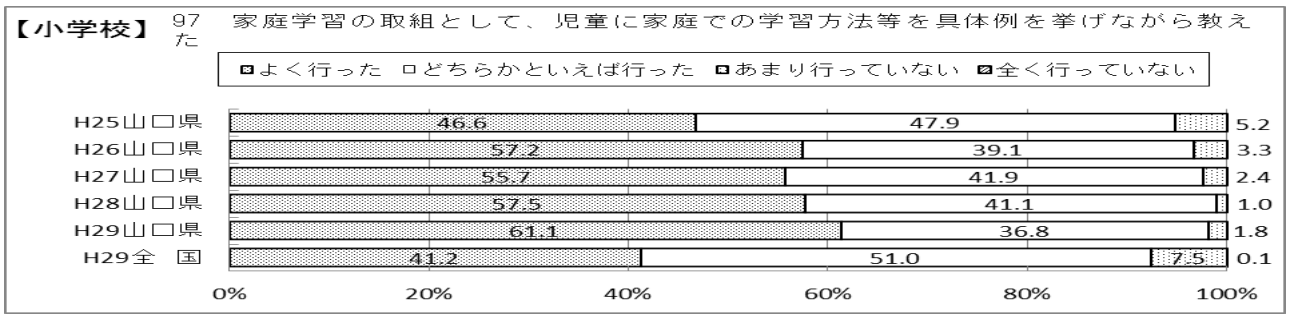


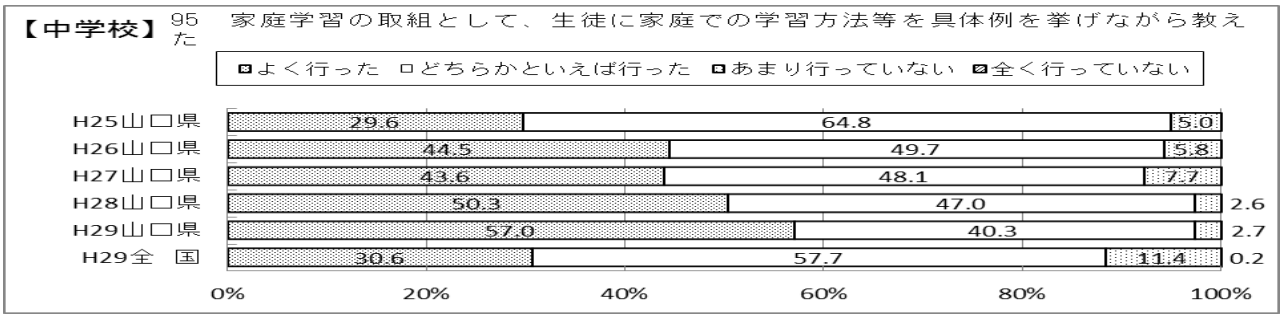
④　自主学習の充実

ア　家庭での学習方法等の具体的な説明

○　家庭学習の取組として、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えた学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　家庭での学習習慣の定着や効果的な学習を進めるためにも、家庭での学習方法や内容についての具体的な指導を行う場や時間の設定、提出された家庭学習の適切な評価、理解できるまでの丁寧な指導など、児童生徒が意欲的に家庭学習に臨める工夫をする必要がある。また、家庭との連携により、学校と家庭の双方で、子どもの学習を支えていく体制を整えていく必要がある。



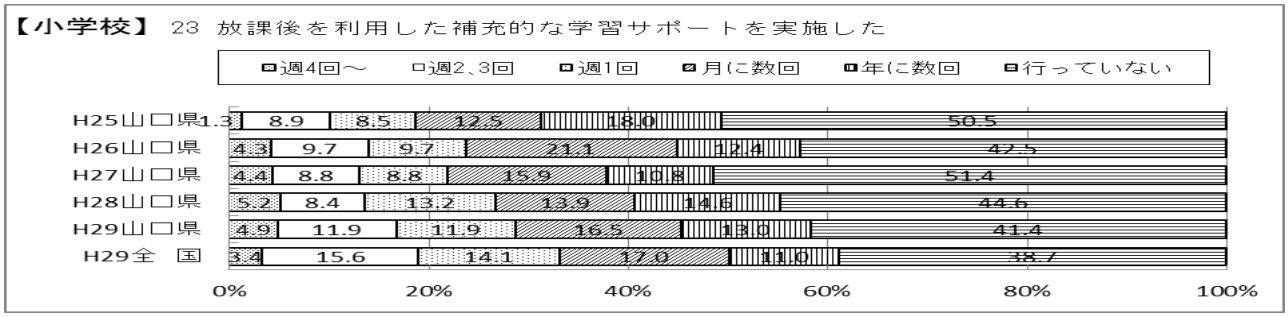


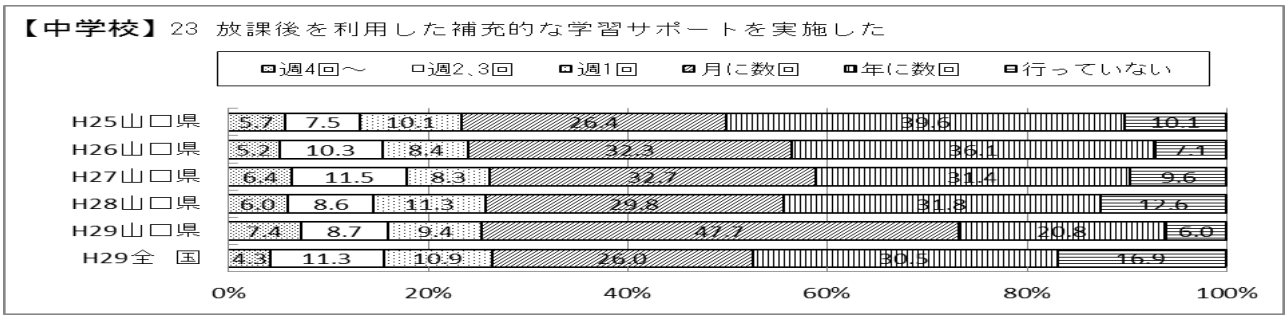
⑤　補充学習

ア　放課後の補充学習の実施

●　放課後を利用した補充的な学習サポートを実施していない小学校の割合は、減少傾向にあるものの、全国に比べて高い。

☞　放課後に限らず、各学校の実情に応じて、朝や休み時間等も利用しながら、児童生徒の学力状況に応じた補充学習の充実を図っていく必要がある。



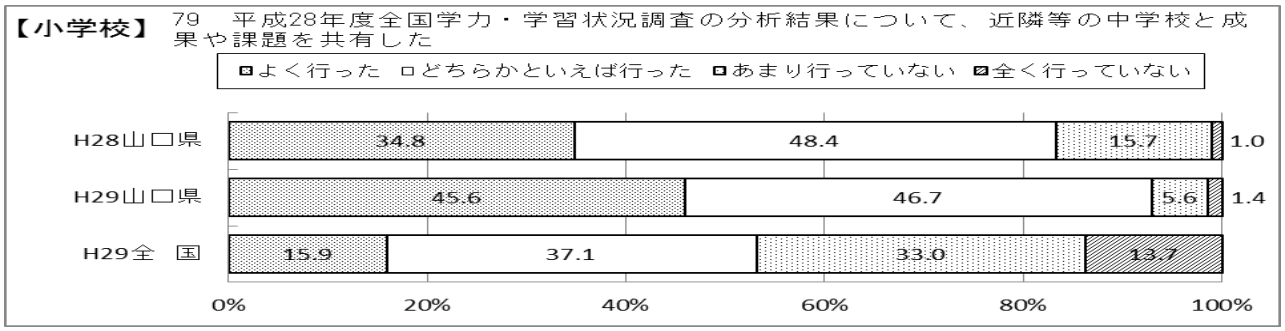


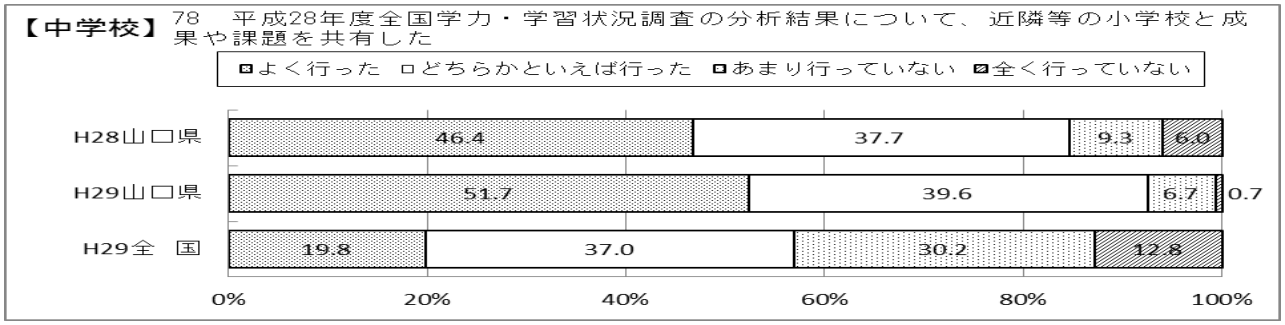
⑥　小中連携

ア　全国学力・学習状況調査の結果の共有

○　全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題を共有した学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　今後も、各中学校区で、児童生徒の学力状況について具体的な情報を共有することで、小・中学校のつながりを意識し、９年間で児童生徒を育てていく体制を充実させる必要がある。

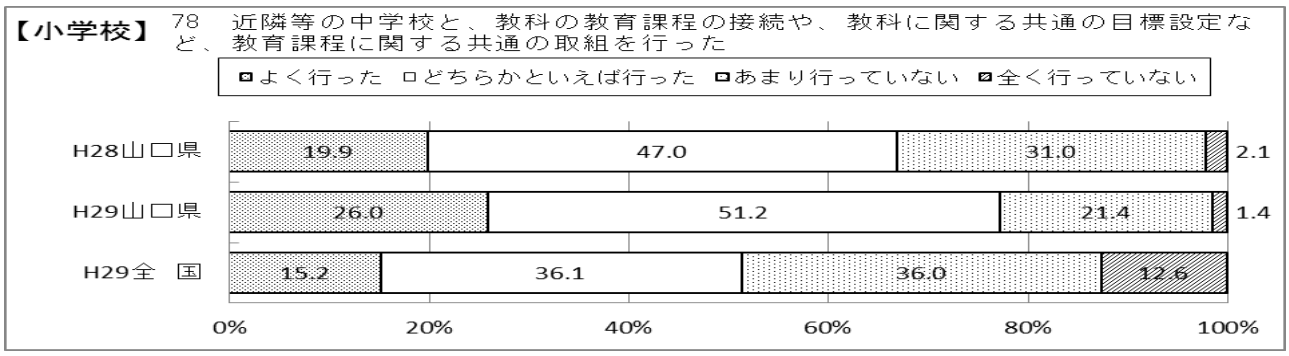


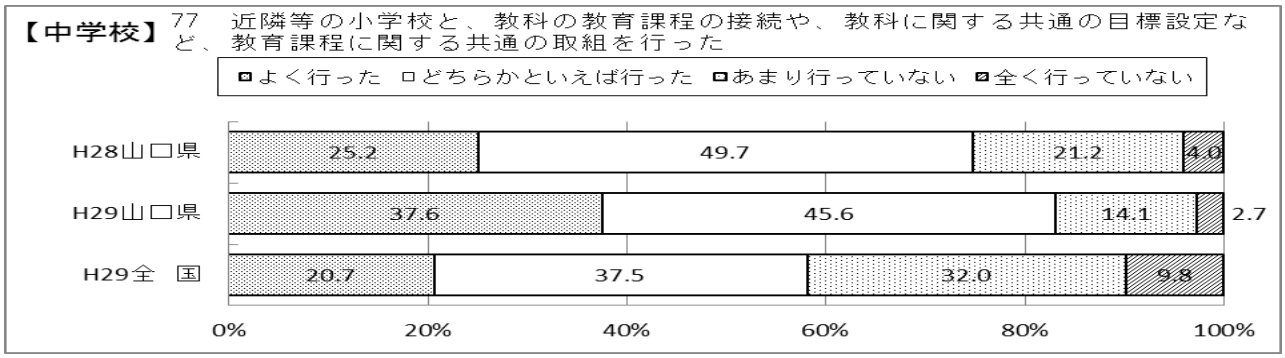


イ　教育課程に関する共通の取組の実施

○　近隣等の小・中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行った学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　今後も、小中合同研修会等の機会を活用し、小中連携カリキュラムを作成・修正すること等により、小・中学校で育てたい子ども像を共有し、学習内容のつながりを意識した取組を推進する必要がある。



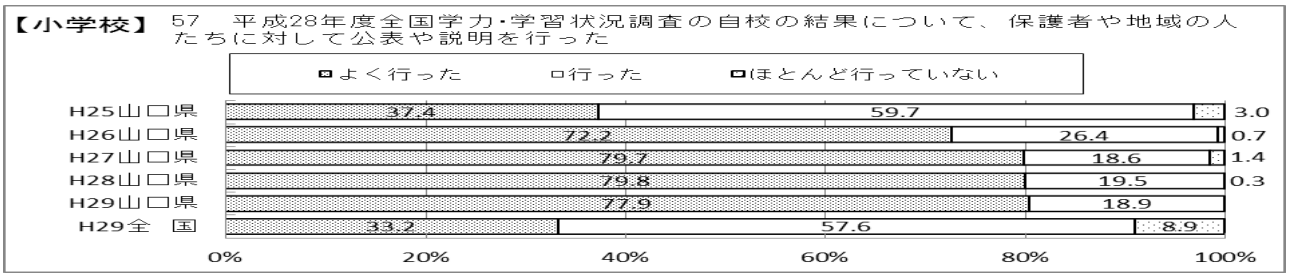


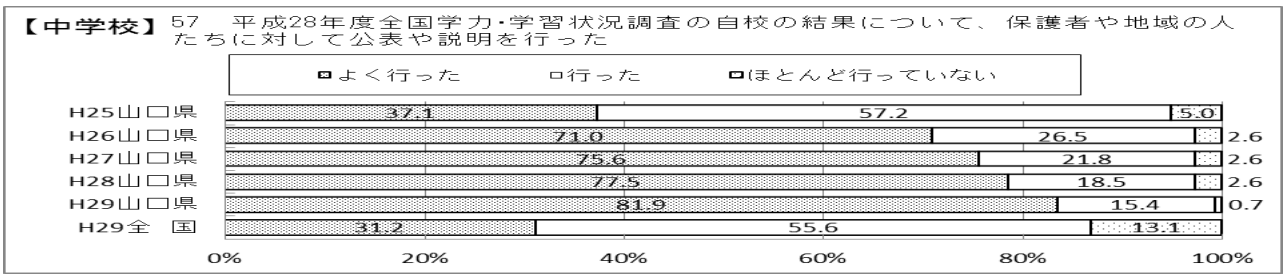
⑦　地域との連携

ア　全国調査の結果を公表

○　全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域に対して公表や説明を行った学校の割合は、全国に比べて高い。

☞　今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用すること等により、子どもたちの学力状況を保護者や地域と共通理解し、成果と課題を踏まえた上で、学校教育を通じて育む資質・能力について、認識を共有する必要がある。

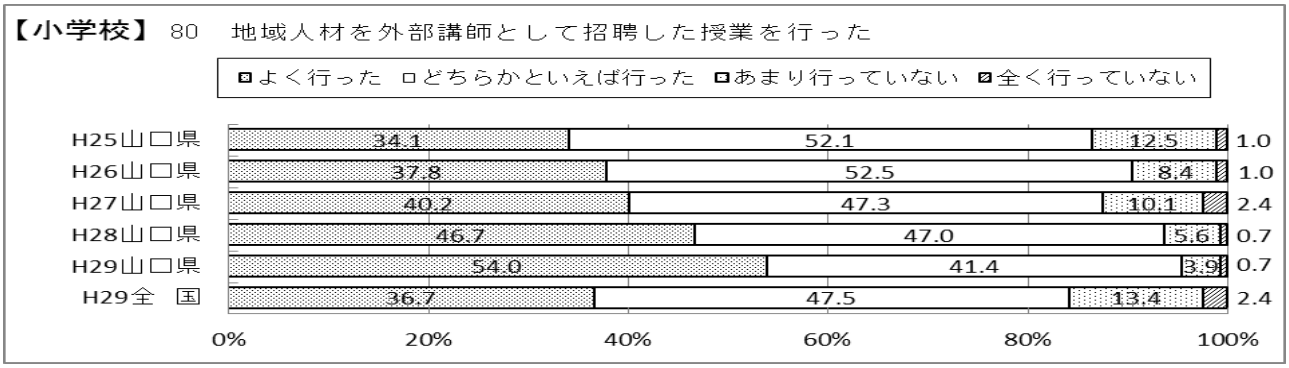


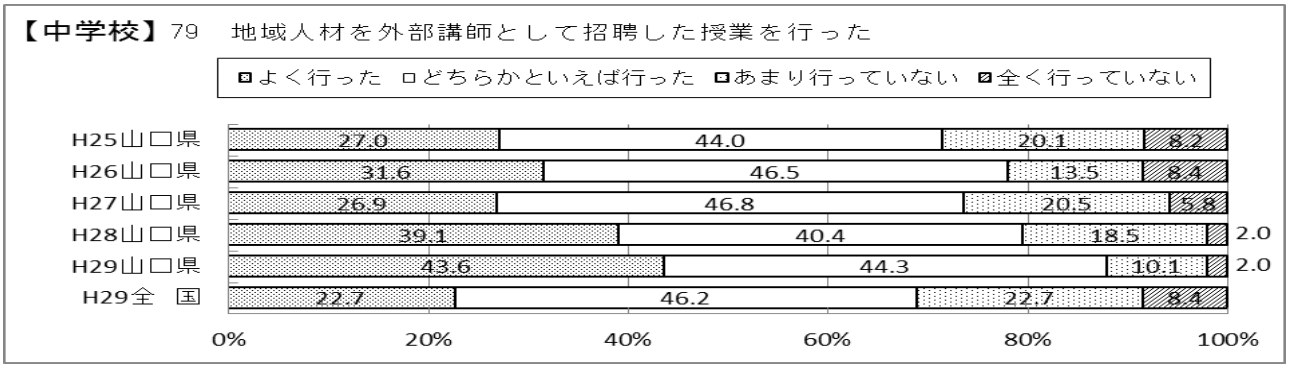


イ　地域人材を外部講師として招聘した授業の実施

○　地域人材を外部講師として招聘した授業を実施した学校の割合は、全国と比べて高く、年々増加している。

☞　キャリア教育の視点からも、今後もコミュニティ・スクールの仕組みを活用すること等により、様々な分野における地域人材の発掘と効果的な活用を図っていく必要がある。

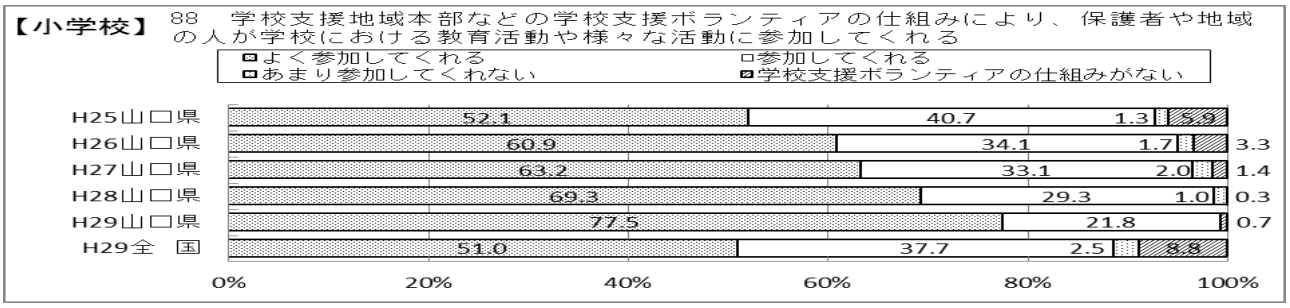


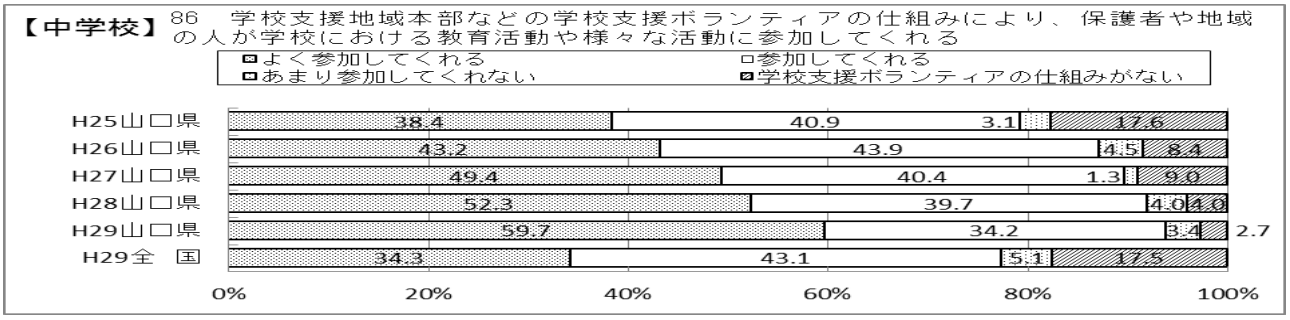


ウ　学校支援ボランティアの仕組みによる教育活動への参加

○　学校支援ボランティアの仕組みにより、保護者や地域の人が学校における教育活動や様々な活動に参加してくれると答えた学校の割合は、全国に比べて高く、小・中学校ともに年々増加している。

☞　保護者や地域の人の学校への参画意識が高まっている。今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用すること等により、学校と保護者、地域の連携・協働を進めていく必要がある。

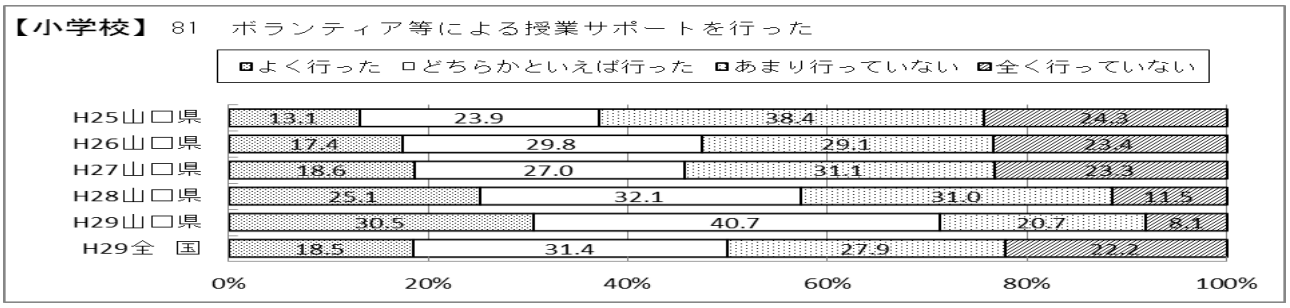


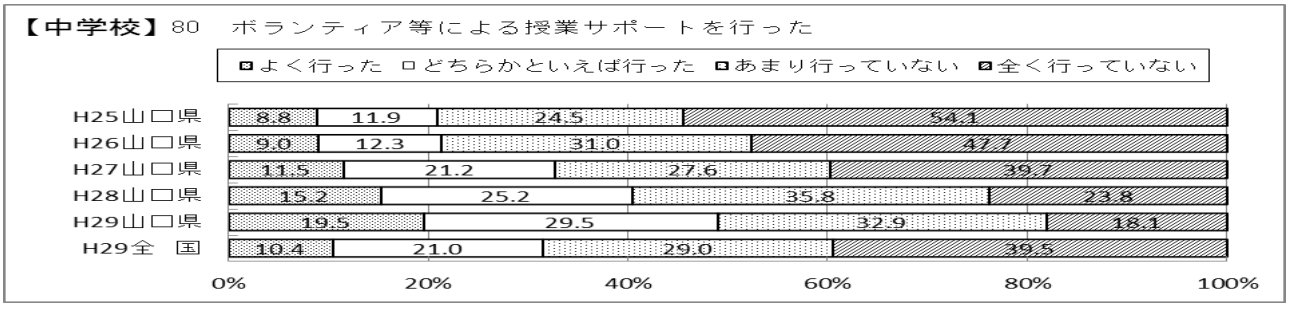


エ　ボランティア等による授業サポート

○　ボランティア等による授業サポート（補助）を行った学校の割合は、全国と比べて高く、年々増加している。

☞　子どもたちに対するきめ細かな支援を行い、地域全体で子どもを支える体制を整えるために、今後も、コミュニティ・スクールの仕組みを活用すること等により、保護者や地域の人の参画意識を高める働きかけをするなど、地域人材の効果的な活用を図っていく必要がある。



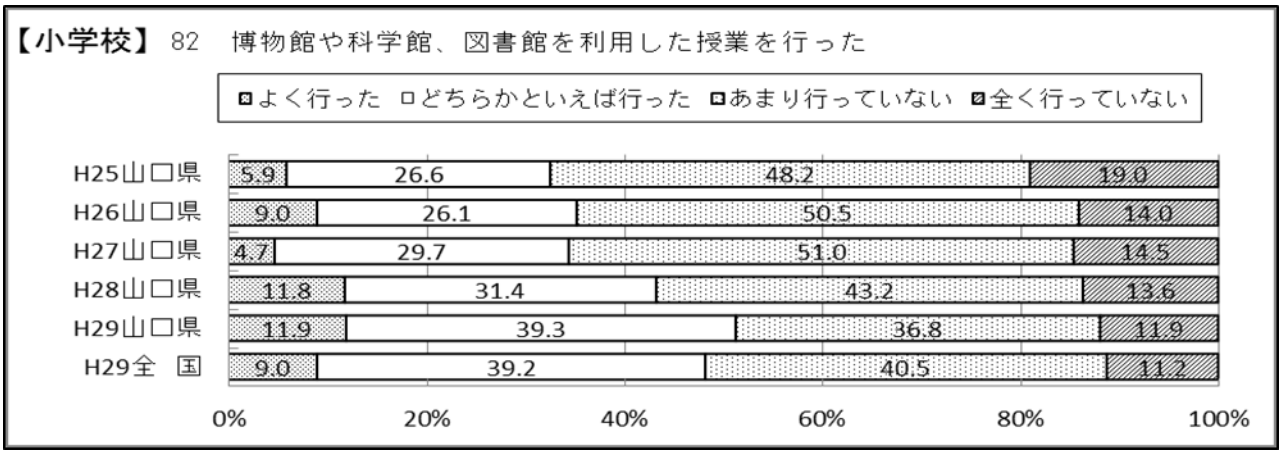


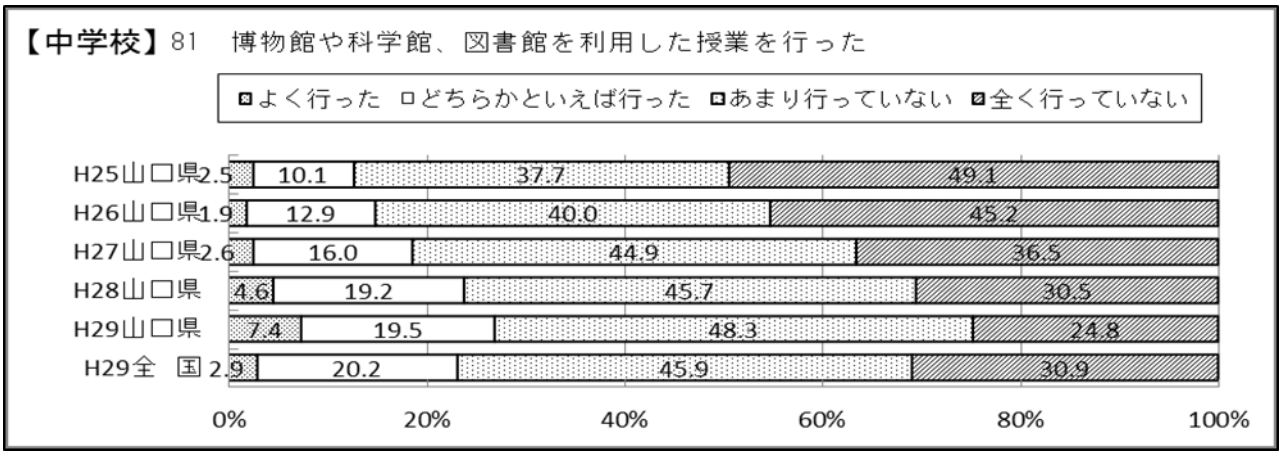
⑧　教育施設の活用

ア　博物館や科学館、図書館の授業での活用

○　博物館や科学館、図書館を利用した授業を行った学校の割合は、増加傾向にあり、全国に比べて高い。

☞　今後も、博物館や科学館を利用して自然科学に興味をもたせたり、図書館を利用して、幅広い分野の書物に触れ、調べ活動をさせたりする授業を展開する必要がある。





学力向上に向けた今後の取組

調査結果等から明らかとなった成果と課題を踏まえ、各学校の課題解決に向けた取組が具体化され、適切な実施が図られるよう、各学校、市町教委、県教委の連携を一層強化するとともに、「やまぐち型地域連携教育」の仕組みを生かした、学校・家庭・地域との連携・協働を基盤とした４つの重点取組事項を柱に、子どもたち一人ひとりの確かな学力の定着・向上に向けた取組に、引き続き全力で取り組む。

山口県学力向上キャッチフレーズ　わかる喜び　できる楽しさ　学び続けるやまぐちっ子
～高めよう授業力　育てよう学習力～

学　校

①　学校の組織的な取組

○全国学力・学習状況調査、山口県学力状況確認問題を活用した年２回の検証改善サイクルに基づく取組の充実
・学力分析支援ツールや「学力向上支援資料」等の活用による学校の具体的な成果と課題の表出・焦点化
・課題解決に向けた「学力向上プラン」の見直し、全校体制での具体的な取組の充実　等
○コミュニティ・スクール等の仕組みを活用したユニット型研修や授業評価の積極的な実施

②　指導方法の工夫改善

○日常的な授業改善の推進と授業力向上に向けた校内研修の活性化
・「授業づくりと評価の手引き【改訂版】」等の指導資料の活用
・学力向上推進リーダー等の効果的な活用による、各学校の課題に応じた具体的な授業改善（基礎的・基本的な知識・技能の定着、数学的な表現力の育成等）
○各種研修会への積極的な参加と、研修成果の共有・活用
○「やまぐち学習支援プログラム」の効果的な活用

③　学習環境の整備

○学習規律（きまり、けじめ、規範意識）の確立・徹底
○学びを促す学習環境づくり（教室環境や学校図書館の整備、教材教具の整備等）の推進
○地域人材を活用した学習支援体制づくり
○小中の合同研修会や相互乗り入れ指導による各教科の専門性の向上など、校種間連携の取組の充実

④　学習習慣の確立

○一人ひとりの課題に応じた補充学習の実施
・「やまぐちっ子学習プリント」等の活用
○児童生徒が計画的に家庭学習や自主学習を進めるための指導と評価の充実
○家庭や地域との連携・協働に向けた積極的な情報発信
・全国学力・学習状況調査と県学力定着状況確認問題の結果や取組方策について情報提供
・学力分析支援ツール個人票を活用した家庭との児童生徒の学力状況の共有
・コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した、学力向上をテーマとした熟議の実施や学習支援体制の整備

家庭・地域

☆　生活・学習習慣の確立

○規則正しい生活リズムの定着
○携帯電話・スマートフォンの利用、テレビの視聴、ゲーム等に関する家庭のルールづくり
○計画を立てて、決めた時間・場所で勉強するなど、家庭学習の習慣化
○「やまぐちっ子学習プリント」「みんなでチャレンジ学習プリント」の活用

☆　学校との連携

○子どもの学習の様子等についての積極的な相談や情報共有
○授業参観や授業評価、懇談会等への積極的な参加
○学力分析支援ツールの個人票をもとにした子どもの学力傾向の把握と家庭学習の充実
○コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した学習支援ボランティアなどへの積極的な参加

市町教委

①　学校の組織的な取組

○年２回の検証改善サイクルを活用した取組の充実支援
　・学力分析支援ツールの活用による学校ごとのきめ細かな分析と課題解決に向けた具体的な取組支援
○各研究指定校の取組支援
○県教委との合同研修会等での、数学的な思考力・表現力の育成等、本県の学力課題の共有と、改善に向けた施策や各学校の課題解決に向けた具体的な支援方法等の共通理解
○指導主事の学校担当制による継続的・効果的な学校訪問による各学校に応じた組織的な取組の支援
○課題解決に向けた「学力向上プラン」の改善、各学校の課題に応じた研修の実施等への支援の充実

②　指導方法の工夫改善

○校内研修での指導助言などによる、各学校の学力課題の解決に応じた指導方法・内容の改善及び教員の授業力向上の支援
○学力向上推進リーダー等の効果的な活用（各学校の課題解決に向けた授業改善の指導の充実）
○先進校の取組や優れた授業実践事例等の情報収集・提供

③　学習環境の整備

○各学校の課題解決に向けた加配教員等の取組の進行管理
○調査結果をもとにした学びを促す学習環境づくりの推進
○教育課程の円滑な接続や各教科等の専門性の向上に向けた校種間連携の具体的な取組支援

④　学習習慣の確立

○生活リズムの定着や家庭学習の習慣化等に向けた保護者への啓発
○コミュニティ・スクール等における学力に関する情報提供や取組の協議、地域人材による学習支援等の各学校の取組支援

県教委

①　学校の組織的な取組

○年２回の検証改善サイクルを活用した取組の充実推進
　・学力定着状況確認問題の一斉実施
　・学力分析支援ツールの活用によるきめ細かな分析と課題解決に向けた取組支援
　・調査結果から把握した成果や課題、今後の取組等についての情報提供
○国・県研究指定校の取組支援と成果の普及
○市町教委との合同研修会による施策や学校の取組等の共通理解と情報交換
○学校の課題に応じ、市町教委と連携した重点的・継続的な学校訪問と取組支援
○コミュニティ・スクール等の仕組みを活用した組織的な学力向上体制の整備促進と効果的な事例の積極的な普及

②　指導方法の工夫改善

○「やまぐち学習支援プログラム」の活用促進
○各種研修会の充実による、キャリアステージや教科の専門性等に応じた教員の指導力向上支援
○「授業づくりと評価の手引き【改訂版】」等の指導資料を活用した日常的な授業改善の取組推進
○市町教委指導主事や学力向上推進リーダー等との情報共有と、各学校の課題解決に向けた支援
○「学力向上だより」等による調査結果の分析や学力向上に向けた取組等の情報提供

③　学習環境の整備

○全小・中学校の３５人学級化の継続及び学校の実情に応じた課題解決型の少人数指導の一層の充実
○調査結果をもとにした学びを促す学習環境づくりの推進
○教育課程の円滑な接続や各教科等の専門性の向上に向けた校種間連携に係る学校・市町教委の取組の支援

④　学習習慣の確立

○新学習指導要領の趣旨に沿った「やまぐちっ子学習プリント」への改訂・整備と活用促進
○学力分析支援ツール個人票の提供による学校と家庭との情報共有の支援
○生活リズムの定着や家庭学習の習慣化等のため、広報誌やWEBページによる保護者への啓発

☆　「やまぐち型地域連携教育」の仕組み等を活用した地域ぐるみでの学力向上の取組の促進
☆　「学力向上推進フォーラム」の開催を通した社会総がかりによる学力向上の気運醸成